

平成16年度

# 児童生徒の学習に関する基本調査

平成17年3月

沖縄県立総合教育センター

## はじめに

学習指導要領では、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育むことなどのねらいを実現するために、教育内容の厳選及び個に応じた指導の充実による基礎・基本の確実な定着を図ることを求めている。

その一方で、2003年になされたOECD（経済協力開発機構）による生徒の学習到達度調査（PISA）に関する文部科学省の分析では、我が国の学力は国際的に見て上位に位置するものの、学ぶ意欲や学習習慣に課題があることなどが指摘されている。

学習指導要領の趣旨やねらいを踏まえて、個に応じた指導の工夫・改善を進めることで、「わかる授業」をなお一層実現し、児童生徒の学習意欲の向上を図ることが、これまで以上に望まれている。

しかし、個に応じた指導の工夫・改善が児童生徒の実情に合致したものでなければ、それは有効なものとなり得ないであろう。そのために、児童生徒の実態を的確に把握することが必要となる。

当総合教育センターでは、今年度のプロジェクト研究として「平成16年度 児童生徒の学習に関する基本調査」を実施した。これは、児童生徒の学習意欲と学習習慣の状況が平成10年度になされた前回調査から6年を経て、どのように変容しているのか調査することを目的としている。そのため、今回調査においては、前回調査結果との比較を可能な限り試みることに分析と考察の視点を据えている。また、今回調査では、この6年間における教育政策の動向に立脚した新たな設問を加えることにより、児童生徒の実態を的確に把握することを試みている。

本報告書においては、今回調査結果の分析及び考察を踏まえ、本県の児童生徒の直面する学習上の課題解決に向けて、「学習意欲の向上」と「学習習慣の定着」、さらには「学習指導の充実」を柱とする19の項目について提言している。

最後に、多忙な中で、本調査への協力を快諾して頂いた各調査協力校の関係者をはじめとする多くの方々に対し、心から御礼申し上げますと同時に、本報告書が今後の学習指導の工夫・改善を図る上での一助となることを祈念する次第である。

平成17年3月

沖縄県立総合教育センター  
所 長 前 泊 豊 光

## 添付資料

「平成 16 年度 児童生徒の学習に関する基本調査」調査票

- (1) 小学生用
- (2) 中学用
- (3) 高校生用
- (4) 教師用

**【小学用】**

調査のお願い

これはテストではありません。沖縄県の子どものための勉強の様子を調べるためのものです。思ったことをそのまま答えてください。

1 あなたのことを教えてください

(1) 性別 : 1 男子 2 女子

(2) 学校名 : ( )

(3) 学年 組 : ( ) 年 ( ) 組

2 あなたは、勉強する意欲(勉強しようと思う気持ち)があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない

3 あなたは、いっしょうけんめい勉強することがどのようなことに役立つと思いますか。次の中から、あなたが役立つと思うものを順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 大きな会社に入る
2. お金持ちになって豊かな生活を送る
3. 心豊かな生活を送る
4. 高い地位につく(出世する)
5. 尊敬(そんけい)される人になる
6. よいお父さん、お母さんになる
7. 社会のために良いことをする
8. 大学へ入れる
9. 成績をよくする

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

4 あなたは、次の勉強がどのくらい好きですか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても好き	好き	どちらとも言えない	嫌い	とても嫌い
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 算数	1	2	3	4	5
3. 社会	1	2	3	4	5
4. 理科	1	2	3	4	5
5. 音楽	1	2	3	4	5
6. 図画工作	1	2	3	4	5
7. 体育	1	2	3	4	5
8. 家庭	1	2	3	4	5
9. 総合的な学習の時間	1	2	3	4	5

5 あなたは、次の授業の内容がどのくらいわかりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	ほとんどわかる	わかる	半分ぐらいわかる	あまりわからない	ほとんどわからない
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 算数	1	2	3	4	5
3. 社会	1	2	3	4	5
4. 理科	1	2	3	4	5
5. 音楽	1	2	3	4	5
6. 図画工作	1	2	3	4	5
7. 体育	1	2	3	4	5
8. 家庭	1	2	3	4	5
9. 総合的な学習の時間	1	2	3	4	5

6 あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。あなたが特にがんばりたいと思うものを順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

【回答欄】

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 音楽  
6. 図画工作 7. 体育 8. 家庭  
9. 総合的な学習の時間

1 番目	
2 番目	
3 番目	

7 あなたの授業中のようすについて聞きます。次の中から、あなたの授業中の様子で、あてはまると思われるものを順に3つまで選び番号を回答欄に書いてください。

1. 先生の話をもじりに聞いている
2. わからないことは、質問したり、調べたりしている
3. きちんとノートをとっている
4. よくいぬわりをする
5. よく落書きをしたり、文房具で遊んだりしている
6. 周囲の人とよくおしゃべりする
7. よく他の教科の勉強をする
8. よくポーツと他のことを考えている
9. よく携帯電話をいじっている

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

8 あなたは、授業中にわからないことばや問題などであつたらどうしていますか。次の中から、あなたが注におこなっていることを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 辞典や参考書などを利用して、自分で調べる
2. 自分から進んで先生か友達に教えてもらう
3. 誰かが教えてくれるのを待つ
4. 調べないで、そのままにする

9 あなたは次にあげる学校の授業方法はどれくらい好きですか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、つぎにあげる授業方法を学校でやっていない場合は、「やっていない 5」に○をつけてください。

	とても好き	好き	好きでない	ぜんぜん好きでない	やっていない
1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	1	2	3	4	5
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
4. ドリルやプリントを使ってする授業	1	2	3	4	5
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	1	2	3	4	5
6. コンピュータを使ってする授業	1	2	3	4	5
7. 学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査	1	2	3	4	5
8. いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査	1	2	3	4	5
9. 友達と話し合いながら進めていく授業	1	2	3	4	5
10. 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業	1	2	3	4	5

10 あなたは月曜日～金曜日に、家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人はうらのページにある14に進んでください)

11 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(りょうやしきしゅくしゃ、下宿などをふくむ)
2. 塾
3. 学校での放課後の補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

12 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に1日平均、何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強もふくむ)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい 2. 1時間ぐらい 3. 2時間ぐらい 4. 3時間以上

＜うらのページへ進んでください＞

13 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの月曜日～金曜日の家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)の内容について聞きます。次の中からあてはまるものを2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

14 10で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境(かんきょう)や雰囲気(ふんいき)がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない

【回答欄】

1 番号	
2 番号	
3 番号	

6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 土曜日もしくは日曜日に勉強をするので平日にはしない

15 あなたは毎週土曜日に、家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は19にすんでください)

16 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(りょうやしきしゅくしゃ、下宿などをふくむ)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

17 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強もふくむ)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

18 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週土曜日における家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)の内容について、次の中からあてはまるものを2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

19 15で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境(かんきょう)や雰囲気(ふんいき)がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、ラジオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは日曜日に勉強をするので土曜日にはしない

【回答欄】

1 番号	
2 番号	
3 番号	

20 あなたは毎週日曜日に、家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は24にすんでください)

21 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(りょうやしきしゅくしゃ、下宿などをふくむ)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

22 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

23 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週日曜日における家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について、次の中からあてはまるものを、2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強もいっしょうけんめいする
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

24 20で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境(かんきょう)や雰囲気(ふんいき)がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは土曜日に勉強をするので日曜日にはしない

【回答欄】

1 番号	
2 番号	
3 番号	

25 あなたが1日にテレビを見る時間は、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. ほとんど見ない
2. 30分ぐらい
3. 1時間ぐらい
4. 2時間ぐらい
5. 3時間以上

<3ページ目へ進んでください>

26 あなたは勉強や進学のことを保護者に相談しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. よく相談している 2. ときどき相談している 3. 相談しない

27 あなたは、保護者から、次のようなことを言われたりすることがありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	あまり			
	よくある	ある	ない	ない
1. 「勉強しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
2. 「テレビばかり見て」と言われる・・・	1	2	3	4
3. 「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
4. 「勉強をコツコツ努力しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
5. 「勉強をあきらめないでがんばりなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
6. 「大学に入らなければだめ」と言われる・・・	1	2	3	4

28 あなたは今、学習塾へ行っていますか（そろばん、習字、ピアノ、水泳などのおけいこごとはのぞきます）。

1. 行っている 2. 行っていない

29 学習塾に行っている人に聞きます。週に何日学習塾へ行っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

30 学習塾に行っている人に聞きます。だれのすすめで学習塾に行くようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. きょうだい 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身 6. その他

31 学習塾に行っている人に聞きます。あなたが学習塾に行っている理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため  
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから  
3. 学校の成績を上げるため  
4. 行かないより行ったほうがよいから  
5. 中学受験のため  
6. 友だちが行っているから

32 あなたは今、家庭教師から勉強を教えてもらっていますか。

1. 教えてもらっている 2. 教えてもらっていない

33 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。週に何日教えてもらっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

34 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。だれのすすめで家庭教師から教えてもらうようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. きょうだい 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身 6. その他

35 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。あなたが家庭教師から教えてもらう理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため  
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから  
3. 学校の成績を上げるため  
4. 教えてもらわないより教えてもらったほうが良いから  
5. 中学受験のため  
6. 友だちが教えてもらっているから

36 成績を上げるためには、どんなことが大切だと思いますか。次の中から、あなたが大切だと思う順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 努力  
2. じょうずな勉強法  
3. 自分にあった問題集・参考書（ワークブック、ドリル）  
4. 授業をしっかりと聞く  
5. 生まれつきの能力  
6. 人に負けたくないという気持ち  
7. 家庭の協力  
8. 学習塾に行く  
9. 教え方のじょうずな先生

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

37 あなたは勉強していて、どんなときに、「うれしい」と感じますか。次の中から、あなたが「うれしい」と感じた順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. テストの点数が上がったとき  
2. 先生からほめられたとき  
3. 保護者からほめられたとき  
4. 友だちよりテストの点数がよかったとき  
5. むづかしい問題が自分の力でできたとき  
6. 先生の質問にうまく答えることができたとき  
7. 先生の説明がよくわかったとき  
8. 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき  
9. 自分の好きな勉強のとき

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

38 あなたは勉強について、どんなことで悩んでいますか。次の中から、あなたが悩んでいる順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強のやりかたがわからない  
2. 努力しても成績が思うように上がらない  
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う  
4. どうしても好きになれない教科がある  
5. コツコツと努力できないで困る  
6. 授業の内容がわからない  
7. よい参考書や問題集（ワークブック、ドリル）が見つからない  
8. おぼえなければいけないことが多すぎる  
9. 保護者の期待が大きすぎる  
10. 先生が成績にこだわりすぎる  
11. 特に悩んでいない

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

39 あなたは将来、どの学校まで進学したいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 中学校まで 2. 高等学校まで 3. 大学まで 4. 専門学校・専修学校まで 5. まだ考えていない

40 あなたは、将来やってみたい仕事かきまっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. きまっている 2. まよっている 3. きまっていない

41 学校の良い点とは、どんなところだと思いますか。次の中から、あなたが思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

1. 基礎学力をつけるところ  
2. 友達をつくること  
3. 社会の決まりを身につけること  
4. 体力をつけること  
5. 受験勉強をすること  
6. 人間の幅をひろげるところ（豊かな人格や教養を身につけること）  
7. いきぬきをするところ

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

42 あなたの学校での友だちは、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 何でも相談できる友だちがいる  
2. 友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない  
3. 友だちは少ない  
4. 友だちはまったくいない

<これで終わりです。ご協力ありがとうございました>

**【中学用】**

調査のお願い

これは沖縄県の中学生の学習についての考え方や学習の様子を調べるためのアンケートです。テストではありませんので、自分の気持ちのとおりにお答えください。

1 あなた自身のことについて聞きます

(1) 性別 : 1 男子 2 女子

(2) 学校名 : ( )

(3) 学年 組 : ( ) 年 ( ) 組

2 あなたは、勉強する意欲(勉強しようと思う気持ち)があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない

3 あなたは一生懸命勉強することがどのようなことに役立つと思いますか。次の中から、あなたが役立つと思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

1. 大きな会社に入る
2. お金持ちになって豊かな生活をする
3. 精神的に豊かな生活をする(心豊かな生活をするのに)
4. 高い地位につく(出世する)
5. 尊敬(そんけい)される人になる
6. よいお父さん、お母さんになる
7. 社会のために良いことをする
8. 大学へ入る
9. 成績をよくする

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

4 あなたは、次の勉強がどのくらい好きですか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても好き	好き	どちらとも 言えない	嫌い	とても嫌い
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 数学	1	2	3	4	5
3. 社会	1	2	3	4	5
4. 理科	1	2	3	4	5
5. 音楽	1	2	3	4	5
6. 美術	1	2	3	4	5
7. 保健体育	1	2	3	4	5
8. 技術・家庭	1	2	3	4	5
9. 英語	1	2	3	4	5
10. 総合的な 学習の時間	1	2	3	4	5

5 あなたは、次の授業の内容がどのくらいわかりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください

	ほとんどわかる	だいたいわかる	半分ぐらいわかる	あまりわからない	ほとんどわからない
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 数学	1	2	3	4	5
3. 社会	1	2	3	4	5
4. 理科	1	2	3	4	5
5. 音楽	1	2	3	4	5
6. 美術	1	2	3	4	5
7. 保健体育	1	2	3	4	5
8. 技術・家庭	1	2	3	4	5
9. 英語	1	2	3	4	5
10. 総合的な 学習の時間	1	2	3	4	5

6 あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。あなたが特にがんばりたいと思うものを順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科  
5. 英語 6. 音楽 7. 美術 8. 体育  
9. 技術・家庭 10. 総合的な学習の時間

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

7 あなたの授業中の様子について聞きます。次の中から、あなたの授業中の様子で、あてはまると思われるものを順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 先生の話をもじりに聞いている
2. わからないことは、質問したり、調べたりしている
3. きちんとノートをとっている
4. よくいぬわりをする
5. よく落書きをしたり、文房具で遊んだりしている
6. 周囲の人とよくおしゃべりする
7. よく他の教科の勉強をする
8. よくポーツと他のことを考えている
9. よく携帯電話をいじっている

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

8 あなたは、授業中にわからないことばや問題などに出合ったらどうしていますか。次の中から、あなたが注に行っていることを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 事典や参考書などを利用して、自分で調べる
2. 自分から進んで先生か友達に教えてもらう
3. 誰かが教えてくれるのを待つ
4. 調べないで、そのままにする

9 あなたは次にあげる学校の授業方法はどれくらい好きですか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、つぎにあげる授業方法を学校でやっていない場合は、「やっていない」に○をつけてください。

	とても好き	好き	好きでない	ぜんぜん好きでない	やっていない
1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	1	2	3	4	5
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
4. ドリルやプリントを使ってする授業	1	2	3	4	5
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	1	2	3	4	5
6. コンピュータを使ってする授業	1	2	3	4	5
7. 学校外のいろいろな場所に行きながらする授業や調査	1	2	3	4	5
8. いろいろな人に聞きに行きながらする授業や調査	1	2	3	4	5
9. 友達と話しながら進めていく授業	1	2	3	4	5
10. 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業	1	2	3	4	5

10 あなたは月曜日～金曜日に、家での勉強(塾などでの勉強もふくむ)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は裏のページにある 14 に進んでください)

11 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での放課後の補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

12 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に1日平均、何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)をしていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい 2. 1時間ぐらい 3. 2時間ぐらい 4. 3時間以上

13 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの月曜日～金曜日の家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について聞きます。次の中からあてはまるものを、2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

<裏のページへ進んでください>

14 10で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 土曜日もしくは日曜日に勉強をするので平日にはしない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

15 あなたは毎週土曜日に、家での勉強(塾などでの勉強も含む)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は19に進んでください)

16 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

17 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

18 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週土曜日における家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について、次の中からあてはまるものを2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

19 15で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、ラジオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは日曜日に勉強をするので土曜日にはしない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

20 あなたは毎週日曜日に、家での勉強(塾などでの勉強も含む)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は24に進んでください)

21 20 1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

22 20 1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

23 20 1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週日曜日における家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について、次の中からあてはまるものを、2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強もいっしょうけんめいする
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

24 20で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは土曜日に勉強をするので日曜日にはしない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

25 あなたが1日にテレビを見る時間は、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. ほとんど見ない
2. 30分ぐらい
3. 1時間ぐらい
4. 2時間ぐらい
5. 3時間以上

26 あなたは勉強や進学のことなどを保護者に相談しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. よく相談している
2. ときどき相談している
3. 相談しない

<3ページ目へ進んでください>

27 あなたは、保護者から次のようなことを言われたりすることがありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	よくある	ある	あまりない	ほとんどない
1. 「勉強しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
2. 「テレビばかり見て」と言われる・・・	1	2	3	4
3. 「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
4. 「勉強をコツコツ努力しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
5. 「勉強をあきらめないでがんばりなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
6. 「大学に入らなければだめ」と言われる・・・	1	2	3	4

28 あなたは今、学習塾へ行っていますか（そろばん、習字、ピアノ、水泳などのおけいこごとはのぞきます）。

1. 行っている 2. 行っていない

29 学習塾に行っている人に聞きます。週に何日学習塾へ行っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 3. 4日以上

30 学習塾に行っている人に聞きます。だれのすすめで学習塾に行くようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. 兄弟 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身  
6. その他

31 学習塾に行っている人に聞きます。あなたが学習塾に行っている理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから
3. 学校の成績を上げるため
4. 行かないより行ったほうがよいから
5. 高校受験のため
6. 友だちが行っているから

32 あなたは今、家庭教師から勉強を教えてもらっていますか。

1. 教えてもらっている 2. 教えてもらっていない

33 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。週に何日教えてもらっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

34 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。だれのすすめで家庭教師から教えてもらうようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. 兄弟 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身  
6. その他

35 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。あなたが家庭教師から教えてもらう理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから
3. 学校の成績を上げるため
4. 教えてもらわないより教えてもらったほうが良いから
5. 高校受験のため
6. 友だちが教えてもらっているから

36 成績を上げるためには、どんなことが大切だと思いますか。次の中から、あなたが大切だと思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 努力
2. 上手な勉強法
3. 自分にあった問題集・参考書（ワークブック、ドリル）
4. 授業をしっかりと聞く
5. 生まれつきの能力
6. 人に負けたくないという気持ち
7. 家庭の協力
8. 学習塾に行く
9. 教え方のじょうずな先生

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

37 あなたは勉強していて、どんなときに、「うれしい」と感じますか。次の中から、あなたが「うれしい」と感じた順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. テストの点数が上がったとき
2. 先生からほめられたとき
3. 保護者からほめられたとき
4. 友だちよりテストの点数がよかったとき
5. むづかしい問題が自分の力でできたとき
6. 先生の質問にうまく答えることができたとき
7. 先生の説明がよくわかったとき
8. 勉強の目標や計画がはっきりしているとき
9. 自分の好きな勉強（教科）のとき

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

38 あなたは勉強について、どんなことで悩んでいますか。次の中から、あなたが悩んでいる順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強のやりかたがわからない
2. 努力しても成績が思うように上がらない
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う
4. どうしても好きになれない教科がある
5. コツコツと努力できないで困る
6. 授業の内容がわからない
7. よい参考書や問題集（ワークブック、ドリル）が見つからない
8. おぼえなければいけないことが多すぎる
9. 保護者の期待が大きすぎる
10. 先生が成績にこだわりすぎる
11. 特に悩みはない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

39 あなたは将来、どの学校まで進学したいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 中学校まで 2. 高等学校まで 3. 高等専門学校まで 4. 短期大学まで  
5. 4年生大学以上 6. 専門学校・専修学校まで 7. まだ考えていない

40 あなたは、将来やってみたい仕事かきまっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. きまっている 2. まよっている 3. きまっていない

41 学校の良い点とは、どんなところだと思いますか。次の中から、あなたが思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

【回答欄】

1. 基礎学力をつけること
2. 友達をつくること
3. 社会の決まりを身につけること
4. 体力をつけること
5. 受験勉強をすること
6. 人間の幅をひろげること（豊かな人格や教養を身につけること）
7. いきぬきをすること
8. きゅうくつなところ

1 番目	
2 番目	
3 番目	

42 あなたの学校（学級や部活も含む）での友人関係は、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 何でも相談できる友人がいる
2. 友人はいるが、何でも相談できる友人はいない
3. 友人は少ない
4. 友人はまったくいない

<以上です。ご協力ありがとうございました>

**【高校用】**

調査のお願い

これは沖縄県の高校生の学習についての考え方や学習の様子を調べるためのアンケートです。テストではありませんので、自分の気持ちのとおりにお答えください。

1 あなた自身のことについて聞きます

(1) 性別 : 1 男子 2 女子

(2) 学校名 : ( )

(3) 学年 組 : ( ) 年 ( ) 組

2 あなたは、勉強する意欲(勉強しようと思う気持ち)があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない

3 あなたは一生懸命勉強することがどのようなことに役立つと思いますか。次の中から、あなたが役立つと思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

1. 大きな会社に入る
2. お金持ちになって豊かな生活をする
3. 精神的に豊かな生活をする(心豊かな生活をする)
4. 高い地位につく(出世する)
5. 尊敬(そんけい)される人になる
6. よいお父さん、お母さんになる
7. 社会のために良いことをする
8. 大学へ入れる
9. 成績をよくする

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

4 あなたは、次の勉強がどのくらい好きですか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	とても好き	好き	どちらとも言えない	嫌い	とても嫌い
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 数学	1	2	3	4	5
3. 地歴	1	2	3	4	5
4. 公民	1	2	3	4	5
5. 理科(*)	1	2	3	4	5
6. 保健体育	1	2	3	4	5
7. 芸術(*)	1	2	3	4	5
8. 英語	1	2	3	4	5
9. 家庭	1	2	3	4	5
10. 専門教科(**)	1	2	3	4	5
11. 総合的な学習の時間	1	2	3	4	5

(\*) 理科には物理・化学・生物・地学を、芸術には音楽・美術・工芸・書道をそれぞれ含めるものとする。  
(\*\*) 専門教科 については、普通高校は除く。

5 あなたは、次の授業の内容がどのくらいわかりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	ほとんどわかる	だいたいわかる	半分ぐらいわかる	あまりわからない	ほとんどわからない
1. 国語	1	2	3	4	5
2. 数学	1	2	3	4	5
3. 地歴	1	2	3	4	5
4. 公民	1	2	3	4	5
5. 理科(*)	1	2	3	4	5
6. 保健体育	1	2	3	4	5
7. 芸術(*)	1	2	3	4	5
8. 英語	1	2	3	4	5
9. 家庭	1	2	3	4	5
10. 専門教科(**)	1	2	3	4	5
11. 総合的な学習の時間	1	2	3	4	5

(\*) 理科には物理・化学・生物・地学を、芸術には音楽・美術・工芸・書道をそれぞれ含めるものとする。  
(\*\*) 専門教科 については、普通高校は除く。

6 あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。あなたが特にがんばりたいと思うものを順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 国語 2. 数学 3. 地歴 4. 公民 5. 理科  
6. 保健体育 7. 芸術(音楽、美術、工芸、書道)  
8. 英語 9. 家庭 10. 専門教科 11. 総合的な学習の時間

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

7 あなたの授業中の様子について聞きます。次の中から、あなたの授業中の様子で、あてはまると思われるものを順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 先生の話をもじりに聞いている
2. わからないことは、質問したり、調べたりしている
3. きちんとノートをとっている
4. よくいぬわりをする
5. よく落書きをしたり、文房具で遊んだりしている
6. 周囲の人とよくおしゃべりをする
7. よく他の教科の勉強をする
8. よくスポーツと他のことを考えている
9. よく携帯電話をいじっている

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

8 あなたは、授業中にわからないことばや問題などに会ったらどうしていますか。次の中から、あなたが主に行っていることを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 辞典や参考書などを利用して、自分で調べる
2. 自分から進んで先生が友達に教えてもらう
3. 誰かが教えてくれるのを待つ
4. 調べないで、そのままにする

9 あなたは次にあげる学校の授業方法はどれくらい好きですか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、次にあげる勉強方法を学校でやっていない場合は、「やっていない」に○をつけてください。

	とても好き	好き	好きでない	ぜんぜん好きでない	やっていない
1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	1	2	3	4	5
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
4. ドリルやプリントを使ってする授業	1	2	3	4	5
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	1	2	3	4	5
6. コンピュータを使ってする授業	1	2	3	4	5
7. 学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	1	2	3	4	5
8. いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	1	2	3	4	5
9. 友達と話し合いながら進めていく授業	1	2	3	4	5
10. 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業	1	2	3	4	5

10 あなたは月曜日～金曜日に、家での勉強(塾などでの勉強も含む)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は 14 に進んでください)

11 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での放課後の補習
4. 地域の公民館などでの勉強会

12 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に1日平均、何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい 2. 1時間ぐらい 3. 2時間ぐらい 4. 3時間以上

<2ページ目へ進んでください>

13 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの月曜日～金曜日の家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について聞きます。次の中からあてはまるものを、2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

14 10で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 土曜日もしくは日曜日に勉強をするので平日にはしない

15 あなたは毎週土曜日に、家での勉強(塾などでの勉強も含む)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は19に進んでください)

16 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

17 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週土曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

18 15で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週土曜日における家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について、次の中からあてはまるものを、1つ選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

19 15で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、ラジオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは日曜日に勉強をするので土曜日にはしない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

20 あなたは毎週日曜日に、家での勉強(塾などでの勉強も含む)を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない(4を選んだ人は3ページにある24に進んでください)

21 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

1. 家庭(寮や寄宿舎、下宿などを含む)
2. 塾
3. 学校での補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など

22 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは毎週日曜日に平均何時間ぐらい勉強(塾などでの勉強も含む)していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 30分ぐらい
2. 1時間ぐらい
3. 2時間ぐらい
4. 3時間以上

23 20で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの毎週日曜日における家での勉強(塾などでの勉強も含む)の内容について、次の中からあてはまるものを、2つまで選び番号に○をつけてください。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強もいっしょうけんめいする
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる

24 20で「4 ほとんど勉強していない」と答えた人だけに聞きます。なぜ、ほとんど勉強していないのか、その理由を次の中から順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強する目的を見いだせない
2. 家庭に勉強する環境や雰囲気がない
3. 勉強のやりかたがわからない
4. 家庭で勉強しなくても、学校での学習(授業)になんとかついていける
5. 家の手伝いなどで勉強できない
6. テレビ、ビデオ、CDなどの視聴時間が長く、勉強できない
7. ゲーム機(ファミコン、プレイステーションなど)で遊ぶ時間が長く勉強できない
8. 部活動、もしくは地域における野球・サッカーなどの活動で帰宅時間が遅くなり勉強できない
9. 努力の割には成績が向上せず、勉強する気が起こらない
10. 平日もしくは土曜日に勉強をするので日曜日にはしない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

25 あなたが1日にテレビを見る時間は、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. ほとんど見ない
2. 30分ぐらい
3. 1時間ぐらい
4. 2時間ぐらい
5. 3時間以上

<3ページ目に進んでください>

26 あなたは勉強や進学のことを、保護者に相談しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. よく相談している 2. ときどき相談している 3. 相談しない

27 あなたは、保護者から、次のようなことを言われたりすることがありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

	よくある	わりとある	あまりない	ほとんどない
1. 「勉強しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
2. 「テレビばかり見て」と言われる・・・	1	2	3	4
3. 「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
4. 「勉強をコツコツ努力しなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
5. 「勉強をあきらめないでがんばりなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
6. 「みんなに協力し、助け合いなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
7. 「思いやりをもちなさい」と言われる・・・	1	2	3	4
8. 「大学に入らなければだめ」と言われる・・・	1	2	3	4

28 あなたは今、学習塾へ行っていますか（そろばん、習字、ピアノ、水泳などのおけいこことはのぞきます）。

1. 行っている 2. 行っていない

29 学習塾に行っている人に聞きます。週に何日学習塾へ行っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

30 学習塾に行っている人に聞きます。だれのすすめで学習塾に行くようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. 兄弟 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身  
6. その他

31 学習塾に行っている人に聞きます。あなたが学習塾に行っている理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため  
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから  
3. 学校の成績を上げるため  
4. 行かないより行ったほうがよいから  
5. 受験のため  
6. 友だちが行っているから

32 あなたは今、家庭教師から勉強を教えてもらっていますか。

1. 教えてもらっている 2. 教えてもらっていない

33 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。週に何日教えてもらっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

34 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。だれのすすめで家庭教師から教えてもらうようになりましたか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 保護者 2. 兄弟 3. 友だち 4. 学校の先生 5. 自分自身  
6. その他

35 家庭教師から勉強を教えてもらっている人に聞きます。あなたが家庭教師から教えてもらう理由としてあてはまるものを、次の中から2つまで選んで番号に○をつけてください。

1. 学校の勉強がわかるようになるため  
2. 学校の勉強より、もっとむづかしいことを習いたいから  
3. 学校の成績を上げるため  
4. 教えてもらわないより教えてもらったほうが良いから  
5. 受験のため  
6. 友だちが教えてもらっているから

36 成績を上げるためには、どんなことが大切だと思いますか。次の中から、あなたが大切だと思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 努力  
2. 上手な勉強法  
3. 自分にあった問題集・参考書（ワークブック、ドリル）  
4. 授業をしっかりと聞く  
5. 生まれつきの能力  
6. 人に負けたくないという気持ち  
7. 家庭の協力  
8. 学習塾に行く  
9. 教え方のじょうずな先生

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

37 あなたは勉強していて、どんなときに、「うれしい」と感じますか。次の中から、あなたが「うれしい」と感じた順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. テストの点数が上がったとき  
2. 先生からほめられたとき  
3. 保護者からほめられたとき  
4. 友だちよりテストの点数がよかったとき  
5. むづかしい問題が自分の力でできたとき  
6. 先生の質問にうまく答えることができたとき  
7. 先生の説明がよくわかったとき  
8. 勉強の目標や計画がはっきりとできているとき  
9. 自分の好きな勉強（科目）のとき

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

38 あなたは勉強について、どんなことで悩んでいますか。次の中から、あなたが悩んでいる順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 勉強のやりかたがわからない  
2. 努力しても成績が思うように上がらない  
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う  
4. どうしても好きになれない教科がある  
5. コツコツと努力できないで困る  
6. 授業の内容がわからない  
7. よい参考書や問題集（ワークブック、ドリル）が見つからない  
8. おぼえなければいけないことが多すぎる  
9. 保護者の期待が大きすぎる  
10. 先生が成績にこだわりすぎる  
11. 特に悩みはない

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

39 あなたは将来、どの学校まで進学したいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 高等学校まで 2. 短期大学まで 3. 4年生大学まで 4. 大学院まで  
5. 専門学校・専修学校まで 6. まだ考えていない

40 あなたは、将来やってみたい仕事かきまっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. きまっている 2. まよっている 3. きまっていない

41 学校の良い点とは、どんなところだと思いますか。次の中から、あなたが思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

1. 基礎学力をつけること  
2. 友達をつくること  
3. 社会の決まりを身につけること  
4. 体力をつけること  
5. 受験勉強をすること  
6. 人間の幅をひろげること（豊かな人格や教養を身につけること）  
7. いきぬきをすること

【回答欄】

1 番目	
2 番目	
3 番目	

42 あなたの学校（学級や部活も含む）での友人関係は、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 何でも相談できる友人がいる  
2. 友人はいるが、何でも相談できる友人はいない  
3. 友人は少ない  
4. 友人はまったくいない

<以上です。ご協力ありがとうございました>

**【教師用】**

この調査は、沖縄県の公立小・中・高等学校の児童生徒の学習に関する教師の意識や授業改善の工夫等を調査することを通して、本県児童生徒の学習の実態や特徴及び課題を明らかにし、各学校における学習指導の改善・充実に資することを目的としております。ご多忙の折り誠に恐縮に存じますが、以下の項目につきまして、貴方の感じているとおりに答えてくださいますようお願い致します。

① あなた自身のことについて聞きます。該当するものを○でかこんでください。

- (1) 性別 1. 男 2. 女
- (2) 現任教職種 1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校
- (3) 教職経験年数 1. 5年以下 2. 6～10年 3. 11～15年  
4. 16～20年 5. 20年以上
- (4) 担当教科 ( ) (※小学校教諭は除く)

② あなたの教えている児童生徒は、全般的に学習意欲があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. 全くない

③ 児童生徒の学習意欲と教師の指導力とは、関係があるとおもいますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. 全くない

④ あなたの受けもっている児童生徒の授業態度は、全般的に次のどれにあてはまりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 積極的で質問も良くするし、活発である  
2. 積極さはないが、授業はまじめに聞く  
3. 消極的で反応が乏しい  
4. 私語が多く、授業が進めにくい

⑤ あなたの授業内容の70%以上を理解している児童生徒はどの程度いると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 1～2割 2. 3～4割 3. 5～6割 4. 7～8割  
5. 9～10割

⑥ 授業が減立しにくいとき、児童生徒の側の主な要因は、どんなことですか。次の中から、あなたが要因だと思う順に2つまで選んで番号を回答欄に書いて下さい。

1. 予習・復習をしてこない  
2. 集中力が不足している  
3. 欠席・欠課をする者が多い  
4. 私語が多い  
5. 学習用具を持ってこない  
6. 離席者が多い  
7. いねむりが多い  
8. 意図的な授業妨害がある

【回答欄】

1番目	
2番目	

⑦ あなたは、児童生徒が勉強できるようになる要因は、なんだと思いますか。次の中から、要因として大切だと思う順に3つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 児童生徒本人の努力  
2. 児童生徒本人の能力  
3. 児童生徒本人のやる気  
4. 教師の熱意  
5. 教師の教え方の工夫改善  
6. 児童生徒と教師の信頼関係  
7. 親の教育への熱意  
8. 親の子どもへのしつけ方  
9. 親子の信頼関係

【回答欄】

1番目	
2番目	
3番目	

⑧ あなたは、年間指導計画通りに授業を実施できていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. ほとんど年間指導計画どおり実施できない  
2. わりと年間指導計画通りに実施できている  
3. 年間指導計画どおり実施できている

⑨ あなたは、年間指導計画に沿って授業の進捗・内容等の評価(点検)を行っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 評価はほとんど行っていない  
2. 時間が空いている時に評価している  
3. 単元の終了毎に評価している  
4. 毎時間評価している

⑩ あなたは、年間指導計画についての評価の結果を、次年度の年間計画の改善に役立っていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. 十分役立っている  
2. わりと役立っている  
3. 少し役立っている  
4. ほとんど役立っていない

⑪ あなたは、「観点別学習状況の評価」について、どうしていますか。次の中から1つを選んで番号に○をつけてください。

1. 取り組めていない 2. 少しずつ、取り組むようにしている  
3. うまく実施できている

⑫ あなたの受け持つ児童生徒は、次に示す学習方法がどれくらい好きだと考えますか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、次にあげる学習方法を試みていない場合は、「やっていない 5」に○をつけてください。

	とても好き	好き	好きでない	ぜんぜん好きでない	やっていない
1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	1	2	3	4	5
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業	1	2	3	4	5
4. ドリルやプリントを使ってする授業	1	2	3	4	5
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	1	2	3	4	5
6. パソコンを使ってする授業	1	2	3	4	5
7. 学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査	1	2	3	4	5
8. いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査	1	2	3	4	5
9. 友達と話し合いながら進めていく授業	1	2	3	4	5
10. 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	1	2	3	4	5

⑬ あなたは、授業の過程で児童生徒の学習の理解度を知るために、どのようなことをしていますか。次の中から、行っている順に2つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 児童生徒の表情や態度を見る  
2. 分かったかどうか挙手させる  
3. 机間指導を通して実態把握する  
4. 発表させたり、作品を見る  
5. テストをする  
6. 特にやっていない

【回答欄】

1番目	
2番目	

⑭ あなたは、自分の授業を充実させるために、どのようなことを重視していますか。次の中から、重視している順に2つまで選んで番号を回答欄に書いてください。

1. 教材の工夫  
2. 児童生徒一人一人の実態把握  
3. 板書技術や話し方の工夫  
4. 学習活動や形態の工夫  
5. 教育機器の活用

【回答欄】

1番目	
2番目	

⑮ あなたは、授業において、個に応じた指導を工夫していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. いつも工夫している  
2. ときどき工夫している  
3. あまり工夫していない  
4. まったく工夫していない

＜裏のページへお進み下さい＞

16 15で「いつも工夫している」「ときどき工夫している」と答えた人に聞きます。次の中から、あなたが工夫していることを3つ選んで番号に○をつけてください。

1. 個別指導を取り入れている
2. グループ別指導を取り入れている
3. 習熟度別指導を取り入れている
4. ティームティーチングを取り入れている
5. 作業や操作等の活動を取り入れている
6. 複数の教材を用いている
7. 学習時間の弾力化を図っている
8. 個人内評価を取り入れている
9. コンピュータを授業に取り入れている
10. 教育機器を授業に取り入れている
11. 少人数指導を取り入れている

17 あなたは授業を改善するために、どのような研修を行っていますか。次の中から、主に行っている順に2つまで選び番号を回答欄に書いてください。

【回答欄】

1. 授業の在り方についての講演会や研究発表などを聴く
2. 授業に関する書物や研究物を読む
3. 各学年、各教科・科目担当者間で授業について話し合う
4. 他の人に授業を見てもらい、授業研究会などで批判をいただく
5. 教育センターにおける研修会や各種研究会等での研修を受講する
6. ほとんどしていない

1番目	
2番目	

18 あなたは、児童生徒の家庭学習を習慣化するため、どのようなことに取り組んでいますか。次の中から、取り組んでいることを2つ選び番号に○をつけてください。

1. 機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている
2. 家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している
3. 宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている
4. 学級通信などを利用して、家庭への啓蒙活動をしている
5. ほとんど取り組んでいない

<以上です。ご協力ありがとうございました>

## II 児童生徒の学習意欲の状況

### 1 学習意欲の状況

#### (1) 校種間における学習意欲の差

2 あなたは、勉強する意欲（勉強しようと思う気持ち）があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある    2. ある    3. あまりない    4. まったくない

学習意欲についての選択肢を表Ⅱ-1-(1)-①の左側に示したように点数化する。

その上で校種別に学習意欲の平均値を求めた。これを「学習意欲度」とする。

前回との比較については、その選択肢が表Ⅱ-1-(1)-①の右側に示されているように5段階で設定され点数化されている。

そのため、4段階で設定した今回調査結果と単純な比較はできないが、児童生徒の学習意欲の状況について、変容の傾向を把握することはできる。

以上の点を踏まえながら、今回調査においても、校種間、学年間、男女間における学習意欲に関して、その差異の状況を前回調査結果と比較しながら分析を行った。

〔表Ⅱ-1-(1)-① 学習意欲の点数化表〕

今回調査	前回調査
1. とてもある(4点)	1. とてもある(5点)
2. ある(3点)	2. わりとある(4点)
3. あまりない(2点)	3. ある(3点)
4. まったくない(1点)	4. あまりない(2点)
	5. まったくない(1点)

#### 【分析と考察】

今回調査結果に関して、学習意欲度の校種間の差について、一元配置の分散分析を行った結果、有意な差が認められた(表Ⅱ-1-(1)-②, 図Ⅱ-1-(1)-①)。

前回調査と同様に、今回も小中高となるにつれて児童生徒の学習意欲度が低くなる。

この要因としては、次のことが考えられる。

小中高となるにつれて、学習内容も高度になってくる。そのため、前学年段階の学習内容等について十分に理解していないと、学習に困難を感じるようになり、学習意欲も低下していく。つまり、学習内容に対する理解不十分な状況を解消することなく、新しい学習内容に取り組むことを繰り返すことで、学習内容が、ますますわからなくなるという状況が生じる。

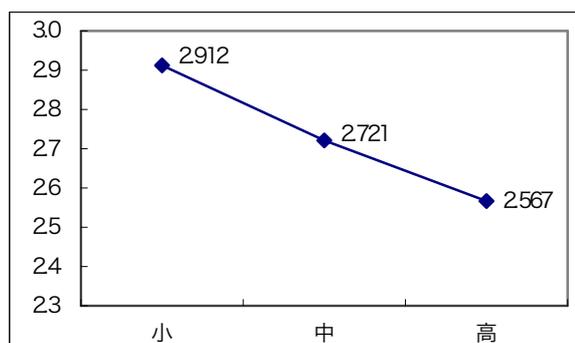
各学年段階で取り組むべき学習内容をきちんと理解することで、小中高となるにつれて学習意欲が低下するという状況は改善されると思われる。

教師は、児童生徒一人ひとりについて、学習内容が十分に理解されているか把握しながら、学習指導を進める必要がある。

〔表Ⅱ-1-(1)-② 今回調査 学習意欲の校種差〕

校種	学習意欲の平均値	標本数
小学校	2.912 (0.651) --**	850
中学校	2.721 (0.684) --**	1243
高校	2.567 (0.745) --**	1662
全体	2.696 (0.717)	3755

F=68.248 p<.001 \* p<.01



〔図Ⅱ-1-(1)-① 今回調査 校種別 学習意欲度〕

## (2) 学年における学習意欲の差

② 学習意欲
1. とてもある      2. ある      3. あまりない      4. まったくない

### 【分析と考察】

ここでは、学年別の学習意欲について調査を試みた。

まず、前回調査結果では、学年別に意欲度を比較したのが次ページの表及びグラフである（表Ⅱ-1-(2)-①，図Ⅱ-1-(2)-①）。

今回調査においても、小学校5年生～高校3年生までの8群間で一元配置の分散分析を行った結果、有意差が認められた（表Ⅱ-1-(2)-②，図Ⅱ-1-(2)-②）。さらに、学年間（小学校5年生～高校3年生）で学習意欲の平均値の差を比較するために多重比較を行った。これについて、小学校と高校の隣学年間では有意差が認められない。他方、中学生では1年生と3年生の間で有意差が認められない（表Ⅱ-1-(2)-③）。このことから、小学生及び高校生は同一のグループを形成していることがわかる。

前回調査との比較における大きな違いは、小学校6年生から学習意欲度のピークが、小学校5年生に移ったことである。ただし、小学校6年生と小学校5年生との間に有意差が認められないため、小学校6年生の学習意欲が5年生に比較して単純に落ち込んでいるとは言えない。

中学校では前回調査において1年生→2年生→3年生というように学習意欲度が高まっていったが、今回調査では1年生の学習意欲度が2年生のそれよりも高い値を示している。この要因の1つとして、中学校では、学習指導が以前に比べて細やかになったことが考えられる。例えば、教師による家庭学習帳などの細かなチェックや、朝の学習などの積極的な取り組み等である。

2年生での学習意欲度の落ち込みは、いわゆる「中だるみ」と考えられる。1年生は、新たな気持ちで、目標や憧れなどを持って中学に入学するはずである。しかし、学校生活に慣れるにともない、現実に関心を知り、また目標も見失いがちになる。このような状況が、2年生における中だるみとなって表出すると思われる。

3年生の学習意欲度は、1年生とほぼ同じ値に戻っている。これは高校受験を目前にして学習意欲が高まっているためだと考えられ、前回調査でも3年生で学習意欲が2年生に比して高まっているという点では変化はない。また、3年生で高まった学習意欲度が小学校レベルに戻っていない点も前回と同じである。

高校生に関しては前回同様、学習意欲の平均値が低い値で3学年共に横ばい状態である。

前回でも指摘されていることであるが、中学校3年生段階で多少高まりを見せた学習意欲が高校入学と共に一気に冷めてしまう。1年生の学習意欲が低いのは、高校入試がおわり、生徒によっては、次の新たな目標が見つからずに学習意欲を失っている状態と思われる。

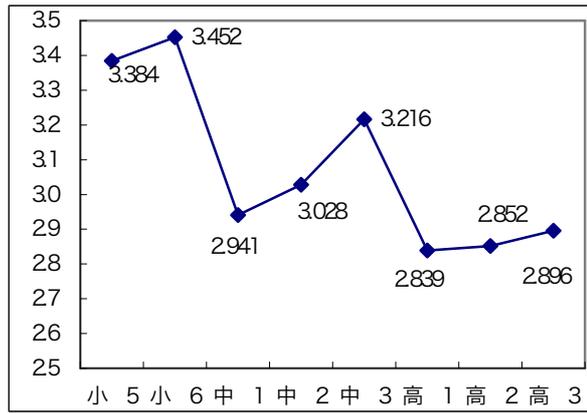
前回調査では、特に中学1年生と高校1年生における「校種の変わり目」において学習意欲が大きく低下するということが明らかとなった。そのため、中学1年生や高校1年生における手厚い学習指導、つまり細やかな「入口指導」の必要性が提言された。

今回調査においては、これに加えて、中学2年生と高校2年生に生じる“中だるみ”防止指導の必要性も指摘したい。これは中学2年生と高校2年生になってから取り組むものではなく、入り口指導の一環として、中学1年生と高校1年生からなされるべきである。つまり、1年生の時点で、自己の適性を踏まえながらその進路についてじっくりと考えさせ、目標を持つことができれば、結果としてそれが中だるみの防止となるはずである。中学2年生、高校2年生における中だるみ防止の成否は、校種の変わり目における入り口指導のさらなる充実によると考える。

〔表Ⅱ-1-(2)-① 前回調査 学年別意欲度〕

校種	学習意欲の平均値	標本数
小5	3.384 (0.836)	558
小6	3.452 (0.779)	558
中1	2.941 (0.943)	389
中2	3.028 (0.957)	387
中3	3.216 (0.888)	375
高1	2.839 (0.831)	479
高2	2.852 (0.909)	494
高3	2.896 (0.995)	444

F=38.555 P<.001

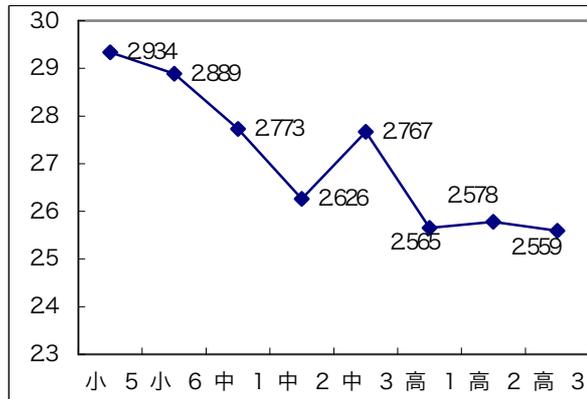


〔図Ⅱ-1-(2)-① 前回調査 学年別意欲度〕

〔表Ⅱ-1-(2)-② 今回調査 学年別意欲度〕

校種	学習意欲の平均値	標本数
小5	2.934 (0.672)	426
小6	2.889 (0.629)	424
中1	2.773 (0.643)	428
中2	2.626 (0.709)	425
中3	2.767 (0.690)	390
高1	2.565 (0.733)	543
高2	2.578 (0.754)	573
高3	2.559 (0.747)	546

F=21.375 P<.001



〔図Ⅱ-1-(2)-② 学年別意欲度〕

〔表Ⅱ-1-(2)-③ 今回調査 各学年群間における検定結果〕

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小5		NS	*	**	*	**	**	**
小6	NS		†	**	†	**	**	**
中1	*	†		†	n. s.	**	**	**
中2	**	**	†		†	n. s.	n. s.	n. s.
中3	*	†	n. s.	†		**	**	**
高1	**	**	**	n. s.	**		n. s.	n. s.
高2	**	**	**		**	n. s.		n. s.
高3	**	**	**		**	n. s.	n. s.	

\*P<.05 \*\*P<.01 †.05 <P<.10

### (3) 男女間における学習意欲の差

2	学習意欲		
1. とてもある	2. ある	3. あまりない	4. まったくない

#### 【分析と考察】

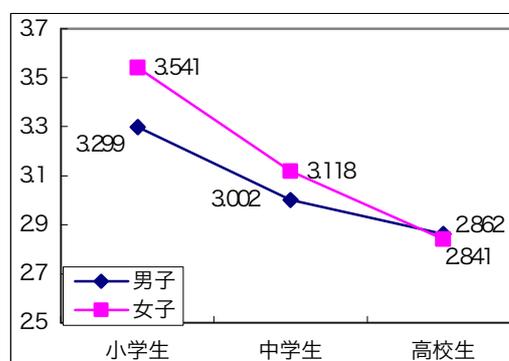
校種別に男女間の学習意欲の平均値について差の検定を行った。その結果、小学生については前回と同様に有意差が認められた。中学生については、今回は有意差が認められなかった(表Ⅱ-1-(3)-①、②)。小中高と成長するにつれて、男女間における学習意欲の差が小さくなっており、この点についても前回と同じである(図Ⅱ-1-(3)-①、②)。

これについては、男子児童生徒と女子児童生徒の間の興味関心の差が要因として考えられる。野球や自転車乗り等の外での活動に興味・関心が高い小学校の男子児童に比較して、女子児童は、学習に取り組みやすいと思われる。しかし、中学、高校と成長するにつれて、女生徒も、様々な活動や趣味等といった学習以外のことに目を向けるようになり、次第に学習への取り組みが弱くなると思われる。そして高校生になるとさらにその傾向が強まり、結果として男生徒との間で学習意欲度に関する有意差が認められないと推察される。

次に、教師と女生徒の間にある心的な距離の存在も要因として考えられる。前回調査結果の考察では、小中学校における女子児童生徒の教師への心的距離が、男子児童生徒よりも近いためではないかとしている。つまり女子児童生徒は男子児童生徒よりも、教師の指示や指導を素直に受け入れ、学習に取り組む。したがって男子児童生徒と女子児童生徒の間で、学習意欲度に関するこのような開きが生じると推察される。この女生徒の教師との心的距離は、中学校、高等学校となるにしたがって離れていく。その結果高等学校では男女間で有意差が認められなくなるのではないかと推察される。

〔表Ⅱ-1-(3)-① 前回調査 男女間における学習意欲度の差〕

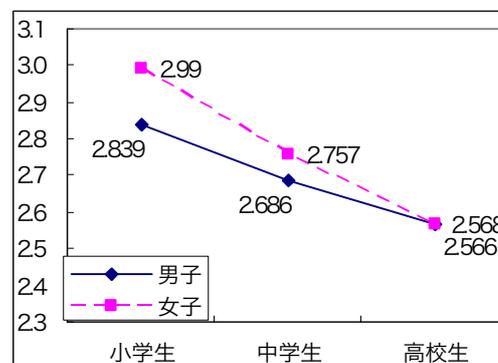
	男	女	
小学生	3.299 (0.840)	<3.541 (0.759)	t=5.012
標本数	計 1137		P<.01
中学生	3.002 (0.978)	<3.118 (0.892)	t=2.109
標本数	計 1145		P<.05
高校生	2.862 (0.951)	2.841 (0.884)	t=0.438
標本数	計 1238		n. s.



〔図Ⅱ-1-(3)-① 前回調査 男女間における意欲度の差〕

〔表Ⅱ-1-(3)-② 今回調査 男女間における学習意欲度の差〕

	男	女	
小学生	2.839 (0.702)	<2.990 (0.581)	t (838) = 3.481
標本数	442	408	P<.001
中学生	2.686 (0.704)	2.757 (0.660)	t (1241) = 1.830
標本数	641	602	n. s.
高校生	2.568 (0.757)	2.566 (0.729)	t (1660) = 0.057
標本数	922	740	n. s.



〔図Ⅱ-1-(3)-② 今回調査 男女間における意欲度の差〕

## 2 学習意欲と学習の目的

### (1) 学習意欲と学習の目的

<p><b>2</b> 学習意欲</p> <p>1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない</p>	<p><b>3</b> あなたはいつしうけんめい勉強することがどのようなことに役立つと思いますか。次の中から、<u>あなたが役立つと思うものを順に3つまで選び、番号を回答欄に書いてください。</u></p> <p>1. 大きな会社に入る 2. お金持ちになって豊かな生活を送る 3. 心豊かな生活を送る 4. 高い地位につく（出世する） 5. 尊敬（そんけい）される人になる 6. よいお父さん、お母さんになる 7. 社会のために良いことをする 8. 大学へ入れる 9. 成績をよくする</p>
---	---

今回調査の設問**2**の選択肢（1. とてもある，2. ある）と回答した児童生徒を「学習高意欲群」とし，（3. ない，4. まったくない）と回答した児童生徒を「学習低意欲群」とする。以下，学習高意欲群と学習低意欲群を，それぞれ略して「高意欲群」，「低意欲群」と表記する。

他方，今回調査との比較のために，前回調査における設問**2**の選択肢（1. とてもある，2. わりとある）をあわせて前回調査の高意欲群とし，選択肢（4. あまりない，5. まったくない）を併せて前回調査の低意欲群とする。前回調査の学習高意欲群と学習低意欲群をこのように分類・定義し，以下分析と考察を進めていく。

既述の通り，学習意欲に関する設問の選択肢の設定が異なるために，調査結果の単純な比較はできない。しかし，変容の大まかな傾向を知るための手掛かりを得るという意図から，以下に示す表Ⅱ-2-(1)-①～③のように併記して比較した。

表Ⅱ-2-(1)-④は，選択肢を社会志向的領域と功利志向的領域に分類し，それぞれの領域の選択肢において，高意欲群の選択率が低意欲群より多く，なおかつ有意差が認められるものについて整理したものである。同様に表Ⅱ-2-(1)-⑤は，低意欲群の選択率が高意欲群より多く，なおかつ有意差が認められるものについて整理したものである。

#### 【分析と考察】

「**2**学習意欲」と「**3**学習の目的」の一番目の選択についてクロス集計を行い  $\chi^2$  検定を行った結果，有意差が認められた。そこで，それぞれの選択肢について残差分析を行った結果，以下表Ⅱ-2-(1)-①～③のようになった。

まず，表Ⅱ-2-(1)-①，④，⑤より，前回調査では小学生の高意欲群は社会志向的選択肢を，低意欲群では功利志向的選択肢を選択する傾向が見られた。今回調査においても，この点では変わらないが，その傾向は弱くなっている。

表Ⅱ-2-(1)-②，④，⑤より，中学生の高意欲群においては，社会志向的選択肢を選択する傾向は前回と同様に見られるものの，その傾向は弱まっている。他方，低意欲群では功利志向的選択肢を選択する傾向が強まっている。

表Ⅱ-2-(1)-③，④，⑤より，高校生については，前回調査よりも高学習意欲群がわずかながら，社会志向的選択肢を選択する傾向が見られる一方で，低意欲群では功利志向的選択肢を選択する傾向が現れた。

前回調査結果における提言では，社会志向的選択肢を選択する児童生徒を意志型（目的を実現するための行動が伴う）児童生徒として，また，功利志向的選択肢を選択する児童生徒を願望型（願い・目的だけで行動が伴わない）児童生徒としている。今回調査結果では，小中学生の高意欲群における意志型傾向が弱まっていること，他方で，中学生の低意欲群の願望型傾向が強まっている。

社会志向的な学習目的を有すると言うことは、学習することが、自己の成長につながるということ意識することである。夢や希望を持ち、目的を明確にして学習に取り組ませ、なおかつ、それを持続させていくという意味からも、このような社会志向的な目標を持たせることが望まれる。高意欲群の児童生徒がその学習意欲を持続させるためにも、また低意欲群児童生徒が学習意欲を高めていくためにも、この点を踏まえた学習指導を行う必要がある。

〔表Ⅱ-2-(1)-① 小学生 学習の目的〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析
1. 大きな会社に入る	48 (9.1)	15 (11.5)		75 (11.5)	26 (14.1)	
2. お金持ちになって豊かな生活を送る	16 (3.0) <	18 (13.8)	P<.01	55 (8.4) <	28 (15.1)	p<.01
3. 心豊かな生活を送る	173 (32.8) >	28 (21.5)	P<.05	129 (19.7)	34 (18.4)	
4. 高い地位につく (出世する)	7 (1.3)	5 (3.8)		26 (4.0)	11 (5.9)	
5. 尊敬 (そんけい) される人になる	46 (14.2)	14 (10.8)		66 (10.1)	15 (8.1)	
6. よいお父さん, お母さんになる	75 (14.2) >	9 (6.9)	P<.05	88 (13.4)	23 (12.4)	
7. 社会のために良いことをする	109 (20.7) >	16 (12.3)	P<.05	114 (17.4) >	13 (7.0)	P<.001
8. 大学へ入れる	23 (4.4)	8 (6.2)		36 (5.5)	13 (7.0)	
9. 成績をよくする	30 (5.7) <	17 (13.1)	P<.001	6.6 (10.1)	22 (11.9)	
合計	527 (100)	130 (100)		655 (100)	185 (100)	

$\chi^2 (8)=49.485 \text{ p}<.001$                        $\chi^2 (8)=20.848 \text{ p}<.01$

〔表Ⅱ-2-(1)-② 中学生 学習の目的〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析
1. 大きな会社に入る	22 (6.2) <	54 (18.1)	P<.01	100 (12.1) <	66 (16.3)	P<.05
2. お金持ちになって豊かな生活を送る	37 (10.4)	37 (12.4)	NS	100 (12.1) <	69 (17.0)	P<.05
3. 心豊かな生活を送る	95 (26.7) >	56 (18.7)	P<.05	147 (17.8)	55 (13.6)	
4. 高い地位につく (出世する)	9 (2.5)	16 (5.4)		33 (4.0) <	31 (7.7)	P<.01
5. 尊敬 (そんけい) される人になる	39 (11.0) >	18 (6.0)	P<.05	74 (8.9)	27 (6.7)	
6. よいお父さん, お母さんになる	27 (7.6)	22 (7.4)		82 (9.9)	31 (7.7)	
7. 社会のために良いことをする	52 (14.6)	31 (10.4)		101 (12.2) >	28 (6.9)	P<.01
8. 大学へ入れる	35 (9.8)	32 (10.7)		49 (5.9)	24 (5.9)	
9. 成績をよくする	40 (11.2)	33 (11.0)		141 (17.0)	74 (18.3)	
合計	356 (100)	299 (100)		827 (100)	405 (100)	

$\chi^2 (8)=35.178 \text{ p}<.001$                        $\chi^2 (8)=29.122 \text{ p}<.001$

〔表Ⅱ-2-(1)-③ 高校生 学習の目的〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残差分析
1. 大きな会社に入る	15 (4.9)	65 (13.4)	P<.01	86 (9.6) <	120 (16.2)	P<.01
2. お金持ちになって豊かな生活を送る	31 (10.0)	45 (9.3)		117 (13.0)	92 (12.4)	
3. 心豊かな生活を送る	107 (34.6)	87 (17.9)		208 (23.2) >	112 (15.2)	P<.01
4. 高い地位につく (出世する)	12 (3.9)	22 (4.5)	P<.01	48 (5.4)	54 (7.3)	
5. 尊敬 (そんけい) される人になる	22 (7.1)	35 (7.2)		67 (7.5)	39 (5.3)	
6. よいお父さん, お母さんになる	22 (7.1)	40 (8.2)		48 (5.4)	46 (6.2)	
7. 社会のために良いことをする	40 (12.9)	40 (8.2)	P<.05	66 (7.4)	37 (5.0)	
8. 大学へ入れる	30 (9.7)	58 (12.0)		136 (15.2)	94 (12.7)	
9. 成績をよくする	30 (9.7)	93 (19.2)	P<.01	121 (13.5) <	145 (19.6)	P<.01
合計	309 (100)	485 (100)		897 (100)	739 (100)	

$\chi^2 (8)=51.729 \text{ p}<.001$                        $\chi^2 (8)=43.386 \text{ p}<.001$

〔表Ⅱ-2-(1)-④ 高意欲群の選択で、高意欲群>低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

	選択肢	小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
社会志 向的選 択肢	3. 心豊かな生活を送る	*		*			*
	5. 尊敬（そんけい）される人になる			*			
	6. よいお父さん、お母さんになる	*					
	7. 社会のために良いことをする	*	*		*		
功利志 向的選 択肢	1. 大きな会社に入る						
	2. お金持ちになって豊かな生活を送る						
	4. 高い地位につく（出世する）						
	9. 成績をよくする						
	合計点	3	1	2	1	0	1

〔表Ⅱ-2-(1)-⑤ 低意欲群の選択で、高意欲群<低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

	選択肢	小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
社会志 向的選 択肢	3. 心豊かな生活を送る						
	5. 尊敬（そんけい）される人になる						
	6. よいお父さん、お母さんになる						
	7. 社会のために良いことをする						
功利志 向的選 択肢	1. 大きな会社に入る			*	*		*
	2. お金持ちになって豊かな生活を送る	*	*		*		
	4. 高い地位につく（出世する）				*		
	9. 成績をよくする	*					*
	合計点	-2	-1	-1	-3	0	-2

## (2) 学習意欲と希望する進学段階

<p>② 学習意欲</p> <p>1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない</p>	<p>③9 あなたは将来、どの学校まで進学したいですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。</p> <p>&lt;小学校&gt; 1. 中学校まで 2. 高等学校まで 3. 大学まで 4. 専門学校・専修学校まで 5. まだ考えていない</p> <p>&lt;中学校&gt; 1. 中学校まで 2. 高等学校まで 3. 高等専門学校まで 4. 短期大学まで 5. 4年生大学以上 6. 専門学校・専修学校まで 7. まだ考えていない</p> <p>&lt;高等学校&gt; 1. 高等学校まで 2. 短期大学まで 3. 4年生大学まで 4. 大学院まで 5. 専門学校・専修学校まで 6. まだ考えていない</p>
--	---

ここでは、学習意欲と進学段階について、前回調査で示された傾向からどの程度変容したのか分析する。

なお、今回調査においては、全校種を対象に、設問中における選択肢「まだ考えていない」を設定した。また、中学生を対象にした設問では、選択肢「高等専門学校まで」、高校生を対象にした設問では選択肢「大学院まで」を設定した。

### 【分析と考察】

設問③9に関して、校種別に求めた。一元配置の分散分析を行った結果、有意差が認められた。さらに、それぞれの選択肢群の意欲度で多重比較を行った結果、有意差が認められた(表Ⅱ-2-(2)-②, ③, ⑤, ⑥, ⑧, ⑨)。学習意欲度は、希望する進学段階が高ければ高いほどその値は高まるという傾向が見られる。これは前回と同様の結果である(表Ⅱ-2-(2)-①, ④, ⑦)。

小学生に関しては、今回調査において、「まだ考えていない」群と「大学まで」群との間に有意差が認められ、「中学まで」群、「専門学校・専修学校まで」群との間には有意差の傾向が認められる。他方「まだ考えていない」群と「高校まで」群との間には有意差は認められない。

中学生に関しては、前回調査では「中学校まで」群と「高等学校まで」群の間には有意差が認められなかったが、今回調査では有意差が認められた。これは中学生の間で、高等学校への進学意識が前回以上に高まったためであると考えられる。その一方で「中学校まで」と考える児童生徒は、学習意欲が極端に低い状況にあると言える。また、前回調査同様、今回調査結果でも、「4年生大学以上」群と他群間ではすべて有意差もしくは有意差の傾向が認められた。

高校生に関しては、前回調査では「高等学校まで」群と「短期大学まで」群との間で有意差が存在したが、今回調査では有意差が存在しない。これは「高等学校まで」群と「短期大学まで」群とは同質であるということであり、高校生の間では短期大学への進学志向が減少しているためとも考えられる。また、「大学院まで」群と他群との間には全て有意差が認められ、大学院までと答えた生徒の学習意欲は極めて高い。

図Ⅱ-2-(2)-①～③では、校種別に前回調査と今回調査における各選択肢の学習意欲平均値が、左側より、低い方から高い方へ並べたものであり、またその平均値を年度別にグラフ化したものが図Ⅱ-2-(2)-④, ⑤である。全ての校種で、「まだ考えていない」群の、学習意欲の平均値が他群に比して低い位置にあるということがわかる。なお、図Ⅱ-2-(2)-①～⑥は、有意差の有無に関わらず、平均値の大小について把握し易くすることを目的としている。

以上のことから、学習意欲を高める上で、児童生徒自身の希望と適性を踏まえた進学段階を決定させることが大切であろう。そのため、それぞれの進学段階に属する特徴についてもきちんと把握させるなど、きめ細かい進路指導の工夫が求められる。

<小学生>

[表Ⅱ-2-(2)-① 小学生 前回調査 学習意欲度と希望する進学段階]

	学習意欲度
1 「中学校まで」群	2.895 (1.046) ---**
2 「高等学校まで」群	3.208 (0.732) ---**
3 「大学まで」群	3.496 (0.766) ---**
4 「専門学校・専修学校まで」群	3.668 (0.820) ---**

F=23.606 p<.001 標本数 1108 \*p<.01

[表Ⅱ-2-(2)-② 小学生 今回調査学習意欲度と希望する進学段階]

	学習意欲度	標本数
1 「中学校まで」群	2.412 (0.771)	17
2 「高等学校まで」群	2.798 (0.664)	193
3 「大学まで」群	3.047 (0.624)	255
4 「専門学校・専修学校まで」群	3.023 (0.590)	172
5 「まだ考えていない」群	2.828 (0.614)	204

F=6.258 p<.001 多重比較の結果については下表参照

[表Ⅱ-2-(2)-③ 小学生 今回調査 多重比較]

	1. 中学校	2. 高校	3. 大学	4. 専・専	5. 考えてない
1. 中学校		†	**	**	†
2. 高校	†		**	*	n. s.
3. 大学	**	**		n. s.	*
4. 専・専	**	*	n. s.		†
5. 考えてない	†	n. s.	*	†	

\* p<.05 \*\* p<.01 † .05 <P<.10

前回調査

(「中学校まで」群 = 「高等学校まで」群) < 「大学まで」群 < 「専門学校・専修学校まで」群

今回調査

「中学校まで」群 < 「高等学校まで」群 = 「まだ考えていない」群 < 「専門学校・専修学校まで」群 < 「大学まで」群

[図Ⅱ-2-(2)-① 小学生 前回調査と今回調査における群間の順位]

<中学生>

[表Ⅱ-2-(2)-④ 中学生 前回調査 学習意欲度と希望する進学段階]

	学習意欲度
1 「中学校まで」群	2.294 (1.072) ---**
2 「高等学校まで」群	2.720 (0.869) ---**
3 「短期大学まで」群	3.142 (0.859) ---**
4 「4年生大学以上」群	3.345 (0.909) ---**
5 「専門学校・専修学校まで」群	3.068 (0.845) ---**

F=42.122 p<.001 \*p<.01

〔表Ⅱ-2-(2)-⑤ 中学生 今回調査 学習意欲度と希望する進学段階〕

	学習意欲度	標本数
1 「中学校まで」群	1.933 (0.929)	15
2 「高等学校まで」群	2.581 (0.650)	301
3 「高等専門学校まで」群	2.784 (0.703)	74
4 「短期大学まで」群	2.797 (0.598)	123
5 「4年生大学以上」群	2.974 (0.625)	235
6 「専門学校・専修学校まで」群	2.711 (0.681)	225
7 「まだ考えていない」	2.642 (0.698)	257

F=42.122 p<.001 多重比較の結果については下表参照

〔表Ⅱ-2-(2)-⑥ 中学生 今回調査多重比較〕

	1. 中学校	2. 高校	3. 高専	4. 短大	5. 4大以上	6. 専・専	7. 考えてない
1. 中学校		**	**	**	**	**	**
2. 高校	**		†	†	**	†	n. s.
3. 高専	**	†		n. s.	†	n. s.	n. s.
4. 短大	**	†	n. s.		†	n. s.	†
5. 4大以上	**	**	†	†		**	**
6. 専・専	**	†	n. s.	n. s.	**		n. s.
7. 考えてない	**	n. s.	n. s.	†	**	n. s.	

\*p<.05 \*\*p<.01 †.05 <p<.10

前回調査

「中学校まで」群<「高等学校まで」群<「専門学校・専修学校まで」群<「短期大学まで」群 <「大学まで」群

今回調査

「中学校まで」群<「高等学校まで」群<「まだ考えていない」群<「専門学校・専修学校まで」群<「高等専門学校まで」群<「短期大学まで」群<「大学まで」群

〔図Ⅱ-2-(2)-① 中学生 前回調査と今回調査における群間の順位〕

<高校生>

〔表Ⅱ-2-(2)-⑦ 高校生 前回調査 学習意欲度と希望する進学段階〕

	学習意欲度
1 「高等学校まで」群	2.337 (0.816) - * - † *
2 「短期大学まで」群	2.591 (0.902) - - † - † *
3 「4年生大学まで」群	3.368 (0.902) - - - - † - † *
4 「専門学校・専修学校まで」群	2.870 (0.671) - - - - - †

F=38.489 p<.001 標本数 1103 p<.01

〔表Ⅱ-2-(2)-⑧ 高校生 今回調査 学習意欲度と希望する進学段階〕

	学習意欲度	標本数
1 「高等学校まで」群	2.417 (0.750)	175
2 「短期大学まで」群	2.588 (0.752)	68
3 「4年生大学まで」群	2.843 (0.676)	498
4 「大学院まで」群	3.085 (0.809)	59
5 「専門学校・専修学校まで」群	2.393 (0.691)	478
6 「まだ考えていない」群	2.427 (0.728)	344

F=26.087 p<.001 多重比較の結果については下表参照

[表II-2-(2)-⑨ 高校生 今回調査 多重比較]

	1. 高校	2. 短大	3. 4年生 大学	4. 大学院.	5. 専・専	6. 考えて ない
1. 高校		†	**	**	n. s.	n. s.
2. 短大	†		†	**	†	†
3. 4年生大学	**	†		†	**	**
4. 大学院.	**	**	†		**	**
5. 専・専	n. s.	†	**	**		n. s.
6. 考えてない	n. s.	†	**	**	n. s.	

\*p<.05    \*\*p<.01    † .05 <P<.10

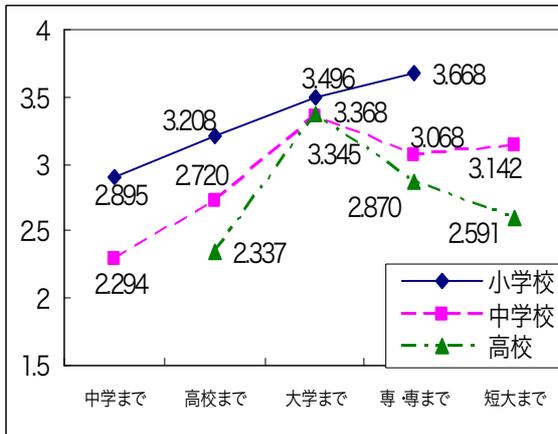
**前回調査**

「高等学校まで」群<「短期大学まで」群<「専門学校・専修学校まで」群<「4年生大学まで」群

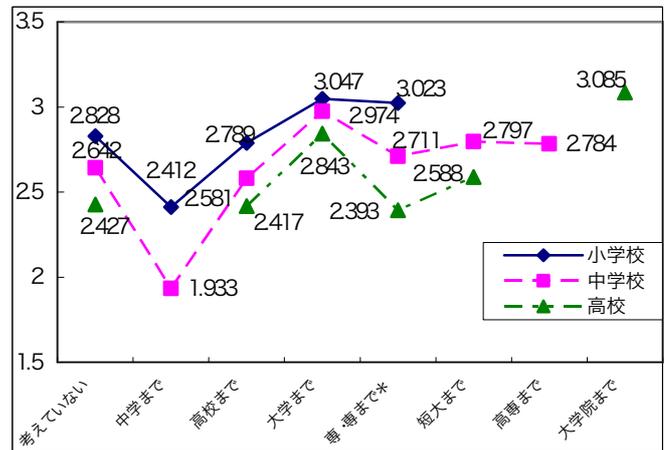
**今回調査**

「専門学校・専修学校まで」群<「高等学校まで」群<「まだ考えていない」群<「短期大学まで」群<「4年生大学まで」群<「大学院まで」群

[図II-2-(2)-⑩ 高校生 前回調査と今回調査における群間の順位]



[図II-2-(2)-④ 前回調査 学習意欲度と希望する進学段階]



[図表II-2-(2)-⑤ 今回調査 学習意欲度と希望する進学段階]

### (3) 学習意欲と将来の就きたい職業の決定状況

<p>② 学習意欲</p> <p>1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない</p>	<p>40 あなたは、将来やってみたい仕事が決まっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。</p> <p>1. きまっている      2. まよっている      3. きまっていない</p>
--	--

#### 【分析と考察】

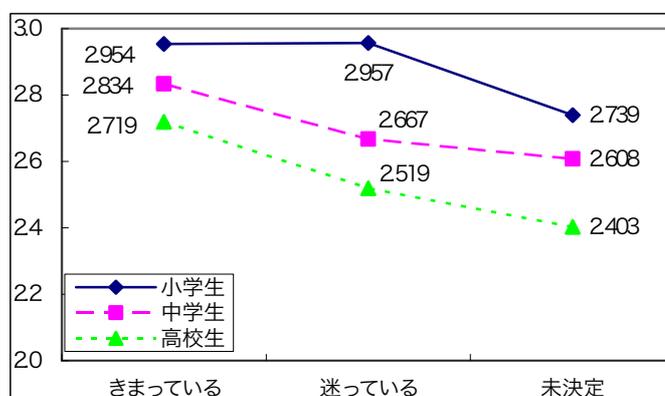
今回調査結果について、校種別に各群の学習意欲の平均値について一元配置の分散分析を行った結果、有意差が認められたため、各群間の多重比較を実施した。その結果が以下の表Ⅱ-2-(3)-②、④、⑥であり、これをグラフ化したものが図Ⅱ-2-(3)-①である。これらより、将来の職業について「決まっている」児童生徒の学習意欲は高いことがわかる。

小学生では、前回調査結果において将来の希望職業が決まっている児童の学習意欲が高い(表Ⅱ-2-(3)-①)。しかし、今回調査結果では、「決まっている」群と「迷っている」群間で有意差は認められないが、「決まっていない」群との間には有意差が認められる(表Ⅱ-2-(3)-②)。「決まっていない」群については、学習意欲の平均値が他の2群に比してかなり低くなっていることから、目標としての就きたい職業が存在しないため、学習意欲が高まりにくいという状況にあるということが考えられる。

中学生では前回調査結果において、希望職業の決定と学習意欲の平均値との間に有意差が認められなかった(表Ⅱ-2-(3)-③)。しかし、今回調査においては、「きまっている」群と他の2群間に有意差が認められる(表Ⅱ-2-(3)-④)。希望職業が決まっている生徒の学習意欲は他の2群に比して高い。他方、「迷っている」群、「決まっていない」群の間には有意差は認められない。このことから中学生の「迷っている」群と、小学生の同群との間には「迷い」の質的な違いが存在すると思われる。つまり、小学生に関しては、「迷っている」群と「決まっている」群との間に、学習意欲の平均値について有意差は認められないことから、小学生の「迷っている」群は、将来就きたいと考えている職業が複数存在し、それらへの憧れが強いため迷っているのであり、積極的な迷いともとれる。他方、中学生の「迷っている」群については、「決まっていない」群と有意差が認められない。そのため、将来就きたいと考えている複数の職業に対する憧れが強いうわけではなく、どちらでも良いという程度の迷いと想定され、消極的な迷いと見ることができると考えられる。

高校生に関しては、将来就きたいと考えている職業が決まっている生徒の学習意欲が高いということは前回結果と同様である(表Ⅱ-2-(3)-⑤、⑥)。高校生という発達段階においては、小中学校を通してこれまで思い描いてきた進路を実現させる段階である。そのため将来の希望職業の決定が学習意欲の高低に影響を与えることが十分に考えられる。

以上のことから、学習意欲を高めるために、児童生徒が、その発達段階に応じて、目標としての将来就きたい職業決めていると言うことは重要であると思われる。特に中・高等学校では「迷っている」群と「決まっていない」群に対して、将来への職業について考えさせ決定させることは、学習意欲向上という視点から有効であると思われる。そのためのきめ細かな進路指導が求められる。



〔図Ⅱ-2-(3)-① 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

〔表Ⅱ-2-(3)-① 小学生 今回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度
1 「きまっている」群	3.540 (0.799) --** **
2 「迷っている」群	3.410 (0.770) ---† **
3 「決まっていない」群	3.129 (0.832) -----†

F=19.867 p<.001 標本数 1110 \*\*p<.01

〔表Ⅱ-2-(3)-② 小学生 今回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度	標本数
1 「きまっている」群	2.954 (0.639) -**	460
2 「迷っている」群	2.957 (0.623) ---† **	231
3 「決まっていない」群	2.739 (0.668) -----†	134

F =6.398 p<.01 標本数 1110 \*\*p<.01

〔表Ⅱ-2-(3)-③ 中学生 前回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度
1 「きまっている」群	3.084 (0.799)
2 「迷っている」群	3.107 (0.77.)
3 「決まっていない」群	2.970 (0.832)

F =2.062 p<.01 標本数 1144 n. s.

〔表Ⅱ-2-(3)-④ 中学生 今回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度	標本数
1 「きまっている」群	2.834 (0.686) ** **†	524
2 「迷っている」群	2.667 (0.639) ---†	399
3 「決まっていない」群	2.608 (0.697) -----†	291

F =12.792 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅱ-2-(3)-⑤ 高校生 前回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度
1 「きまっている」群	2.966 (0.978) --** **
2 「迷っている」群	2.829 (0.814) ---†
3 「決まっていない」群	2.678 (0.925) -----†

F =10.165 p<.01 標本数 1434 \*\*p<.01

〔表Ⅱ-2-(3)-⑥ 高校生 今回調査 学習意欲度と将来の職業の決定状況〕

	学習意欲度	標本数
1 「きまっている」群	2.719 (0.743) --** **	673
2 「迷っている」群	2.519 (0.723) ---† ** †	557
3 「決まっていない」群	2.403 (0.733) -----†	385

F =25.199 p<.001 †.05 <P<.10 \*\*p<.01

### 3 教科の好感度・理解度の変化

#### (1) 教科に対する好感度

4 あなたは、次の勉強がどのくらい好きですか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

とても好き      好き      どちらとも言えない      嫌い      とても嫌い  
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

【小学校】

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 音楽 6. 図画工作 7. 体育 8. 家庭 9. 総合的な学習の時間

【中学校】

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科 5. 英語 6. 音楽 7. 美術 8. 体育  
 9. 技術・家庭 10. 総合的な学習の時間

【高校】

1. 国語 2. 数学 3. 地歴 4. 公民 5. 理科 6. 保健体育 7. 芸術（音楽、美術、工芸、書道）  
 8. 英語 9. 家庭 10. 専門教科 11. 総合的な学習の時間

<前回調査>

12 あなたは、次の勉強がどのくらい好きですか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

とても好き      好き      どちらとも言えない      嫌い      とても嫌い  
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

【小学校】

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 音楽 6. 図画工作 7. 体育 8. 家庭

【中学校】

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科 5. 英語 6. 音楽 7. 美術 8. 体育  
 9. 技術・家庭

【高校】

1. 国語 2. 数学 3. 社会（地歴・公民） 5. 理科 6. 保健体育 7. 芸術（音楽、美術、工芸、書道）  
 8. 英語 9. 家庭 10. 専門教科

前回調査において、各教科の好感度と学習意欲とは相関があることが確認されている。したがって、各教科に対する児童生徒の好みの変容状況を分析することは、児童生徒の学習意欲の状況を把握する上で有効な情報となると考えられる。

評定尺度を表Ⅱ-3-(1)-①で示すように点数化し、校種別にそれぞれの教科の平均値を求める。これを教科に対する「好感度」とする。

前回調査と今回調査における好感度の差について検定を実施したところ表Ⅱ-3-(1)-②～④のようになった。これをグラフ化したものが図Ⅱ-3-(1)-①～⑩である。なお、表Ⅱ-3-(1)-②～④に対応させ、図Ⅱ-3-(1)-①～⑩中の\*は  $P < .05$ 、\*\*は  $p < .01$  を表している。

〔表Ⅱ-3-(1)-① 評定尺度の点数化表〕

1 とても好き（5点）
2 好き（4点）
3 どちらとも言えない（3点）
4 嫌い（2点）
5 とても嫌い（1点）

【分析と考察】

算数・数学、理科、英語、保健体育、図工・中学美術について考察を行う。

<算数・数学（図Ⅱ-3-(1)-②）>

今回の調査で算数の好感度が上昇したということは、わかる児童が増えたと考える。それは、授業改善のための教員の加配によるきめ細かい指導もその要因の一つと考えられる。教員の加配配置当初は、対処療法的に、高学年、特に6学年への配置が多かったが、本来算数のつまずき、算数嫌いの出始める3、4学年への配置に変わり、効果を上げてきているのではないかと考えられる。

中学校では、少人数習熟度指導などがかなり取り組まれており、それが上昇の要因の一つとなっていると思われる。また、授業を構築する上で、「楽しい授業」、「わかる授業」の実践ということが意識されるようになったことで、子どもたちがより達成感を感じたことなども考えられる。

高校生に関して有意差は認められない。習熟度別学習指導が取り組まれるなど指導方法の工夫・改善が試みられているが、好感度は下降している。その要因の一つとして、今回調査時点（平成16年7月）で現行学習指導要領が完全実施されてまだ1年程度しか経ておらずそのため、教師がこれに十分対応しきれていないためであるとも推察される。生徒の興味・関心を高めるための指導方法に関するなお一層の工夫改善が求められる。

#### <理科（図Ⅱ-3-(1)-⑤）>

理科については、小学生の好感度が下がった。これに対して中学生，高校生に関しては有意差が認められず、前回と同様であると考えられる。中学生，高校生の好感度の数値は、中学生で若干ポイントが下がり，高校生ではわずかだが上がっている。

小学生の好感度が下がった原因として考えられることは、「子供たちの自然体験の不足」，「遊び方が室内型などに変化し子どもたちの遊びに対する価値観に変化が見られた」，「理科の時間数の減少」など様々な要素が絡み合っているためと思われる。

#### <英語（図Ⅱ-3-(1)-④）>

学習内容は若干平易化しているのに好感度は低下している。これは、生徒が英語学習に困難を覚えていることを示している。学年進行に伴って、特に「読む」ことが授業の中心となり、履修すべき語彙数が増え、語彙のレベルが上がり、しかも複雑な構文から成る文章を限られた時間内で読解しなければならなくなる。そのため、生徒によっては英語学習に対するネガティブな抵抗感を強く覚えているものと思われる。

今後はさらに学習内容を精選し、授業方法を工夫・改善する必要がある。例えば、パターン・プラクティスの積極的な取り組みや、コンピュータ等を活用し、文法事項や発音、活用場面などを有機的に結びつけたドリル学習等を繰り返し、基礎的・基本的な事項の定着を図るなどの工夫が必要であろう。

#### <保健体育（図Ⅱ-3-(1)-⑥）>

保健学習か体育実技かによっても、好感度については違いがあると考えられる。ここでは体育実技として考察する。

好感度が、小学校では上昇しているが、中学校では有意差は認められないため前回と同様と考えられ、高等学校では好感度は低下している。

小中高と成長するにつれて、好感度が上昇しにくくなっているのは、体を動かすことが生徒にとって年齢とともに面倒と考えるようになるからだろうと推察される。体力の低下問題と合わせ、運動に対する生徒の課題認識と意識づけを行う必要性がある。

#### <小学校図工・中学校美術（図Ⅱ-3-(1)-⑧）>

図工についての好感度は上昇している一方で、中学生の美術に関する好感度は逆に大きく落ち込んでいる。

小学校においては、「造形遊び」の領域の実践が広がり、児童が思いのままに表現活動できる場面が多くなったことが、好感度上昇の要因の一つとして推察される。

これに対して、中学校においては、授業時数の削減により週1時間となった。そのため制作時間が短縮され、授業が細切れで行われるため、生徒の興味や関心が薄れていると推察される。

生徒の興味を持続させようような指導の工夫と、生徒の視点に立った授業改善が求められる。

〔表Ⅱ-3-(1)-② 小学生 教科好感度 検定結果〕

	前回調査	今回調査	
1 国語	3.463 (0.933)	> 3.378 (0.946)	t (1970)=2.004
標本数	1107	865	p<.05
2 社会	3.229 (1.101)	< 3.386 (1.068)	t (1960)=3.180
標本数	1102	860	p<.01
3 算数	3.554 (1.102)	< 3.691 (1.054)	t (1968)=2.786
標本数	1107	863	p<.01
4 理科	3.816 (1.043)	> 3.557 (1.057)	t (1963)=5.020
標本数	1105	860	p<.01
5 音楽	3.769 (1.121)	> 3.534 (1.201)	t (1781)=4.429
標本数	1096	860	p<.01
6 図工	3.994 (1.086)	< 4.108 (1.025)	t (1962)=2.944
標本数	1104	860	p<.01
7 体育	4.270 (0.972)	< 4.381 (0.945)	t (1965)=2.534
標本数	1106	861	p<.05
8 家庭	4.042 (0.936)	4.124 (0.949)	t (1963)=1.892
標本数	1107	858	n. s.
9 総合		3.752 (0.957)	
標本数		852	

〔表Ⅱ-3-(1)-④ 高校生 教科好感度 検定結果〕

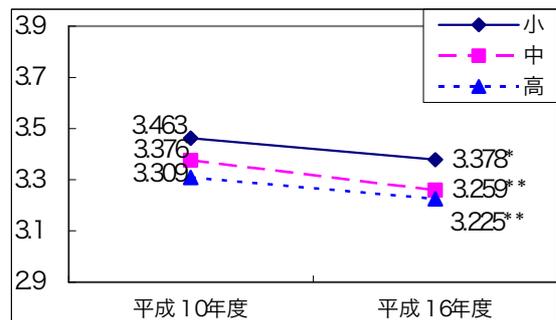
	前回調査	今回調査	
1 国語	3.309 (0.836)	>3.225 (0.891)	t (3088)=2.694
標本数	1439	1675	p<.01
2 数学	3.071 (1.108)	3.003 (1.161)	t (3098)=1.607
標本数	1427	1673	n. s.
3 地歴	3.114 (0.996)	>3.032 (1.027)	t (3062)=2.251
標本数	1426	1638	p<.05
4 公民	3.114 (0.996)	>2.924 (0.962)	t (2994)=5.328
標本数	1426	1570	p<.001
5 理科	3.091 (1.019)	3.100 (1.029)	t (3071)=0.244
標本数	1411	1662	n. s.
6 保健	3.533 (1.011)	>3.451 (1.019)	t (3092)=2.224
標本数	1425	1665	p<.05
7 芸術	3.641 (1.034)	>3.414 (1.107)	t (3046)=5.884
標本数	1422	1644	p<.01
8 英語	3.218 (1.098)	>3.051 (1.144)	t (3088)=4.124
標本数	1425	1665	p<.01
9 家庭	3.316 (0.949)	>3.228 (0.924)	t (2872)=2.532
標本数	1350	1524	p<.05
10 専門	3.441 (0.968)	>3.335 (1.024)	t (1716)=2.116
標本数	632	1086	p<.05
11 総合		3.109 (0.941)	
標本数		1547	

「3. 地歴」, 「4. 公民」は, 前回調査では社会科としている。

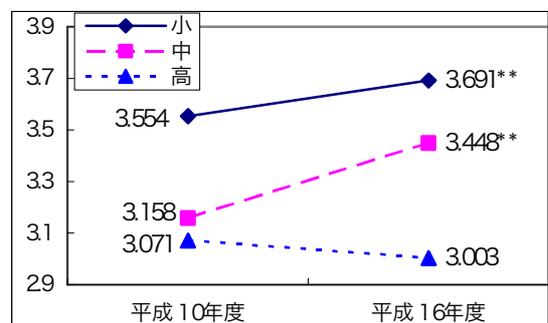
「7. 芸術」には音楽, 美術, 工芸, 書道が含まれる。

〔表Ⅱ-3-(1)-③ 中学生 教科好感度 検定結果〕

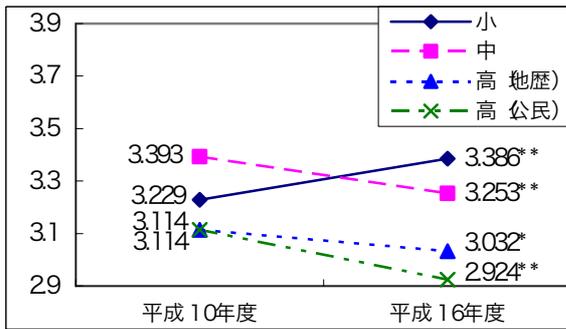
	前回調査	今回調査	
1 国語	3.376 (0.845)	> 3.259 (0.922)	t (2387)=3.232
標本数	1145	1245	p<.01
2 社会	3.393 (1.062)	> 3.253 (1.029)	t (2383)=3.276
標本数	1147	1238	p<.01
3 数学	3.158 (1.117)	< 3.448 (1.081)	t (2382)=6.435
標本数	1140	1244	p<.01
4 理科	3.288 (1.018)	3.224 (1.058)	t (2383)=1.513
標本数	1144	1241	n. s.
5 英語	3.379 (1.118)	< 3.223 (1.185)	t (2381)=3.300
標本数	1146	1238	p<.01
6 音楽	3.617 (1.032)	> 3.383 (1.111)	t (2382)=5.322
標本数	1145	1240	p<.01
7 美術	3.600 (1.037)	> 3.180 (1.129)	t (2374)=9.435
標本数	1141	1236	p<.01
8 体育	3.702 (1.101)	3.688 (1.060)	t (2368)=.314
標本数	1135	1235	n. s.
9 技家	3.542 (0.967)	> 3.331 (0.986)	t (2372)=5.221
標本数	1132	1242	p<.01
10 総合		3.336 (1.002)	
標本数		1223	



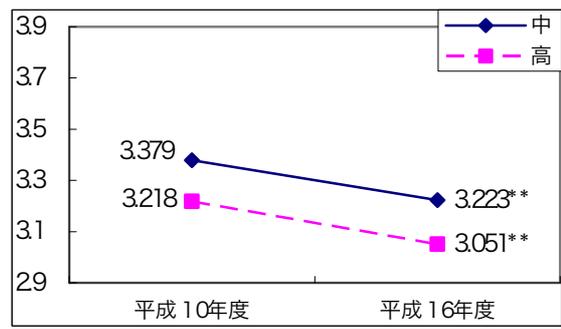
〔図Ⅱ-3-(1)-① 小・中・高 国語 好感度の変化〕



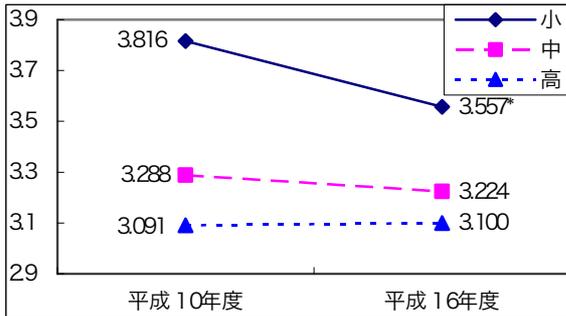
〔図Ⅱ-3-(1)-② 小学算数, 中・高数学 好感度の変化〕



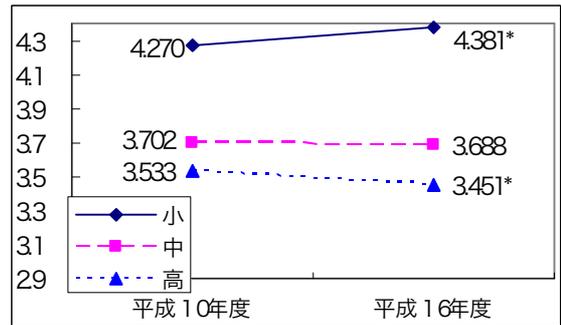
〔図Ⅱ-3-(1)-③ 小・中 社会 高校地歴・公民 好感度の変化〕



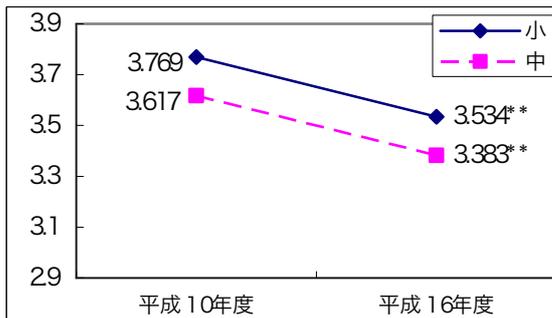
〔図Ⅱ-3-(1)-④ 中・高 英語 好感度の変化〕



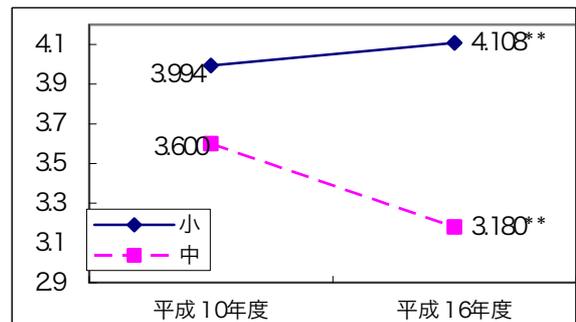
〔図Ⅱ-3-(1)-⑤ 小・中・高 理科 好感度の変化〕



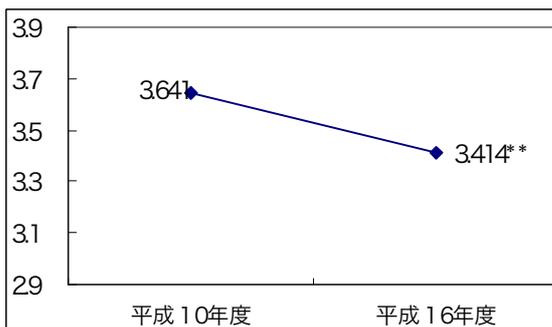
〔図Ⅱ-3-(1)-⑥ 小・中・高 体育 好感度の変化〕



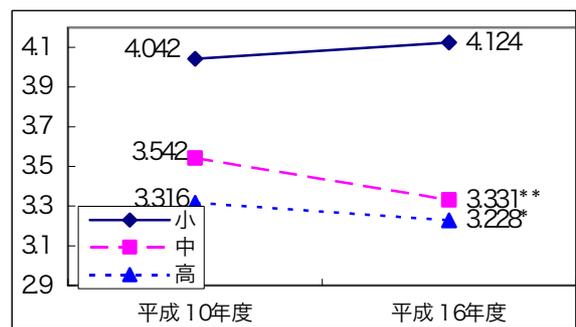
〔図Ⅱ-3-(1)-⑦ 小・中 音楽 好感度の変化〕



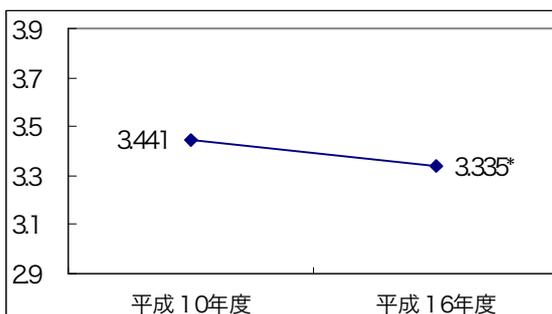
〔図Ⅱ-3-(1)-⑧ 小学図工，中学美術 好感度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(1)-⑨ 高校芸術 好感度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(1)-⑩ 小・高 家庭，中学 技術家庭 好感度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(1)-⑪ 高校専門 好感度の変化〕

## (2) 教科に対する理解度

5 あなたは、次の授業の内容がどのくらいわかりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ほとんどわかる わかる 半分くらいわかる あまりわからない わからない

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

### 【小学校】

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 音楽 6. 図画工作 7. 体育 8. 家庭 9. 総合的な学習の時間

### 【中学校】

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科 5. 英語 6. 音楽 7. 美術 8. 体育  
9. 技術・家庭 10. 総合的な学習の時間

### 【高校】

1. 国語 2. 数学 3. 地歴 4. 公民 5. 理科 6. 保健体育 7. 芸術（音楽、美術、工芸、書道）  
8. 英語 9. 家庭 10. 専門教科 11. 総合的な学習の時間

### <前回調査>

13 あなたは、次の授業の内容がどのくらいわかりますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ほとんどわかる わかる 半分くらいわかる あまりわからない わからない

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

### 【小学校】

1. 国語 2. 社会 3. 算数 4. 理科 5. 音楽 6. 図画工作 7. 体育 8. 家庭

### 【中学校】

1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 理科 5. 英語 6. 音楽 7. 美術 8. 体育  
9. 技術・家庭

### 【高校】

1. 国語 2. 数学 3. 社会（地歴・公民） 5. 理科 6. 保健体育 7. 芸術（音楽、美術、工芸、書道）  
8. 英語 9. 家庭 10. 専門教科

児童生徒の各教科に対する理解の状況がどのように変容したか分析することで、児童生徒の学習意欲の状況を知る手がかりを得たい。

評定尺度を表Ⅱ-3-(2)-①に示したように点数化し、校種別にそれぞれの教科の平均値を求める。これを教科に対する「理解度」とする。前回調査と今回調査の理解度の差について〔表Ⅱ-3-(2)-① 評定尺度の点数化表〕検定を実施したところ表Ⅱ-3-(2)-②～④のようになった。これをグラフ化したものが図A～Kである。尚、表Ⅱ-3-(2)-②～④に対応させ、図Ⅱ-3-(2)-①～⑪中の\*は  $P < .05$ 、\*\*は  $p < .01$  を表している。

1	ほとんどわかる（5点）
2	わかる（4点）
3	半分くらいわかる（3点）
4	あまりわからない（2点）
5	わからない（1点）

### 【分析と考察】

#### <国語（図Ⅱ-3-(2)-①）>

全校種において、前回調査の平均値との有意差は認められない。そのため、国語に関する理解度は前回と同様である。

理解度を上げることができなかった点について、その原因を推察すれば、新学習指導要領の実施に伴い授業時数の削減に加えて、教師の指導方法に対するとまどいがあると思われる。

個に応じた指導や指導と評価の一体化など、「わかる授業」を目指し、児童生徒一人一人を大切にしたい授業を目指して取り組んでいるにもかかわらず理解度が上昇していない現状について検討していく必要がある。

#### <算数・数学（図Ⅱ-3-(2)-②）>

小学生の理解度が大きく上昇しているその理由として次の3つの要因が考えられる。一つは、現行学習指導要領になり、算数的活動や自主的な活動が重視されている。教師が意識的に授業で取り組むようになって、子どもたちの学習意欲が高まった。次に、学力向上対策の取り組みと連動して補充的な学習やドリル学習が定着し、計算力の向上等が児童の自信につながっている。最後に、T. T. 加配から、少人数加配、授業改善担当の加配等により効果的な指導形態がとられ、個に応じた指導・習熟度別指導による効果が、児童のわかるという実感の向上につながった。

また、中学生、高校生についても理解度は上昇している。これは、各学校で基礎的・基本的な内容の定着を図るために、少人数習熟度別指導の実践といった指導方法の工夫・改善の取り組みの成果だと考えられる。

#### <社会科（図Ⅱ-3-(2)-③）>

小学生の理解度は上昇しているが、中学生及び高校生の地理歴史に関する理解度は、有意差が認められないため前回と同様である。他方、公民に関しては、理解度が低下している。

小学生の理解度上昇の要因として考えられることは、課題解決学習などを含めて児童に考え、まとめさせるという学習形態が広く取り入れられるようになったこと、社会科において取り扱う内容が削減されたこと、教科書の内容記述がより簡明になったことなどが考えられる。課題解決学習のような学習形態は、調べたことを多少なりとも自分でまとめるという作業を行うため、学習内容に対する理解を深める上で有効であると思われる。

中学生に関しては、好感度は低下し、理解度は前回と同様である。これは、平成14年度より本県においては、パイ型の指導となったことや、現行学習指導要領の下で指導内容が大きく変わったこと等により、教師に指導上のとまどいがあるためと推察される。

#### <理科（図Ⅱ-3-(2)-⑤）>

理解度低下の要因として、県内の小学校では、理科専科の教諭が教務主任と兼任することが多く、教材研究の時間が十分に確保できずに、専門性を生かした授業の工夫・改善などが十分でないという状況も少なからず存在するためと推察される。

中学校において理解度が高くなっているのは、学習指導要領の改訂で学習内容の最低基準、つまり基礎的・基本的な内容が重視されたことも一因であると思われる。さらに、生徒が理解しやすいように、新しい教科書がイラストやカラー写真等を多用して説明していることも理解度の上昇につながったのではないかと考えられる。

小中高と学年が進行するにつれて理解度が低くなっているのは、興味関心が低くなっていくことと相関があると思われる。

#### <英語（図Ⅱ-3-(2)-④）>

英語の場合、学年進行により学習内容の分量が増大するため、生徒によっては常に十分な理解がなされない状態で授業にのぞまなければならないことが推察される。そのため新しく学ぶ事項が十分理解できず、「分かった」という実感、満足感、あるいは安心感を持たずにいるものと思われる。

好感度の項で述べたように、教師のさらなる指導法の改善が求められる。

〔表Ⅱ-3-(2)-② 小学校 教科理解度 検定結果〕

	前回調査	今回調査	
1 国語 標本数	3.912 (0.889) 1107	3.869 (0.918) 867	t (1972)=1.073 n. s.
2 社会 標本数	3.519 (1.069) < 1107	3.671 (1.018) 858	t (1963)=3.209 p<. 01
3 算数 標本数	3.787 (1.070) < 1109	4.050 (0.977) 866	t (1925)=5.683 p<. 01
4 理科 標本数	3.884 (1.005) > 1106	3.714 (0.994) 867	t (1971)=3.755 p<. 01
5 音楽 標本数	3.820 (1.114) 1103	3.736 (1.145) 857	t (1958)=1.639 n. s.
6 図工 標本数	4.063 (1.003) < 1100	4.167 (0.919) 861	t (1911)=2.375 p<. 05
7 体育 標本数	4.385 (0.837) 1105	4.430 (0.802) 861	t (1964)=1.208 n. s.
8 家庭 標本数	4.034 (0.943) < 1108	4.132 (0.895) 862	t (1968)=2.339 p<. 05
9 総合 標本数		3.843 (0.903) 847	

〔表Ⅱ-3-(2)-④ 高等学校教科理解度 検定結果〕

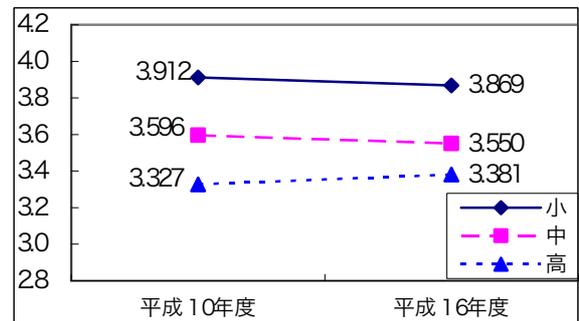
	前回調査	今回調査	
1 国語 標本数	3.327 (0.919) 1436	3.381 (0.924) 1671	t (3105)=1.607 n. s.
2 数学 標本数	2.969 (1.153) < 1429	3.075 (1.157) 1671	t (3098)=2.553 p<. 05
3 地歴 標本数	3.015 (1.039) 1435	2.945 (1.025) 1636	t (3069)=1.867 n. s.
4 公民 標本数	3.015 (1.039) > 1435	2.891 (0.986) 1553	t (2935)=3.343 p<. 01
5 理科 標本数	2.954 (1.034) 1404	2.979 (1.027) 1661	t (3063)=0.675 n. s.
6 保体 標本数	3.608 (0.974) > 1422	3.465 (0.977) 1661	t (3081)=4.035 p<. 01
7 芸術 標本数	3.530 (1.018) > 1412	3.268 (1.082) 1618	t (3010)=6.846 p<. 01
8 英語 標本数	2.948 (1.079) 1431	2.876 (1.107) 1666	t (3095)=1.805 n. s.
9 家庭 標本数	3.278 (0.939) > 1340	3.163 (0.962) 1512	t (2850)=3.222 p<. 01
10 専門 標本数	3.249 (0.948) > 626	3.115 (1.003) 1052	t (1676)=2.705 <. 01
11 総合 標本数		3.176 (0.959) 1510	

「3. 地歴」、「4. 公民」は、前回調査では社会科としている。

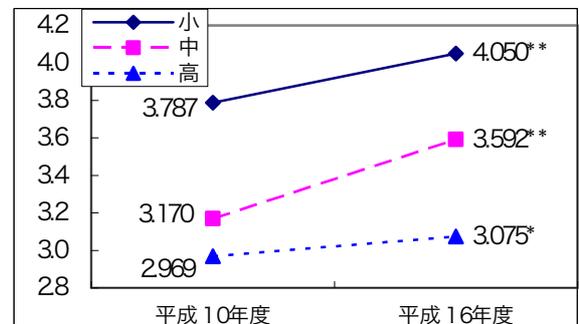
「7. 芸術」には音楽、美術、工芸、書道が含まれる

〔表Ⅱ-3-(2)-③ 中学校教科理解度 検定結果〕

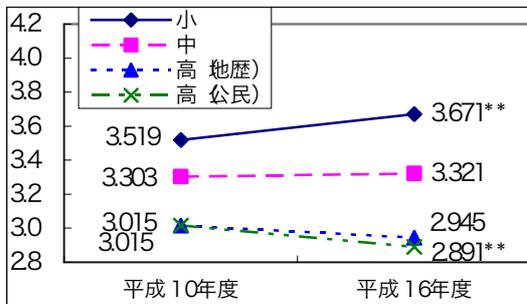
	前回調査	今回調査	
1 国語 標本数	3.596 (0.923) 1143	3.550 (0.906) 1241	t (2382)=1.234 n. s.
2 社会 標本数	3.303 (1.083) 1143	3.321 (1.068) 1240	t (2381)=0.414 n. s.
3 数学 標本数	3.170 (1.210) < 1142	3.592 (1.147) 1239	t (2379)=8.731 p<. 01
4 理科 標本数	3.144 (1.085) < 1144	3.321 (1.084) 1238	t (2380)=3.967 p<. 01
5 英語 標本数	3.239 (1.198) 11451234	3.191 (1.240) 1234	t (2377)=0.960 n. s.
6 音楽 標本数	3.479 (1.104) > 11371241	3.295 (1.156) 1241	t (2376)=3.970 p<. 01
7 美術 標本数	3.507 (1.016) > 11341235	3.231 (1.112) 1235	t (2366)=6.318 p<. 001
8 体育 標本数	3.574 (1.015) 11351236	3.555 (1.028) 1236	t (2369)=0.462 n. s.
9 技家 標本数	3.405 (0.975) > 11361236	3.207 (0.974) 1236	t (2370)=4.939 p<. 01
10 総合 標本数		3.409 (1.005) 1203	



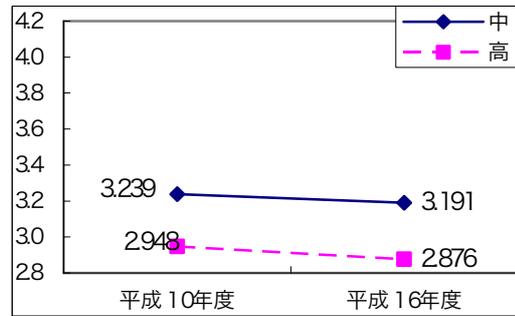
〔図Ⅱ-3-(2)-① 小・中・高 国語 理解度の変化〕



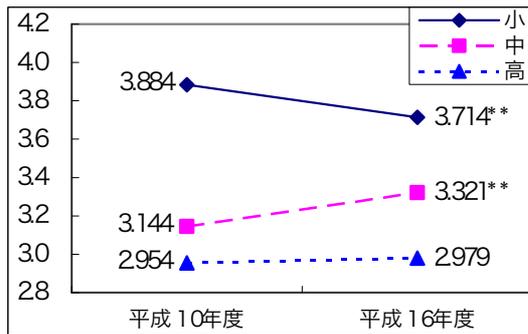
〔図Ⅱ-3-(2)-② 小学算数、中・高数学 理解度の変化〕



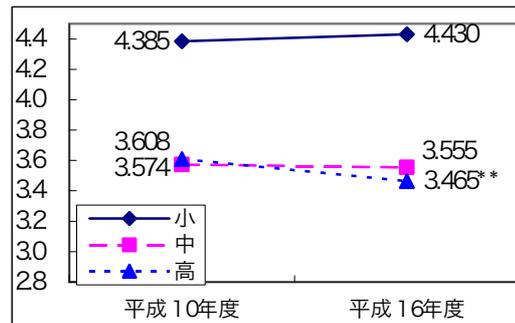
〔図Ⅱ-3-(2)-③ 小・中 社会, 高校 地歴・公民 理解度の変化〕



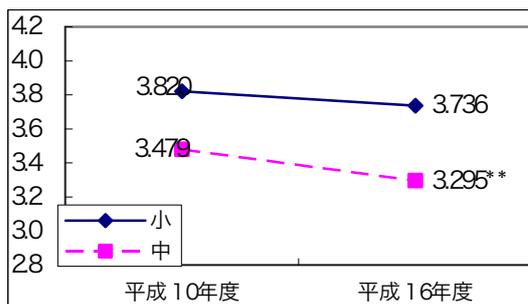
〔図Ⅱ-3-(2)-④ 中・高 英語 理解度の変化〕



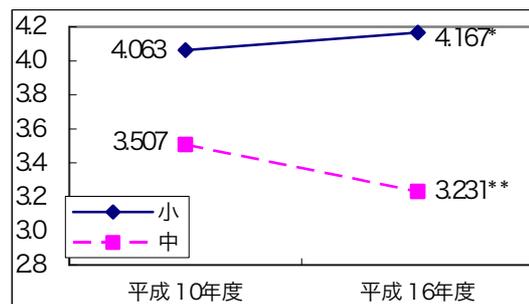
〔図Ⅱ-3-(2)-⑤ 小・中・高 理科 理解度の変化〕



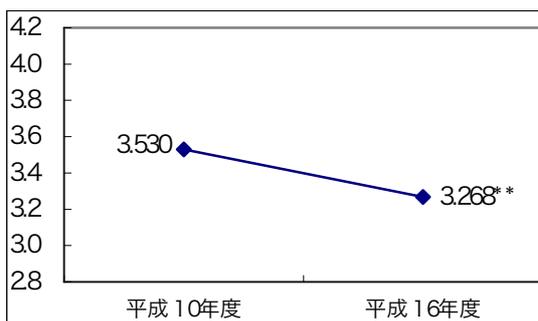
〔図Ⅱ-3-(2)-⑥ 小・中・高 保健体育 理解度の変化〕



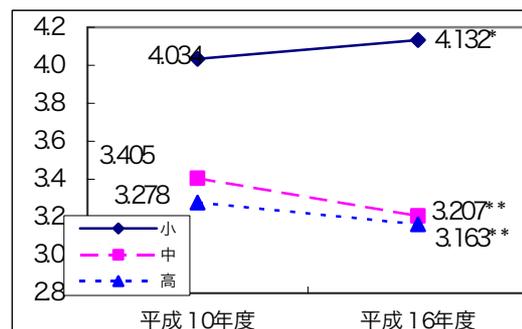
〔図Ⅱ-3-(2)-⑦ 小・中 音楽 理解度の変化〕



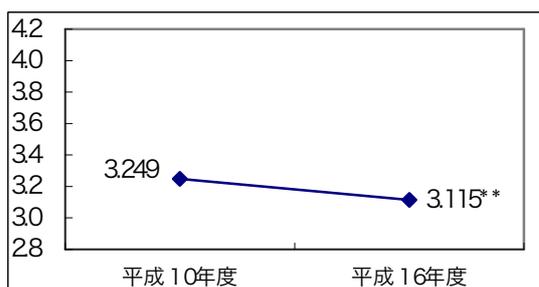
〔図Ⅱ-3-(2)-⑧ 小学図工, 中学美術 理解度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(2)-⑨ 高校芸術 理解度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(2)-⑩ 小・高 家庭, 中学 技術家庭 理



〔図Ⅱ-3-(2)-⑪ 高校 専門 理解度の変化〕

#### 4 学習意欲と学習上の喜び

<p><b>2</b> 学習意欲</p> <p>1. とてもある</p> <p>2. ある</p> <p>3. あまりない</p> <p>4. まったくない</p>	<p><b>37</b> あなたは勉強していて、どんなときに、「うれしい」と感じますか。次の中から、あなたが「うれしい」と感じた順に3つまで選び番号を回答欄に書いてください。</p> <p>1. テストの点数が上がったとき</p> <p>2. 先生からほめられたとき</p> <p>3. 保護者からほめられたとき</p> <p>4. 友だちよりテストの点数がよかったとき</p> <p>5. むつかしい問題が自分の力でできたとき</p> <p>6. 先生の質問にうまく答えることができたとき</p> <p>7. 先生の説明がよくわかったとき</p> <p>8. 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき</p> <p>9. 自分の好きな勉強のとき</p>
--	---

「**2**学習意欲」と「**37**学習上の喜び」の一番目の選択についてクロス集計を行った。それぞれの選択肢における高意欲群と低意欲群の選択率差について、 $\chi^2$ 検定を実施した結果有意差が認められたので、さらに残差分析を行い、その結果を表 II-5-①～③のようにまとめた。

また、設問中の選択肢1～9を、〔学習への達成感・充実感を得たとき〕、〔褒められたとき〕、〔目に見える結果が出たとき〕の3つの領域に分類する。それぞれ領域の選択肢において、高意欲群の選択率が低意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したのが表 II-5-④である。同様に、低意欲群の選択率が、高意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したのが表 II-5-⑤である。

〔学習への達成感・充実感を得たとき〕というのは、学習内容に児童生徒が関与した結果得られる喜びのことであり、選択肢として「5. むつかしい問題が自分の力でできたとき」、「6. 先生の質問にうまく答えることができたとき」、「7. 先生の説明がよくわかったとき」、「8. 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき」、「9. 自分の好きな勉強のとき」が含まれる。

〔褒められたとき〕という領域には、選択肢「2. 先生からほめられたとき」、「3. 保護者からほめられたとき」が含まれる。

また〔目に見える結果が出たとき〕という領域には選択肢「1. テストの点数が上がったとき」「4. 友だちよりテストの点数がよかったとき」が含まれる。〔褒められたとき〕、〔目に見える結果が出たとき〕の両領域とも外的な要因により得られる喜びである。

#### 【分析と考察】

##### 〔学習への達成感・充実感を得たとき〕

前回調査では、全校種において高意欲群が当該領域に含まれる選択肢を選択する傾向がわずかながら見られた。

今回調査では、高意欲群のその傾向が弱まり、逆に低意欲群の方が、当該領域に含まれる選択肢を選択する傾向が、わずかではあるが見られる。例えば、小学校の低意欲群児童は「7. 先生の説明がよくわかったとき」、「9. 自分の好きな勉強のとき」を選択する傾向がある。中高の低意欲群の生徒も「9. 自分の好きな勉強のとき」を、高意欲群より多く選択している。

この要因として、次のことが考えられる。まず、低意欲群は、学習内容に困難さを感じているため「先生の説明がわかったとき」に喜びを感じる。また、学習意欲が低いために、苦手な教科を敬遠し、逆に自分の好きな教科であれば、学習に取り組みやすいと思われる。このことから、児童の学習意欲を高めるためには、わかりやすい説明が必要であることと、それぞれの教科を児童が好きになるような工夫が必要であることがわかる。

高校生についても、前回に比して高意欲群が当該領域の選択肢を選択する傾向が弱まっている。そのような状況で高意欲群は「5. むつかしい問題が自分の力でできたとき」を選択する傾向にある。

このことから、児童生徒が達成感を味わえるような学習指導の工夫が求められる。

〔褒められたとき〕

当該領域に属する選択肢については、前回と同様に、今回も高意欲群と低意欲群とでは有意差が認められない。このことから、褒めることは、高意欲群、低意欲群ともに影響を与えるということが考えられる。

〔目に見える結果が出たとき〕

今回調査には、小学生の高意欲群が、「1. テストの点数が上がったとき」を、中学生の定意欲群が「4 友だちよりテストの点数がよかったとき」を選択する傾向にある。

前回調査結果からの提言では、学習意欲を高めるためには、学習内容に関与して得られた喜びが必要であるとしている。これを踏まえるなら、学習上の喜びを外的要因に求める状況を改めさせるよう指導したい。例えば、テストの点数が上がったのであれば、「その教科の学習内容を理解するために努力したことが実を結んだ」というように、学習上の充実感や達成感という喜びの方向へ導いていくような指導上の工夫が必要である。

〔表Ⅱ-5-① 小学生 学習の喜び〕

	前回			今回		
	高意欲群	低意欲群	残分	高意欲群	低意欲群	残分
1 テストの点数が上がったとき	200 (38. 0)	58 (45. 0)		407 (61. 9)	> 88 (48. 4)	p<. 01
2 先生からほめられたとき	26 (4. 9)	6 (4. 7)		35 (5. 3)	4 (2. 2)	
3 保護者からほめられたとき	62 (11. 8)	12 (9. 3)		36 (5. 5)	17 (9. 3)	
4 友だちよりテストの点数がよかったとき	13 (2. 5)	< 12 (9. 3)	p<. 01	27 (4. 1)	13 (7. 1)	
5 むつかしい問題が自分の力でできたとき	179 (34. 0)	> 26 (20. 2)	p<. 01	114 (17. 4)	22 (12. 1)	
6 先生の質問にうまく答えることができたとき	6 (1. 1)	0 (0. 0)		6 (0. 9)	2 (1. 1)	
7 先生の説明がよくわかったとき	8 (1. 5)	3 (2. 3)		4 (0. 6)	< 5 (2. 7)	p<. 05
8 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき	7 (1. 3)	0 (0. 0)		1 (0. 2)	1 (0. 5)	
9 自分の好きな勉強のとき	25 (4. 8)	< 12 (9. 3)	p<. 05	27 (4. 1)	< 30 (16. 5)	p<. 01
合計	526 (100)	129 (100)		657 (100)	182 (100)	

$\chi^2(8)=28.271$  p<.001

$\chi^2(8)=29.073$  p<.001

〔表Ⅱ-5-② 中学生 学習の喜び〕

	前回			今回		
	高意欲群	低意欲群	残分	高意欲群	低意欲群	残分
1 テストの点数が上がったとき	193 (54. 2)	< 186 (62. 6)	p<. 05	643 (77. 6)	298 (73. 8)	
2 先生からほめられたとき	17 (4. 8)	9 (3. 0)		15 (1. 8)	3 (0. 7)	
3 保護者からほめられたとき	24 (6. 7)	11 (3. 7)		23 (2. 8)	6 (1. 5)	
4 友だちよりテストの点数がよかったとき	11 (3. 1)	< 22 (7. 4)	p<. 05	29 (3. 5)	< 28 (6. 9)	p<. 01
5 むつかしい問題が自分の力でできたとき	87 (24. 4)	> 45 (15. 2)	p<. 01	91 (11. 0)	40 (9. 9)	
6 先生の質問にうまく答えることができたとき	2 (0. 6)	3 (1. 0)		3 (0. 4)	0 (0. 0)	
7 先生の説明がよくわかったとき	6 (1. 7)	6 (2. 0)		5 (0. 6)	1 (0. 2)	
8 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき	8 (2. 2)	2 (0. 7)		4 (0. 5)	3 (0. 7)	
9 自分の好きな勉強のとき	8 (2. 2)	13 (4. 4)		16 (1. 9)	< 25 (6. 2)	p<. 01
合計	356 (100)	297 (100)		829 (100)	404 (100)	

$\chi^2(8)=24.308$  p<.001

$\chi^2(10)=25.537$  p<.001

〔表Ⅱ-5-③ 高校生 学習の喜び〕

	前回			今回		
	高意欲群	低意欲群	残分	高意欲群	低意欲群	残分
1 テストの点数が上がったとき	132 (43. 0) <	263 (53. 7)	p<. 01	559 (62. 3)	487 (66. 6)	p<. 01
2 先生からほめられたとき	3 (1. 0)	10 (2. 0)		24 (2. 7)	19 (2. 6)	
3 保護者からほめられたとき	5 (1. 6)	11 (2. 2)		10 (1. 1)	12 (1. 6)	
4 友だちよりテストの点数がよかったとき	7 (2. 3)	23 (4. 7)		41 (4. 6)	35 (4. 8)	
5 むつかしい問題が自分の力でできたとき	97 (31. 6) >	106 (21. 6)	p<. 01	183 (20. 4) >	99 (13. 5)	
6 先生の質問にうまく答えることができたとき	3 (1. 0)	3 (0. 6)		9 (1. 0)	3 (0. 4)	
7 先生の説明がよくわかったとき	10 (3. 3)	12 (2. 4)		17 (1. 9)	24 (3. 3)	
8 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき	27 (8. 8) >	12 (2. 4)	p<. 01	19 (2. 1)	7 (1. 0)	
9 自分の好きな勉強のとき	23 (7. 5)	50 (10. 2)		35 (3. 9) <	45 (6. 2)	
合計	307 (100)	490 (100)		897 (10)	731 (100)	

$\chi^2(8)=34.118$  p<.001

$\chi^2(10)=25.537$  p<.001

〔表Ⅱ-5-④ 高意欲群の選択で、高意欲群>低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

		小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
達成感・充実感を得たとき	5. むつかしい問題が自分の力でできたとき	*		*		*	*
	6. 先生の質問にうまく答えることができたとき						
	7. 先生の説明がよくわかったとき						
	8. 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき					*	
	9. 自分の好きな勉強のとき						
褒められた時	2. 先生からほめられたとき						
	3 保護者からほめられたとき						
目に見える結果が出たとき	1. テストの点数が上がったとき		*				
	4. 友だちよりテストの点数がよかったとき						

〔表Ⅱ-5-⑤ 低意欲群の選択の選択で、高意欲群<低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

		小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
学習について達成感・充実感を得たとき	5. むつかしい問題が自分の力でできたとき						
	6. 先生の質問にうまく答えることができたとき						
	7. 先生の説明がよくわかったとき		*				
	8. 勉強の目標や計画がはっきりとしているとき						
	9. 自分の好きな勉強のとき	*	*		*		*
褒められた時	2. 先生からほめられたとき						
	3. 保護者からほめられたとき						
目に見える結果が出たとき	1. テストの点数が上がったとき			*		*	
	4. 友だちよりテストの点数がよかったとき	*		*	*		

## 5 学習意欲と学習上の悩み

<p><b>2</b> 学習意欲</p> <p>1. とてもある</p> <p>2. ある</p> <p>3. あまりない</p> <p>4. まったくない</p>	<p><b>38</b> あなたは勉強について、どんなことで悩んでいますか。次の中から、<u>あなたが悩んでいる順に3つまで選び番号を回答欄に書いてください。</u></p> <p>1. 勉強のやりかたがわからない</p> <p>2. 努力しても成績が思うように上がらない</p> <p>3. どうして勉強しなければいけないのかと思う</p> <p>4. どうしても好きになれない教科がある</p> <p>5. コツコツと努力できないで困る</p> <p>6. 授業の内容がわからない</p> <p>7. よい参考書や問題集（ワークブック、ドリル）が見つからない</p> <p>8. おぼえなければいけないことが多すぎる</p> <p>9. 保護者の期待が大きすぎる</p> <p>10. 先生が成績にこだわりすぎる</p> <p>11. 特に悩んでいない</p>
--	--

今回調査においては、「**38**学習上の悩みに」の選択肢の一つとして、「11.特に悩んでいない」を加えている。そのため、選択肢の設定数が異なることから、前回調査結果との単純な比較はできないが、本稿Ⅱ-2-(1)「学習意欲と学習の目的」と同様に、変容の傾向を知る手がかりを得るために、以下の表Ⅱ-4-①～③におけるように前回と今回の調査結果を併記して比較した。

また、選択肢を〔勉強の意義・有用性に対する悩み〕、〔自己の学習姿勢に関する悩み〕、〔学び方・学習内容に関する悩み〕、〔悩みの原因の自己以外への転嫁〕、〔悩み無し〕の5つの領域に分類した。

表Ⅱ-4-④は、それぞれ領域の選択肢において、高意欲群の選択率が低意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したものである。同様に表Ⅱ-4-⑤は、低意欲群の選択率が高意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したものである

### 【分析と考察】

「**2**学習意欲」と「**38**学習上の悩み」の一番目の選択についてクロス集計を行い $\chi^2$ 検定を実施した結果、有意差が認められた。そこで、それぞれの選択肢について残差分析を行った結果は表Ⅱ-4-①～③のようになった。

#### 〔勉強の意義・有用性に対する悩み〕

全ての校種において、前回調査と同様に、低意欲群は「どうして勉強しなければいけないのかと思う」を選択する傾向にある。このことは、学習の目的が見いだせないため、学習意欲が高まらないということにつながっていると推察される。学習の目的が見つからないということは、将来の進学段階や希望する職業等についての目標が見いだせていないためであると思われる。児童生徒に夢と希望を抱かせ、自己の生き方や在り方について考えさせる指導の工夫を充実させる必要がある。

中学生については、前回調査と同様に高意欲群は、「3.どうしても好きになれない教科がある」を選択する傾向にある。これは、学習意欲が高いため、好きになれない教科つまり苦手意識のある教科に対しても取り組もうとするためとも思われる。高校生は当該選択肢について、前回調査では高意欲群の選択率が低意欲群のそれを上回り有意差が認められたが、今回は認められない。

#### 〔学び方・学習内容に関する悩み〕

前回調査では、全ての校種において、低意欲群は高意欲群よりも「1.勉強のやり方がわからない」を選択する傾向にあり、今回調査でも、小学生を除いてこの傾向に変化はない。低意欲群では、勉強方法がわからないため意欲が出ないとも考えられる。日々の授業において、学習方法を適宜指導

する必要がある。

中学生では前回調査結果と同様、高意欲群の生徒に「おぼえなければならないことが多すぎる」を多く選択する傾向がある。これは学習意欲の高い生徒は学習に真剣に取り組んでおり、特に高校入試等を意識して多くの学習内容に積極的に関わろうとしているためと推察される。

「おぼえることが多すぎる」という意識は、生徒が学習に負担感を感じていると思われる、そのために学習意欲が低下するということが懸念される。

学習において覚えるということは大切なことであるが、「なぜそうなるのか」ということを考えさせるように、学習上の意識付けを図ることが必要であると思われる。

〔悩み無し〕

今回、小学生では、低意欲群よりも高意欲群において「11.特に悩んでいない」を選択する傾向にある。このことから、小学生は、学習が順調である限りにおいて、学習上「特に悩んでいない」と認識しているものと推察される。

他方、中学生及び高校生に関しては、「11.特に悩んでいない」に関して、高意欲群と低意欲群とは有意差は認められない。

〔表Ⅱ-4-① 小学生 学習の悩み〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分
1. 勉強のやりかたがわからない	75 (14.9)	< 33 (25.8)	p<.05	85 (13.1)	23 (13.0)	p<.01
2. 努力しても成績が思うように上がらない	117 (23.2)	20 (15.6)		111 (17.2)	34 (19.2)	
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う	29 (5.8)	< 18 (14.1)	p<.05	30 (4.6)	< 36 (20.3)	
4. どうしても好きになれない教科がある	154 (30.6)	28 (21.9)		124 (19.2)	33 (18.6)	
5. コツコツと努力できないで困る	35 (6.9)	6 (4.7)		25 (3.9)	4 (2.3)	
6. 授業の内容がわからない	4 (0.8)	3 (2.3)		14 (2.2)	2 (1.1)	
7. よい参考書や問題集が見つからない	11 (2.2)	1 (0.8)		7 (1.1)	0 (0.0)	
8. おぼえなければいけないことが多すぎる	66 (13.1)	15 (11.7)		43 (6.6)	10 (5.6)	
9. 保護者の期待が大きすぎる	13 (2.6)	4 (3.1)		13 (2.0)	2 (1.1)	
10. 先生が成績にこだわりすぎる	0 (0.0)	0 (0.0)		2 (0.3)	2 (1.1)	
11. 特に悩んでいない				193 (29.8)	> 31 (17.5)	
合計	504 (100)	128 (100)		647 (100)	177 (100)	

$\chi^2(9)=26.291$  p<.001

$\chi^2(10)=57.321$  p<.001

〔表Ⅱ-4-② 中学生 学習の悩み〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分
1. 勉強のやりかたがわからない	80 (23.1)	< 123 (42.3)	p<.05	198 (24.1)	< 123 (30.6)	p<.05
2. 努力しても成績が思うように上がらない	69 (19.9)	> 30 (10.3)	p<.05	150 (18.2)	60 (14.9)	
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う	16 (4.6)	< 33 (11.3)	p<.05	38 (4.6)	< 70 (17.4)	p<.01
4. どうしても好きになれない教科がある	60 (17.3)	> 26 (8.9)	p<.05	157 (19.1)	> 51 (12.7)	p<.01
5. コツコツと努力できないで困る	44 (12.7)	48 (16.5)		49 (6.0)	19 (4.7)	
6. 授業の内容がわからない	12 (3.5)	9 (3.1)		25 (3.0)	13 (3.2)	
7. よい参考書や問題集が見つからない	2 (0.6)	2 (0.7)		11 (1.3)	3 (0.7)	
8. おぼえなければいけないことが多すぎる	51 (14.7)	> 16 (5.5)	p<.05	76 (9.2)	> 21 (5.2)	p<.05
9. 保護者の期待が大きすぎる	12 (3.5)	4 (1.4)		16 (1.9)	4 (1.0)	
10. 先生が成績にこだわりすぎる	0 (0.0)	0 (0.0)		2 (0.2)	4 (1.0)	
11. 特に悩んでいない				100 (12.2)	34 (8.5)	
合計	346 (100)	291 (100)		647 (100)	177 (100)	

$\chi^2(9)=62.414$  p<.001

$\chi^2(10)=77.793$  p<.001

〔表Ⅱ-4-③ 高校生 学習の悩み〕

	前回			今回		
	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分	高意欲群 (%)	低意欲群 (%)	残分
1. 勉強のやりかたがわからない	54 (18.3)	< 142 (30.0)	p<.05	265 (29.6)	< 261 (35.8)	p<.01
2. 努力しても成績が思うように上がらない	49 (16.6)	> 39 (8.2)	p<.05	106 (11.9)	67 (9.2)	
3. どうして勉強しなければいけないのかと思う	16 (5.4)	< 94 (19.8)	p<.05	54 (6.0)	< 93 (12.7)	p<.01
4. どうしても好きになれない教科がある	63 (21.4)	> 73 (15.4)	p<.01	135 (15.1)	87 (11.9)	
5. コツコツと努力できないで困る	61 (20.7)	> 61 (12.9)	p<.05	128 (14.3)	> 72 (9.9)	p<.01
6. 授業の内容がわからない	7 (2.4)	18 (3.8)		18 (2.0)	24 (3.3)	
7. よい参考書や問題集が見つからない	3 (1.0)	2 (0.4)		11 (1.2)	> 1 (0.1)	p<.05
8. おぼえなければいけないことが多すぎる	34 (11.5)	37 (7.8)		69 (7.7)	43 (5.9)	
9. 保護者の期待が大きすぎる	8 (2.7)	8 (1.7)		5 (0.6)	11 (1.5)	
10. 先生が成績にこだわりすぎる	0 (0.0)	0 (0.0)		2 (0.2)	3 (0.4)	
11. 特に悩んでいない				101 (11.3)	68 (9.3)	
合計	295 (100)	474 (100)		894 (100)	730 (100)	

$\chi^2(9)=63.640$  p<.001

$\chi^2(10)=53.330$  p<.001

〔表Ⅱ-4-④ 高意欲群の選択の選択で、高意欲群>低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

悩みの種類	選択肢	小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
勉強の意義・有用性に対する悩み	3. どうして勉強しなければいけないのかと思う						
	4. どうしても好きになれない教科がある			*	*	*	
自己の学習姿勢に関する悩み	2. 努力しても成績が思うように上がらない			*		*	
	5. コツコツと努力できないで困る					*	*
学び方・学習内容に関する悩み	1. 勉強のやりかたがわからない						
	6. 授業の内容がわからない						
	8. おぼえなければいけないことが多すぎる			*	*		
悩みの原因の自己以外への転嫁	9. 保護者の期待が大きすぎる						
	7. よい参考書や問題集が見つからない						*
	10. 先生が成績にこだわりすぎる						
悩み無し	11. 特に悩んでいない		*				

〔表Ⅱ-4-⑤ 低意欲群の選択の選択で、高意欲群<低意欲群となっており、なおかつ、有意差が認められる選択肢〕

悩みの種類	選択肢	小学校		中学校		高等学校	
		前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査
勉強の意義・有用性に対する悩み	3. どうして勉強しなければいけないのかと思う	*	*	*	*	*	*
	4. どうしても好きになれない教科がある						
自己の学習姿勢に関する悩み	2. 努力しても成績が思うように上がらない						
	5. コツコツと努力できないで困る						
学び方・学習内容に関する悩み	1. 勉強のやりかたがわからない	*		*	*	*	*
	6. 授業の内容がわからない						
	8. おぼえなければいけないことが多すぎる						
悩みの原因の自己以外への転嫁	9. 保護者の期待が大きすぎる						
	7. よい参考書や問題集が見つからない						
	10. 先生が成績にこだわりすぎる						
悩み無し	11. 特に悩んでいない						

## 6 学習意欲と学習環境

### (1) 保護者からの言葉かけの内容と学習意欲

2	学習意欲	1. とてもある	2. ある	3. あまりない	4. まったくない
27	あなたは、保護者から、次のようなことを言われたりすることがありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。				
		よくある	ある	あまりない	ない
1.	「勉強しなさい」と言われる・・・	1-----	2-----	3-----	4-----
2.	「テレビばかり見て」と言われる・・・	1-----	2-----	3-----	4-----
3.	「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」と言われる・・・	1-----	2-----	3-----	4-----
4.	「勉強をコツコツ努力しなさい」と言われる・・・	1-----	2-----	3-----	4-----
5.	「勉強をあきらめないでがんばりなさい」と言われる・・・	1-----	2-----	3-----	4-----
6.	「大学に入らなければだめ」と言われる	1-----	2-----	3-----	4-----

設問 27 における枝間の評定尺度を表 II-6-(1)-①の左側に記してあるように点数化する。その上で、学習高意欲群と学習低意欲群におけるそれぞれの評定尺度の平均値を求める。他方、前回調査においては、評定尺度が5段階で設定されているため、表 II-6-(1)-①の右側に記されているように点数化し、平均値を求める。

〔表 II-6-(1)-① 評定尺度の点数化表〕

今回調査	前回調査
1. よくある (4点)	1. しょっちゅうある (5点)
2. ある (3点)	2. わりとある (4点)
3. あまりない (2点)	3. たまにある (3点)
4. ない (1点)	4. あまりない (2点)
	5. ほとんどない (1点)

この平均値を、前回調査及び今回調査における「保護者からの声かけ度」とする。

なお、評定尺度の設定が異なるため、前回調査と今回調査の結果を単純に比較はできなが、児童生徒の変容の様子を捉えるために以下に示す比較・分析を行った。

#### 【分析と考察】

まず、設問 27 で提示されている保護者から言われている言葉について次の2領域に分類した。

〔保護者からの注意〕の領域に含まれる言葉として、選択肢（「1. 勉強しなさい」、「2. テレビばかり見て」、「3. 授業中先生の話をしっかり聞きなさい」）が含まれる。

〔保護者からの激励〕の領域に含まれる言葉として（「4. 勉強をコツコツ努力しなさい」、「5. 勉強をあきらめないでがんばりなさい」、「6. 大学に入らなければだめ」）とした。

それぞれ領域の選択肢において、学習高意欲群の選択率が学習低意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したのが表 II-6-(1)-⑤である。同様に、学習低意欲群の選択率が、学習高意欲群より多く、なおかつ有意差が認められるものについて整理したのが表 II-6-(1)-⑥である。

#### 〔保護者からの注意〕

前回調査では、全ての校種で、学習低意欲群の児童生徒は、保護者からこの領域に属する言葉かけがなされる傾向があった。今回調査においても、中学生を除いて、この傾向に変化はみられない。

今回調査では、中学生に関しては、この領域に属する選択肢の全てにおいて有意差は認められない。

〔保護者からの激励〕

中学生、高校生の学習高意欲群の生徒は、保護者から当該領域に属する言葉かけがなされる傾向がある。

以上のことから、学習低意欲群の児童生徒は保護者から注意の言葉をかけられ、他方高意欲群の児童生徒は、激励の言葉をかけられる傾向にあるということがわかる。

学習意欲が高いことから、保護者からの激励を受け、また逆に激励を受けたことで意欲を高めることになる。このことから、激励することは、学習意欲向上という視点から重要であることがうかがわれる。

そのため、このような視点を保護者と共有し、日頃から保護者との連携を図りながら学習指導を進める必要がある。

〔表Ⅱ-6-(1)-② 小学生 保護者からの声かけ度〕

	前回調査			今回調査		
	高意欲群	低意欲群		高意欲群	低意欲群	
1. 勉強しなさい 標本数	2.912 (1.349) 524	<3.372 (1.398) 129	t (651) =3.499 p<.01	2.577 (0.999) 657	<2.751 (1.028) 185	t (840) =2.085 p<.05
2. テレビばかり見て 標本数	2.745 (1.403) 522	2.845 (1.518) 129	t (649) =0.711 ns	2.081 (1.406) 651	2.122 (1.092) 180	t (829) =0.459 ns
3. 先生の話聞く 標本数	2.062 (1.258) 518	2.307 (1.300) 127	t (643) =1.956 ns	1.971 (0.986) 655	<2.145 (1.076) 179	t (832) =1.191 p<.05
4. コツコツ努力 標本数	2.047 (1.222) 516	2.103 (1.313) 126	t (640) =0.460 ns	1.949 (0.976) 647	1.897 (0.989) 184	t (829) =0.639 ns
5. 勉強をあきらめない 標本数	2.033 (1.272) 517	1.969 (1.293) 129	t (644) =0.509 ns	1.958 (1.027) 648	1.858 (1.044) 183	t (829) =1.164 ns
6. 良い学校に入る (前回) 標本数	1.607 (1.114) 519	1.633 (1.235) 128	t (645) =0.226 ns			
6. 大学に入る (今回) 標本数				1.484 (0.850) 653	1.408 (0.798) 184	t (835) =1.090 ns

〔表Ⅱ-6-(1)-③ 中学生 保護者からの声かけ度〕

親からかけられる言葉	前回調査			今回調査		
	高意欲群	低意欲群		高意欲群	低意欲群	
1. 勉強しなさい 標本数	2.862 (1.292) 356	<3.098 (1.305) 297	t (651) =2.307 p<.05	2.588 (1.001) 821	2.635 (1.069) 402	t (1229) =0.744 ns
2. テレビばかり見て 標本数	2.673 (1.295) 355	2.766 (1.410) 295	t (648) =0.874 ns	2.197 (0.993) 821	2.182 (1.028) 402	t (1221) =0.257 ns
3. 先生の話をしっかり聞く 標本数	1.907 (1.146) 354	<2.264 (1.288) 295	t (594) =3.702 p<.01	2.015 (0.975) 820	2.082 (1.010) 401	t (1219) =1.126 ns
4. コツコツ努力する 標本数	2.468 (1.332) 355	2.408 (1.305) 294	t (647) =0.571 ns	2.195 (0.990) 822	>2.035 (0.922) 401	t (1221) =2.647 p<.01
5. 勉強をあきらめない 標本数	2.233 (1.317) 356	2.058 (1.244) 293	t (647) =1.728 ns	2.062 (0.971) 818	>1.887 (0.946) 399	t (1215) =2.980 p<.01
6. 良い学校に入る (前回) 標本数	1.763 (1.152) 354	1.766 (1.129) 295	t (647) =0.038 ns			
6. 大学に入る (今回) 標本数				1.608 (0.866) 826	1.514 (0.852) 401	t (1225) =1.793 ns

〔表Ⅱ-6-(1)-④ 高校生 保護者からの声かけ度〕

親からかけられる言葉	前回調査			今回調査		
	高意欲群	低意欲群		高意欲群	低意欲群	
1. 勉強しなさい 標本数	2,523 (1.332) 308	2,559 (1.259) 487	t (793)=0.382	2,313 (1.036) 901	2,335 (1.008) 738	t (1637)=0.427 ns
2. テレビばかり見て 標本数	2,401 (1.305) 309	2,549 (1.335) 486	t (793)=1.538	1,984 (0.998) 896	2,061 (0.969) 734	t (1628)=1.569 ns
3. 先生の話をしっかり聞く 標本数	1,690 (1.030) 306	<1,959 (1.096) 483	t (787)=3.438 p<.01	1,659 (0.853) 895	<1,815 (0.884) 734	t (1627)=3.600 p<.01
4. コツコツ努力する 標本数	2,172 (1.271) 309	2,161 (1.207) 485	t (792)=0.119 ns	2,050 (1.013) 897	2,014 (734) 734	t (1629)=0.735 ns
5. 勉強をあきらめない 標本数	2,042 (1.231) 306	2,039 (1.119) 485	t (789)=0.039 ns	1,947 (0.997) 893	1,861 (0.880) 735	t (1618)=1.851 ns
6. 良い学校に入る (前回) 標本数	1,841 (1.210) 309	>1,641 (1.036) 487	t (581)=2.409 p<.05	/		
6. 大学に入る (今回) 標本数	/					

〔表Ⅱ-6-(1)-⑤ 高意欲群の選択で高意欲群>低意欲群となり、保護者からの声かけ度に有意差が認められる言葉〕

		小学校		中学校		高校	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回
保護者 からの 注意	1. 「勉強しなさい」						
	2. 「テレビばかり見て」						
	3. 「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」						
保護者 からの 激励	4. 「勉強をコツコツ努力しなさい」				*		
	5. 「勉強をあきらめないでがんばりなさい」				*		
	6. 良い学校に入らなければだめ					*	
	6. 「大学に入らなければだめ」						*
計		0	0	0	2	1	1

〔表Ⅱ-6-(1)-⑥ 低意欲群の選択で高意欲群<低意欲群となり、保護者からの声かけ度に有意差が認められる言葉〕

		小学校		中学校		高校	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回
保護者 からの 注意	1. 「勉強しなさい」	*	*	*			
	2. 「テレビばかり見て」						
	3. 「授業中先生の話をしっかり聞きなさい」		*	*		*	*
保護者 からの 激励	4. 「勉強をコツコツ努力しなさい」						
	5. 「勉強をあきらめないでがんばりなさい」						
	6. 良い学校に入らなければだめ						
	6. 「大学に入らなければだめ」						
計		-1	-2	-2	0	-1	-1

## (2) 学習意欲と友人との関係

2 学習意欲	42 あなたの学校での友だちは、次のどれに近いですか。1つ選んで番号に○をつけてください。
1. とてもある	1. 何でも相談できる友だちがいる
2. ある	2. 友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない
3. あまりない	3. 友だちは少ない
4. まったくない	4. 友だちはまったくいない

### 【分析と考察】

設問42のそれぞれの選択肢の選択者について、学習意欲の平均値を求め、その差について一元配置の分散分析を実施した。その結果をまとめたものが表Ⅱ-6-(2)-③、⑤、⑦である。

前回調査では、小学校・中学校では友人関係により学習意欲が影響される一方で、高校生は影響されないという傾向が示された(表Ⅱ-6-(2)-②、④、⑥)。

今回調査では、小学生に学習意欲の平均値について有意差の傾向が認められる一方で、中学生、高校生では有意差及び有意差の傾向は認められない。そこで、中学・高校生は、友人関係で学習意欲が影響されないか確認するため、学習高意欲群と学習低意欲群とにおける友人関係について、校種別に分析することを試みた。

設問42における選択肢を表Ⅱ-6-(2)-①右記のように点数化し、校種別に平均値を求めた。これを「友人関係度」とする。

〔表Ⅱ-6-(2)-① 友人関係の点数化表〕

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 何でも相談できる友だちがいる (4点)          |
| 2. 友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない (3点) |
| 3. 友だちは少ない (2点)                 |
| 4. 友だちはまったくいない (1点)             |

ここで、設問2における学習高意欲群と学習低意欲群のそれぞれについて友人関係度を求め、その差の検定を実施した結果、表Ⅱ-6-(2)-⑧のようになった。

友人関係度は、小学校の学習高意欲群で高い(表Ⅱ-6-(2)-⑧)。このことから小学校児童の学習意欲は友人関係により影響されることがわかる。

中高生の学習高意欲群と学習低意欲群との間に有意差は認められない。このことから、中高生では、学習意欲が友人関係に左右されないということがうかがわれる。これについては、中高生の友人関係が、現状肯定的な意識で結ばれた学力の近い生徒同士で成立し、互いに向上していくという態度が育っていない状況等によるものと考えられる。他方、学習することに価値や目的を見だし、その学習意欲が、友人関係という外的な要因に影響をうけない生徒が存在するという状況によることも、可能性として考えられる。今回の調査結果については、その要因がどちらの状況によるものなのか判断できない。これについては、今後調査していく必要がある。

いずれにしても、学習を進めていく上で友人関係は全く無視できる要因とは思われない。中学、高校においては、仲間同士で切磋琢磨することにより自己の意欲を高め感性を磨くべき時であろう。友人関係は学習意欲に多少なりとも影響を与えるものと推測されることから、やはり望ましい友人関係を築くような指導は重要であろう。

### <小学生>

〔表Ⅱ-6-(2)-② 前回調査 友人関係と学習意欲度〕

	学習意欲の平均値
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	3.514 (0.778) -1* *1*
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	3.297 (0.814) -1- -1-1*
3 「友だちは少ない」群	2.953 (0.987) -1-1-1-1-1
4 「友だちはまったくいない」群	2.875 (2.875) -1-1-1-1-1
標本数	1114

F =9.547 p<.001 \*p<.05

〔表Ⅱ-6-(2)-③ 今回調査 友人関係と学習意欲度〕

	意欲度	標本数
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	2.960 (0.629) $\ddagger$ †	572
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	2.840 (0.655) $\ddagger$	231
3 「友だちは少ない」群	2.737 (0.750)	38
4 「友だちはまったくいない」群	2.600 (1.020)	5

F = 3.316 p &lt; .05 † .05 &lt; \*p &lt; .10

## &lt;中学生&gt;

〔表Ⅱ-6-(2)-④ 前回調査 友人関係と学習意欲度〕

	意欲度
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	3.090 (0.294)
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	3.030 (0.940)
3 「友だちは少ない」群	2.939 (1.013)
4 「友だちはまったくいない」群	2.500 (2.500)
標本数	1140

F = 122.227 n.s.

〔表Ⅱ-6-(2)-⑤ 今回調査 友人関係と学習意欲度〕

	意欲度	標本数
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	2.746 (0.685)	752
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	2.690 (0.666)	435
3 「友だちは少ない」群	2.667 (0.667)	27
4 「友だちはまったくいない」群	2.563 (0.933)	16

F = 0.986 n.s.

## &lt;高校生&gt;

〔表Ⅱ-6-(2)-⑥ 前回調査 友人関係と学習意欲度〕

	意欲度
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	2.855 (0.916)
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	2.820 (0.901)
3 「友だちは少ない」群	2.723 (0.382)
4 「友だちはまったくいない」群	2.231 (1.049)
標本数	1428

F = 3.021 p &lt; .05

〔表Ⅱ-6-(2)-⑦ 今回調査 友人関係と学習意欲の平均値〕

	意欲度	標本数
1 「何でも相談できる友だちがいる」群	2.587 (0.754)	982
2 「友だちはいるが、何でも相談できる友だちはいない」群	2.546 (0.722)	533
3 「友だちは少ない」群	2.581 (0.690)	86
4 「友だちはまったくいない」群	2.615 (0.923)	26

n.s.

〔表Ⅱ-6-(2)-⑧ 今回調査 学習高意欲群と学習低意欲群の友人関係度〕

	学習高意欲群	学習低意欲群	
小学校	3.657 (0.573)	3.486 (0.675)	t (262) = 3.120
標本数	661	185	p < .01
中学校	3.586 (0.585)	3.516 (0.647)	t (728) = 1.910
標本数	827	403	n.s.
高等学校	3.521 (0.681)	3.516 (0.660)	t (1625) = 0.166
標本数	894	733	n.s.

(注)

前回調査においては、左記のように一元配置の分散分析では有意差が認められないため、学習意欲と友人関係に関する設問とでクロス集計を行い $\chi^2$ 検定を実施した。その結果有意差が認められたので( $\chi^2(3) = 4.728, p < 0.05$ )、残差分析を実施したところ、学習高意欲群は、低意欲群よりも選択肢(1.何でも相談できる友だちがいる)を多く選択する傾向が明らかであるとされた。

### III 児童生徒の学習習慣の状況

#### 1 平日、土曜日、日曜日における学習習慣の形成状況

##### (1) 学習意欲と学習習慣の形成状況

<b>2</b> 学習意欲 1. とてもある 2. ある 3. あまりない 4. まったくない	<b>10</b> あなたは月曜日～金曜日に、家での勉強（塾などでの勉強をふくむ）を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。 * 同様の文章で、 <b>15</b> は土曜日について、 <b>20</b> は日曜日について尋ねている。 1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している 2. 時間は決めていないが毎日勉強している 3. 時々、勉強している 4. ほとんど勉強していない
	【前回調査における設問】 <b>6</b> あなたは家での勉強（塾などでの勉強をふくむ）を計画的におこなっていますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。 * 選択肢は今回調査におけるものと同一

設問**10**の選択肢を表III-1-(1)-①のように点数化し、校種別に学習高意欲群と学習低意欲群の平日・土曜日・日曜日における平均値を求めた。これを「学習習慣形成度」とする。

設問の設定方法が前回調査とは異なるため、調査結果の単純な比較はできない。したがって、前回調査結果については必要に応じて参考データとして提示する。

〔表III-1-(1)-① 学習習慣についての点数化〕

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している(4点)
2. 時間は決めていないが毎日勉強している(3点)
3. 時々、勉強している(2点)
4. ほとんど勉強していない(1点)

#### 【分析と考察】

学習習慣形成度についての差の検定結果は表III-1-(1)-②～④である。

平日、土曜日、日曜日ともに学習意欲が高ければ、学習習慣形成度が高いことがわかる。前回調査でも、学習意欲と学習習慣の間に、相関関係が認められた。したがって、学習習慣を定着させることは学習意欲を高めることにつながり、また逆に、意欲が高まれば学習習慣も定着すると考えられる。

学習習慣の形成と学習意欲の向上は相互に関連し合っており、このことを踏まえた学習指導のあり方が重要であると思われる。

〔表III-1-(1)-② 平日における学習習慣形成度〕

	高意欲群	低意欲群	
小学生	2.927 > 2.471		t(252)=7.351
標本数	658	187	p<.001
中学生	2.593 > 1.968		t(1235)=11.755
標本数	831	406	p<.001
高校生	1.848 > 1.299		t(1583)=15.220
標本数	901	748	p<.001

〔表III-1-(1)-③ 土曜日における学習習慣形成度〕

	高意欲群	低意欲群	
小学生	2.589 > 2.033		t(824)=8.004
標本数	645	181	P<.001
中学生	2.294 > 1.686		t(868)=11.460
標本数	809	395	P<.001
高校生	1.716 > 1.249		t(1543)=13.637
標本数	888	735	P<.001

〔表III-1-(1)-④ 日曜日における学習習慣形成度〕

	高意欲群	低意欲群	
小学生	2.576 > 2.022		t(817)=8.273
標本数	639	180	P<.001
中学生	2.040 > 1.542		t(912)=10.425
標本数	808	395	P<.001
高校生	1.623 > 1.199		t(1519)=13.416
標本数	891	738	P<.001

## (2) 学習習慣の校種別形成状況

10 月曜日～金曜日に、家（塾を含む）での学習を計画的におこなっていますか。

\* 同様に、15は土曜日について、20は日曜日について質問している。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない

### 【分析と考察】

校種別に平日・土曜日・日曜日の学習習慣形成度を求め、さらに一元配置の分散分析を行った結果、表Ⅲ-1-(2)-①～③のようになった。また、平日、土曜日、日曜日別に校種間の学習習慣形成度について一元配置の分散分析を行った結果は、表Ⅲ-1-(2)-④～⑥のようになった。この形成度をグラフ化したものが図Ⅲ-1-(2)-①である。

平日、土曜日、日曜日における全体的な傾向として、小中高となるにつれて学習習慣形成度は低下している（表Ⅲ-1-(2)-④～⑥）。

学習習慣形成度の校種別の特徴として、次の点が挙げられる。

小学生について、平日と土曜日、平日と日曜日に有意差が認められるが、土曜日と日曜日との間の学習習慣形成度の差について有意差は認められない（表Ⅲ-1-(2)-①）。

中学生と高校生については、平日と土曜日、平日と日曜日に加えて土曜日と日曜日の間の学習習慣形成度の差について有意差が認められる（表Ⅲ-1-(2)-②、③）。

このことから、児童生徒の学習習慣は、平日と土曜日、日曜日は異なるものであることがわかる。特に中高生は、学習習慣上、土曜日と日曜日について異なる位置づけをしており、土曜日に学習がなされる傾向にあることがうかがわれる。

〔表Ⅲ-1-(2)-① 小学生 学習習慣形成度〕

	学習習慣形成度	標本数
平日	2.825 (0.675) --**--**	862
土曜日	2.464 (0.856) --'---'	843
日曜日	2.456 (0.825) -----	836

F=25.307 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-1-(2)-③ 高校生 学習習慣形成度〕

	学習習慣形成度	標本数
平日	1.601 (0.801) --**--**	1665
土曜日	1.507 (0.758) --'---*	1640
日曜日	1.433 (0.695) -----	1646

F=18.676 p<.001 \*p<.05 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-1-(2)-⑤土曜日の小中高の学習習慣形成度〕

	学習習慣形成度	標本数
小学生	2.464 (0.856) --**--**	843
中学生	2.099 (0.946) --'---**	1210
高校生	1.506 (0.757) -----	1640

F=397.776 p<.01 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-1-(2)-⑥日曜日の小中高の学習習慣形成度〕

	学習習慣形成度	標本数
小学生	2.456 (0.825) --'---**	836
中学生	1.875 (0.857) --'---**	1209
高校生	1.433 (0.695) -----	1646

F=481.097 p<.01 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-1-(2)-② 中学生 学習習慣形成度〕

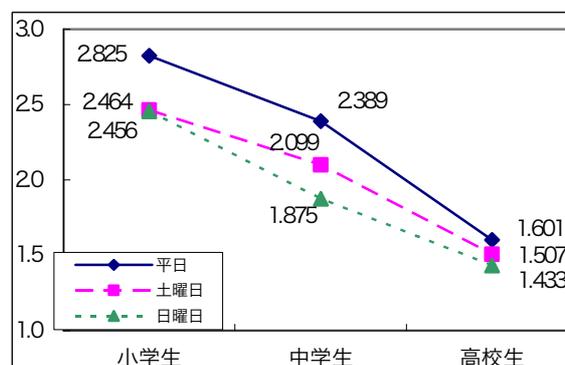
	学習習慣形成度	標本数
平日	2.389 (0.926) --**--**	1243
土曜日	2.099 (0.946) --'---**	1210
日曜日	1.875 (0.857) -----	1209

F=54.763 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-1-(2)-④平日の小中高の学習習慣形成度〕

	学習習慣形成度	標本数
小学生	2.825 (0.675) --**--**	882
中学生	2.389 (0.926) --'---**	1243
高校生	1.061 (0.801) -----	1665

F=719.871 p<.01 \*\*p<.01



〔図Ⅲ-1-(2)-① 校種別 学習習慣形成度〕

### (3) 学習習慣の学年別形成状況

10 月曜日～金曜日に、家（塾を含む）での学習を計画的におこなっていますか。

\* 同様に、15は土曜日について、20は日曜日について質問している。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している
2. 時間は決めていないが毎日勉強している
3. 時々、勉強している
4. ほとんど勉強していない

#### 【分析と考察】

平日、土曜日、日曜日における各学年間の学習習慣形成度について一元配置の分散分析を行った結果、有意差が認められた（表Ⅲ-1-(3)-①, ③, ⑤）。

その上で、各群間の差の検定を行ったところ表Ⅲ-1-(3)-②, ④, ⑥のようになった。これをグラフにしたものが図Ⅲ-1-(3)-①である。

#### <学年別学習習慣に関する全体的な傾向>

学習意欲と学習習慣の形成状況は相互に関連合っている。そのため、学年別の学習習慣形成度グラフと学習意欲度グラフの形状がほぼ一致していることがわかる（図Ⅲ-1-(3)-①, 図Ⅱ-1-(2)-②）。また、学習意欲と同様に、学年別に見る学習習慣形成度も小中高となるにしたがって低下する傾向が現れている。つまり、小学校5年生をピークとして、学習習慣形成度は低下する。中学校では2年生で最も低くなるものの中学3年生では中学1年生のレベルにまで回復するが、高等学校になると再び低下し、高校2年生で最も低くなる。高校3年生では若干回復する。

#### <学年別学習習慣に関する特徴>

前回調査結果では、中学1・2年生と高校1・2年生が、中学と高校のそれぞれにおいて学習習慣形成度が最も低い（表Ⅲ-1-(3)-⑦, ⑧）。しかし、今回調査結果では、中学2年生と高校2年生が、中学校と高等学校のそれぞれにおいて学習習慣形成度が最も低くなっているのがわかる（表Ⅲ-1-(3)-①～⑥）。これは、学習意欲の項で指摘したように“中だるみ”現象とも考えられる。

前回と同様に今回調査結果においても、中学校3年生の学習習慣形成度が、小学生のレベルとまではいかににしても、かなり回復する傾向を見せている。これは、中学3年生が、高校入試に向けた学習への取り組みの必要性を意識しているからだと推察される。

高校3年生についても、前回と同じ傾向を示している。つまり、高校1～3年生の学習意欲度は、小中学生に比して低い状態で高校1～3年生へと横ばい状態で推移しているけれども、学習習慣形成度については、高校3年生で回復傾向を示している（表Ⅲ-1-(3)-①～⑧, 表Ⅱ-1-(2)-②, ③, 図Ⅱ-1-(2)-②）。この要因として、次のことが推察される。高校生の学習意欲度は小中学生に比して総じて低く、そのため学習習慣形成度も低い。しかし、それでも高校3年生になると、自己の進路との関係上、学習に取り組みねばならない。そのため、高校3年生はある程度学習が習慣化しているとみることができる。

学習習慣を形成させ、定着させていくためには、学習意欲の向上が必要であり、逆に、学習意欲向上のためには、学習習慣の形成が不可欠である。

学習意欲と学習習慣において指摘したように、中学1年生や高校1年生における手厚い学習指導、つまり細やかな「入口指導」の必要である。そして、その入り口指導には、中学2年生と高校2年生に生じる“中だるみ”防止指導の視点からの取り組みが求められる。これにより、学習意欲の向上と学習習慣の形成が図られるものと思われる。

[表Ⅲ-1-(3)-① 平日の学習習慣形成度]

学年	学習習慣の平均値	標本数
小5	2.829 (0.692)	433
小6	2.821 (0.657)	429
中1	2.483 (0.838)	429
中2	2.255 (0.962)	424
中3	2.433 (0.960)	390
高1	1.652 (0.748)	546
高2	1.476 (0.725)	572
高3	1.680 (0.096)	547

F =213.133 p<.001

[表Ⅲ-1-(3)-② 平日の学習習慣形成度 学年間の差の検定]

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小5		n.s.	**	**	**	**	**	**
小6	n.s.		**	**	**	**	**	**
中1	**	**		**	n.s.	**	**	**
中2	**	**	**		†	**	**	**
中3	**	**	n.s.	†		**	**	**
高1	**	**	**	**	**		**	n.s.
高2	**	**	**	**	**	**		**
高3	**	**	**	**	**	n.s.	**	

\*p<.05 \*\* p<.01 † .05<p<.10

[表Ⅲ-1-(3)-③ 土曜日の学習習慣形成度]

学年	学習習慣の平均値	標本数
小5	2.470 (0.850)	423
小6	2.457 (0.862)	420
中1	2.227 (0.832)	414
中2	1.889 (0.937)	417
中3	2.179 (1.032)	379
高1	1.563 (0.731)	535
高2	1.407 (0.677)	570
高3	1.559 (0.849)	535

F =121.595 p<.001

[表Ⅲ-1-(3)-④ 土曜日の学習習慣形成度 学年間の差の検定]

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小5		n.s.	**	**	**	**	**	**
小6	n.s.		**	**	**	**	**	**
中1	**	**		**	n.s.	**	**	**
中2	**	**	***		**	**	**	**
中3	**	**	n.s.	**		**	**	**
高1	**	**	**	**	**		†	n.s.
高2	**	**	**	**	**	†		**
高3	**	**	**	**	**	n.s.	***	

\*p<.05 \*\* p<.01 † .05<p<.10

[表Ⅲ-1-(3)-⑤ 日曜日の学習習慣形成度]

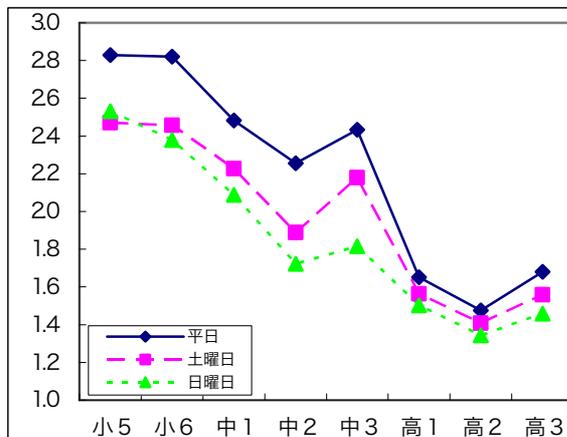
学年	学習習慣の平均値	標本数
小5	2.532 (0.800)	419
小6	2.379 (0.843)	417
中1	2.088 (0.829)	409
中2	1.722 (0.822)	417
中3	1.815 (0.879)	383
高1	1.502 (0.693)	540
高2	1.344 (0.628)	570
高3	1.459 (0.752)	536

F =149.911 P<.001

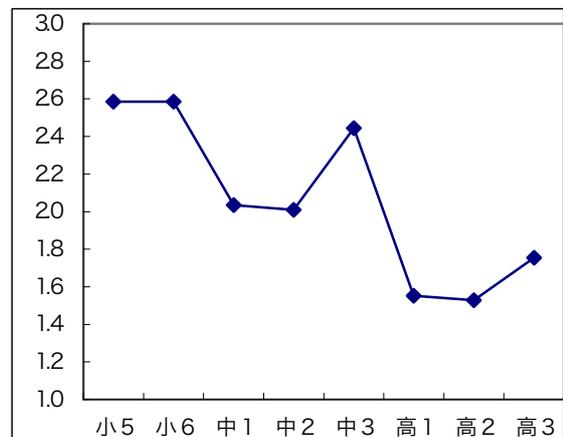
[表Ⅲ-1-(3)-⑥ 日曜日の学習習慣形成度 学年間の差の検定]

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小5		n.s.	**	**	**	**	**	**
小6	n.s.		**	**	**	**	**	**
中1	**	**		**	**	**	**	**
中2	**	**	**		n.s.	**	**	**
中3	**	**	**	n.s.		**	**	**
高1	**	**	**	**	**		*	n.s.
高2	**	**	**	**	**	*		†
高3	**	**	**	**	**	n.s.	†	

\*p<.05 \*\* p<.01 † .05<p<.10



[図Ⅲ-1-(3)-① 今回調査 平日・土・日における学習習慣形成度]



[図Ⅲ-1-(3)-② 前回調査 平日・土・日における学習習慣形成度]

〔表Ⅲ-1-(3)-① 前回調査 学習習慣形成度〕

学年	学習習慣の平均値	標本数
小5	2.585 (0.723)	556
小6	2.585 (0.721)	557
中1	2.034 (0.823)	388
中2	2.010 (0.937)	387
中3	2.444 (0.893)	374
高1	1.553 (0.673)	477
高2	1.529 (0.738)	493
高3	1.754 (0.924)	443

F =148.557 p&lt;.001

〔表Ⅲ-1-(3)-② 前回調査 学年間の差の検定〕

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小5		n. s.	**	**	†	**	**	**
小6	n. s.		**	**	†	**	**	**
中1	**	**		n. s.	**	**	**	**
中2	**	**	n. s.		**	**	**	**
中3	†	†	**	**		**	**	**
高1	**	**	**	**	**		n. s.	**
高2	**	**	**	**	**	n. s.		**
高3	**	**	**	**	**	**	**	

\*p&lt;.05 \*\* p&lt;.01 † .05&lt;p&lt;.10

## 2 平日、土曜日、日曜日における学習習慣と学習時間

### (1) 校種別の学習時間

12 10で1, 2, 3の回答者が対象。家庭（塾を含む）における月曜日～金曜日に1日平均の学習時間

\* 同様に, 17は土曜日について, 22は日曜日について質問している。

1. 30分ぐらい    2. 1時間ぐらい    3. 2時間ぐらい    4. 3時間以上

設問10, 15, 20では, 選択肢4を選択すると, 設問12, 17, 22に回答しないため母集団の数値が変わる。そこで, 設問12, 17, 22において, 設問10, 15, 20で選択肢4を選択した者及び未回答者を集計するために「0分」を設定し, そして各選択肢を点数化して, 校種別に平均値を求めた。これを「学習時間度」とする(表III-2-(1)-①)。

〔表III-2-(1)-① 学習時間点数化表〕

1. 0分〔設問10, 15, 20で選択肢4を選択した者及び未回答者を含む〕(1点)  
2. 30分ぐらい  
3. 1時間ぐらい(2点)  
4. 2時間ぐらい(3点)  
5. 3時間以上(4点)

#### 【分析と考察】

校種別に平日、土曜日と日曜日の学習時間度の平均値の差について一元配置の分散分析を行った(表III-2-(1)-②～④)。また, 平日、土曜日、日曜日別に, 校種間の学習時間度について一元配置の分散分析を行った(表III-2-(1)-⑤～⑦)。

学習時間度は全体的な傾向として, 平日、土曜日, そして日曜日の全てにおいて, 小中高となるにしたがって低下している(表III-2-(1)-⑤～⑦, 図III-2-(1)-①)。

校種別の特徴は以下の通りである。

小中学生については, 平日、土曜日そして日曜日間の学習時間度について有意差が認められる。特に, 中学生では, 土曜日と日曜日における学習時間度の差が, 小学生や高校生に比して大きいことがわかる。

高校生では, 平日と土曜日の間については, 学習時間度に関する有意差は認められないが, 土曜日と日曜日の間については有意差が認められる。この結果と学習習慣の校種別形成状況(p.52)において明らかになった点を踏まえれば, 小中高の児童生徒は, 平日と土曜日そして日曜日に対してそれぞれ異なる学習習慣上の位置づけをしていることがわかる。

高校生の学習時間度は平日、土曜日、日曜日の全てにおいて小中学生に比して低い。学習量の目安の1つとして学習時間を考えた場合, 高校生の学習時間度を上げる必要がある。そのために, 日頃から, ある程度の学習時間を確保するという学習習慣を身につけさせるような指導方法について, 工夫していくことが求められる。

〔表III-2-(1)-② 小学生 学習時間度〕

	学習時間平均値	標本数
平日	2.955 (1.011) -- ** **	867
土曜日	2.531 (1.095) - - - - **	867
日曜日	2.374 (1.027) - - - - - -	867

F=80.552 p<.001 \*\*p<.01

〔表III-2-(1)-③ 中学生 学習時間度〕

	学習時間平均値	標本数
平日	2.825 (1.221) -- ** **	1249
土曜日	2.416 (1.285) - - - - **	1249
日曜日	2.050 (1.119) - - - - - -	1249

F=128.336 p<.001 \*\*p<.01

〔表III-2-(1)-④ 高校生 学習時間度〕

	学習時間平均値	標本数
平日	1.881 (1.192) - - **	1679
土曜日	1.813 (1.238) - - - **	1679
日曜日	1.668 (1.134) - - - -	1679

F=14.062 p<.001 \*\*p<.01

〔表III-2-(1)-⑤ 平日 校種間 学習時間度〕

	学習時間平均値	標本数
小学生	2.955 (1.011) -- ** **	867
中学生	2.825 (1.221) - - - **	1249
高校生	1.881 (1.192) - - - -	1679

F=360.566 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(1)-⑥ 土曜日 校種間 学習時間度〕

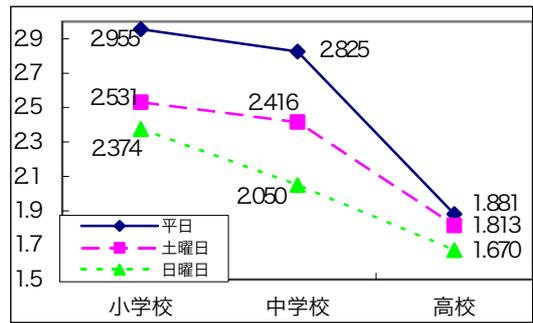
	学習時間平均値	標本数
小学生	2.531 (1.095) --†--**	867
中学生	2.416 (1.285) - - - - **	1249
高校生	1.813 (1.238) - - - - -	1679

F 134.251 p<.001 \*p<.01

〔表Ⅲ-2-(1)-⑦ 平日 校種間 学習時間度〕

	学習時間平均値	標本数
小学生	2.374 (1.027) --†--**	867
中学生	2.050 (1.119) - - - - **	1249
高校生	1.668 (1.134) - - - - -	1679

F =121.033 p<.001 \*\*p<.01 †.05<p<.10



〔図Ⅲ-2-(1)-① 学習時間度 校種別比較〕

## (2) 学習習慣と学習時間

10 月曜日～金曜日に、家（塾を含む）での学習を計画的におこなっていますか。

\* 同様に、15は土曜日について、20は日曜日について質問している。

1. 時間を決めて毎日計画的に勉強している 2. 時間は決めていないが毎日勉強している  
3. 時々、勉強している 4. ほとんど勉強していない

12 10で1, 2, 3の回答者が対象。家庭（塾を含む）における月曜日～金曜日に1日平均の学習時間

\* 同様に、17は土曜日について、22は日曜日について質問している。

1. 30分ぐらい 2. 1時間ぐらい 3. 2時間ぐらい 4. 3時間以上

学習習慣の定着のためにはどの程度の学習時間が必要とされているのかということについて、分析と考察を試みる。

10, 15, 20について、選択肢（「1.時間を決めて毎日計画的に勉強している」、「2.時間は決めていないが毎日勉強している」）の回答者を「高習慣群」とする。他方、選択肢（「3.時々、勉強している」、「4.ほとんど勉強していない」）の回答者を「低習慣群」として分類した。

### 【分析と考察】

校種別に10と12, 15と17, 20と22に関して、高習慣群と低習慣群について、それぞれの選択肢について集計し、 $\chi^2$ 検定を行った。全てにおいて有意差が認められたので、残差分析を実施した（表Ⅲ-2-(2)-①～⑨）。

前回調査では小学生では1時間、中学生、高校生では2時間の学習時間が必要であるとされた。

平日の学習時間について、高習慣群が低習慣群より多く、有意差が認められるのは、すべての校種で学習時間が「1時間ぐらい」からである（表Ⅲ-2-(2)-①～③）。

土曜日の学習時間について、高習慣群が低習慣群より多く、有意差が認められるのは、小中学生では「1時間ぐらい」、高校生については「2時間ぐらい」からである（表Ⅲ-2-(2)-④～⑥）。

日曜日の学習時間については、高習慣群が低習慣群より多く、有意差が認められるのは、平日と同様に全ての校種で学習時間が「1時間ぐらい」からである（表Ⅲ-2-(2)-⑦～⑨）。

以上のことから、平日、土曜日、日曜日において、高習慣群では1時間以上学習に取り組んでいることがわかる。このことから、学習習慣の定着のためには、1時間程度の学習時間が最低限度必要であることがうかがわれる。

低習慣児童生徒（つまり、低意欲群児童生徒）の学習意欲を高めるためには、まず1時間程度の学習を日々積み重ねさせるような指導が求められる。それが、授業内容の理解となり、学習への楽しさ、喜びにつながっていくはずである。その結果、学習意欲が向上していくものと思われる。

### <小学生>

〔表Ⅲ-2-(2)-① 小学生 平日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	6 (0.9)	< 38 (17.8)	**
2. 30分ぐらい	149 (23.0)	< 85 (39.9)	**
3. 1時間ぐらい	257 (39.6)	> 63 (29.6)	**
4. 2時間ぐらい	175 (27.0)	> 25 (11.7)	**
5. 3時間以上	62 (9.6)	> 2 (0.9)	**

$\chi^2(4)=143.262$  p<.01 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(2)-② 小学生 土曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	8 (1.8)	< 130 (32.0)	**
2. 30分ぐらい	123 (28.1)	< 165 (40.6)	**
3. 1時間ぐらい	173 (39.6)	> 84 (20.7)	**
4. 2時間ぐらい	92 (21.7)	> 20 (4.9)	**
5. 3時間以上	38 (8.7)	> 7 (1.7)	**

$\chi^2(4)=214.219$  p<.01 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(2)-③ 小学生 日曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	32 (7.2)	< 142 (36.4)	**
2. 30分ぐらい	132 (29.6)	< 159 (40.8)	**
3. 1時間ぐらい	179 (40.1)	> 68 (17.4)	**
4. 2時間ぐらい	73 (16.4)	> 17 (4.4)	**
5. 3時間以上	30 (6.7)	> 4 (1.0)	**

$\chi^2(4)=173.683$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

### <中学生>

〔表Ⅲ-2-(2)-④ 中学生 平日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	5 (1.0)	< 208 (28.2)	**
2. 30分ぐらい	77 (15.2)	< 219 (29.7)	**
3. 1時間ぐらい	160 (31.7)	> 164 (22.2)	**
4. 2時間ぐらい	180 (35.6)	> 124 (16.8)	**
5. 3時間以上	83 (16.4)	> 23 (3.1)	**

$\chi^2(4)=271.793$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

〔表Ⅲ-2-(2)-⑤ 中学生 土曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	5 (1.4)	< 368 (43.2)	**
2. 30分ぐらい	52 (14.5)	< 231 (27.1)	**
3. 1時間ぐらい	110 (30.6)	> 156 (18.3)	**
4. 2時間ぐらい	121 (33.7)	> 77 (9.0)	**
5. 3時間以上	71 (19.8)	> 19 (2.2)	**

$\chi^2(4)=376.451$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

〔表Ⅲ-2-(2)-⑥ 中学生 日曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	7 (2.5)	< 493 (53.1)	**
2. 30分ぐらい	67 (23.9)	223 (24.0)	
3. 1時間ぐらい	110 (39.3)	> 155 (16.7)	**
4. 2時間ぐらい	75 (26.8)	> 50 (5.4)	**
5. 3時間以上	21 (7.5)	> 8 (0.9)	**

$\chi^2(4)=318.036$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

### <高校生>

〔表Ⅲ-2-(2)-⑦ 高校生 平日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	4 (1.9)	< 946 (65.1)	**
2. 30分ぐらい	15 (7.1)	< 220 (15.1)	**
3. 1時間ぐらい	54 (25.6)	> 197 (13.5)	**
4. 2時間ぐらい	93 (44.1)	> 80 (5.5)	**
5. 3時間以上	45 (21.3)	> 11 (0.8)	**

$\chi^2(4)=650.667$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

〔表Ⅲ-2-(2)-⑧ 高校生 土曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	0 (0.0)	<1040 (71.3)	**
2. 30分ぐらい	16 (8.8)	139 (9.5)	
3. 1時間ぐらい	28 (15.5)	172 (11.8)	
4. 2時間ぐらい	75 (41.4)	> 95 (6.5)	**
5. 3時間以上	62 (34.3)	> 13 (0.9)	**

$\chi^2(4)=712.296$   $p<.01$  \*\* $p<.01$

〔表Ⅲ-2-(2)-⑨ 高校生 日曜日 学習習慣と学習時間〕

	高習慣群	低習慣群	残分
1. 0分	9 (6.6)	<1116 (74.0)	**
2. 30分ぐらい	11 (8.0)	137 (9.1)	
3. 1時間ぐらい	26 (19.0)	> 184 (12.2)	*
4. 2時間ぐらい	38 (27.7)	> 60 (4.0)	**
5. 3時間以上	53 (38.7)	> 12 (0.8)	**

$\chi^2(4)=663.865$   $p<.01$  \* $p<.05$  \*\* $p<.01$

### (3) 学習場所と学習時間

#### ①学習場所

11 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたは月曜日～金曜日に、主にどこで勉強をしていますか。次の中からあてはまるものを全て選び、その番号に○をつけてください。

\* 同様の文章で、16は土曜日について、21は日曜日について質問している。

1. 家庭（りょうやしゅくしゃ、下宿などをふくむ）      2. 塾  
3. 学校での放課後の補習      4. 地域の公民館などでの勉強会など

12 10で1, 2, 3の回答者が対象。家庭（塾を含む）における月曜日～金曜日に1日平均の学習時間

\* 同様に、17は土曜日について、22は日曜日について質問している。

1. 30分ぐらい      2. 1時間ぐらい      3. 2時間ぐらい      4. 3時間以上

#### 【分析と考察】

平日・土曜日・日曜日における学習場所の選択状況について、 $\chi^2$ 検定を実施した（表Ⅲ-2-(3)-①A～C）。

全ての校種で、児童生徒の学習場所として最も多く選択されているのが「家庭」である。その次に「塾」，「学校での補習」という順ある。「地域の公民館などでの勉強会」を選択した児童生徒の割合は低い。

〔表Ⅲ-2-(3)-①A 平日 学習場所に関する度数分布〕

選択肢	小学生 (%)	中学生 (%)	高校生 (%)
1 家庭（りょうやしゅくしゃ、下宿などをふくむ）	①720 (75.0)	②750 (63.2)	①558 (68.6)
2 塾	②177 (18.4)	②391 (32.9)	②144 (17.7)
3 学校での放課後の補習	③57 (5.9)	③30 (2.5)	③97 (11.9)
4 地域の公民館などでの勉強会など	6 (0.6)	16 (1.3)	14 (1.7)
合計	960 (100.0)	1187 (100.0)	813 (100.0)

$\chi^2(6)=149.424$   $P<.001$

〔表Ⅲ-2-(3)-①B 土曜日 学習場所に関する度数分布〕

選択肢	小学生 (%)	中学生 (%)	高校生 (%)
1 家庭（りょうやしゅくしゃ、下宿などをふくむ）	①646 (86.9)	①667 (73.9)	①500 (79.1)
2 塾	②63 (8.5)	②197 (21.8)	②97 (15.3)
3 学校での放課後の補習	③25 (3.4)	③17 (1.9)	③20 (3.2)
4 地域の公民館などでの勉強会など	9 (1.2)	21 (2.3)	15 (2.4)
合計	743 (100.0)	902 (100.0)	632 (100.0)

$\chi^2(6)=62.297$   $P<.001$

〔表Ⅲ-2-(3)-①C 日曜日 学習場所に関する度数分布〕

選択肢	小学生 (%)	中学生 (%)	高校生 (%)
1 家庭（りょうやしゅくしゃ、下宿などをふくむ）	①665 (92.7)	①656 (85.6)	①491 (85.1)
2 塾	②34 (4.7)	②77 (10.1)	②47 (8.1)
3 学校での放課後の補習	③13 (1.8)	③16 (2.1)	③24 (4.2)
4 地域の公民館などでの勉強会など	5 (0.7)	17 (2.2)	15 (2.6)
合計	717 (100)	766 (100.0)	577 (100.0)

$\chi^2(6)=34.905$   $P<.001$

## ②学習場所と学習時間

11 10で1, 2, 3の回答者が対象。月曜日～金曜日における勉強場所。

\* 同様の文章で, 16は土曜日について, 21は日曜日について質問している。

1. 家庭 (りょうやきしゆくしゃ, 下宿などをふくむ)      2. 塾
3. 学校での放課後の補習      4. 地域の公民館などでの勉強会など

12 10で1, 2, 3の回答者が対象。家庭 (塾を含む) における月曜日～金曜日に1日平均の学習時間

\* 同様に, 17は土曜日について, 22は日曜日について質問している。

1. 30分ぐらい      2. 1時間ぐらい      3. 2時間ぐらい      4. 3時間以上

平日, 土曜日, 日曜日について, 校種別に, それぞれの学習場所を選択した児童生徒の学習時間度を求めた。これを「場所別時間度」とする

その差について一元配置の分散分析を行った (表III-2-(3)-②A~I)。

図III-2-(3)-②A~Cは, 場所別時間度の大きさにしたがって, 校種別に学習場所を並べたものである。それぞれの場所別時間度の間で有意差が認められる場合は不等号を用い, 有意差が認められない場合は同質と見なして等号を用いている。また, 他の全ての場所別時間度と有意差が認められない場合はn.s.と表記した。

### 【分析と考察】

今回調査より, 小中高の通塾する児童生徒は, 平日, 土曜日, 日曜日の全てにおいて, 場所別時間度が高い傾向が見られ, 他方, 家庭での場所別時間度は塾に比して低い。

また, 小学生と高校生は, 平日は学校での補習で学習する生徒の場所別時間度は, 家庭の場所別時間度よりも高い傾向がある。

「地域の公民館における勉強会など」で学習する児童生徒の割合は低いが, その場所別時間度は比較的高い。特に高校生は「地域の公民館における勉強会など」と「3. 学校での放課後の補習」との間で, 場所別時間度の有意差が認められない。地域における取り組みの具体的な実態について今後調査する必要がある。

今回調査結果において, 通塾している児童生徒の割合は小学生で32.5%, 中学生で35.7%, 高校生で8.8%となっている。ということは, これ以外の児童生徒の学習場所は, 家庭や学校での補習, 地域の公民館での学習会等ということになる。特に, 学習場所を家庭としている児童生徒の数は極端に多く, それと同時に学習場所を家庭とした児童生徒の学習時間度は低い。

この点を踏まえれば, 「家庭」における学習習慣の形成と定着を図るような指導の必要があると思われる。

〔表III-2-(3)-②-A 小学生 平日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舍, 下宿を含む)	3.069(0.909) ---**	720
2 塾	3.825(0.925) ---**	177
3 学校での放課後の補習	3.263(0.893) ----	57
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.333(0.745)	6

F=32.817 p<.01 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(3)-B 中学生 平日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.940 (0.899) - - - **	750
2 塾	3.921 (0.853) - - - † ** **	391
3 学校での放課後の補習	2.933 (0.854) - - - †	30
4 地域の公民館などでの勉強会など	2.813 (0.726) - - - †	16

F=10.8686 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(3)-C 高校生 平日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.871 (0.877) - - - † † † † †	558
2 塾	4.007 (0.870) - - - † ** † † † † †	144
3 学校での放課後の補習	3.196 (0.927) - - - † ** † † † † †	97
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.357 (0.895) - - - † † † † †	14

F =63.6566 p<.001 \* p<.05 \*\*p<.01 † .05<p<.10

〔図Ⅲ-2-(3)-②A 平日 学習場所における学習時間度の比較〕

<b>小学生</b>	2. 塾 > 3. 学校での放課後の補習 > 1. 家庭 * 4. 地域の公民館などでの勉強会など (n. s.)
<b>中学生</b>	2. 塾 > 1. 家庭 = 3. 学校での放課後の補習 = 4. 地域の公民館などでの勉強会など
<b>高校生</b>	2. 塾 > 4. 地域の公民館などでの勉強会など = 3. 学校での放課後の補習 > 1. 家庭

<土曜日における学習場所における時間度>

〔表Ⅲ-2-(3)-②D 小学生 土曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.820 (0.872) - - - **	646
2 塾	3.921 (1.074) - - - † ** *	63
3 学校での放課後の補習	2.600 (0.894) - - - †	25
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.000 (1.155) - - - †	9

F=29.771 p<.001 \*p<.05 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(3)-②E 中学生 土曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.817 (0.859) - - - **	667
2 塾	4.218 (0.799) - - - † ** **	197
3 学校での放課後の補習	3.059 (0.725) - - - †	17
4 地域の公民館などでの勉強会など	2.714 (0.765) - - - †	21

F=141.723 p<.001 \*\*p<.01

〔表Ⅲ-2-(3)-②F 高校生 土曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	3.080 (0.947) - - - † *	500
2 塾	4.268 (0.696) - - - † ** † † **	97
3 学校での放課後の補習	3.650 (1.152) - - - † † †	20
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.400 (1.020) - - - † † †	15

F=45.762 p<.001 \*p<.05 \*\*p<.01

〔図Ⅲ-2-(3)-②A 土曜日 学習場所における学習時間度の比較〕

小学生
2. 塾 > 4. 地域の公民館などでの勉強会など = 1. 家庭 = 3. 学校での放課後の補習
中学生
2. 塾 > 3. 学校での放課後の補習 = 1. 家庭 = 4. 地域の公民館などでの勉強会など
高校生
2. 塾 > 3. 学校での放課後の補習 = 4. 地域の公民館などでの勉強会など = 1. 家庭

<日曜日における学習場所における時間度>

〔表Ⅲ-2-(3)-②G 小学生 日曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.698(0.932)	665
2 塾	3.029 (1.361)	34
3 学校での放課後の補習	2.769(1.049)	13
4 地域の公民館などでの勉強会など	2.800(1.470)	5

F=1.269 n. s.

〔表Ⅲ-2-(3)-②H 中学生 日曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	2.721(0.832) --**	656
2 塾	3.688(1.084) - - - †**	77
3 学校での放課後の補習	2.625(1.166) - - - †	16
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.000(0.840) - - - - - †	17

F=28.832 p<.001 \*\*p<.01 † .05<p<.10

〔表Ⅲ-2-(3)-②I 高校生 日曜日 学習場所とその学習時間度〕

	時間度	標本数
1 家庭 (寮, 寄宿舎, 下宿を含む)	3.010 (1.000) - - †**	491
2 塾	3.936(1.227) - - - †**	47
3 学校での放課後の補習	3.000(1.323) - - - †	24
4 地域の公民館などでの勉強会など	3.467(1.310)	15

F=11.856 p<.001 \*\*p<.01

〔図Ⅲ-2-(3)-②C 日曜日 学習場所における学習時間度の比較〕

小学生
n. s.
中学生
2. 塾 > 4. 地域の公民館などでの勉強会など = 1. 家庭 = 3. 学校での放課後の補習
高校生
2. 塾 > 1. 家庭 = 3. 学校での放課後の補習
4. 地域の公民館などでの勉強会など (n. s.)

#### (4) 学習時間と学習内容

12 10で1, 2, 3の回答者が対象。家庭（塾を含む）における月曜日～金曜日に1日平均の学習時間  
\* 同様に, 17は土曜日について, 22は日曜日について質問している。

1. 30分ぐらい    2. 1時間ぐらい    3. 2時間ぐらい    4. 3時間以上

13 10で1, 2, 3に答えた人に聞きます。あなたの月曜日～金曜日の家での勉強（塾などでの勉強もふくむ）の内容について聞きます。次の中からあてはまるものを2つまで選び番号に○をつけてください。

\* 同様に, 18は土曜日について, 23は日曜日について質問している。

1. 出された宿題をする
2. 授業の復習をする
3. 授業の予習をする
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する
5. 塾の宿題（課題）を中心に勉強する
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを, さらにくわしく調べる

#### 【分析と考察】

選択肢を表Ⅲ-2-(4)-①のように分類して, 校種別に学習内容と学習時間とのクロス集計を行った(表Ⅲ-2-(4)-②～⑩)。

平日, 土曜日, 日曜日における学習内容の全体的な傾向として, 学習時間の長短に関わらず全校種で「宿題」, 「授業の復習」, 「苦手教科への取り組み」という順である。ただし, 中学生の学習時間長群だけは, 3番目の学習内容として「予習」を挙げている。

校種別の特徴は以下の通りである。

〔表Ⅲ-2-(4)-① 設問12, 17, 22の学習時間別分類表〕

学習時間短群 (30分ぐらい)

学習時間中群 (1時間ぐらい)

学習時間長群 (2時間ぐらい, 3時間以上)

( ) は設問中の選択肢の表記

#### <小学生>

小学生の平日における学習内容については, 学習時間の長短に関係なく「宿題が」, 「授業の復習」, 「苦手教科への取り組み」の順である。土曜日と日日も同様である。

#### <中学生>

平日における中学生の学習内容は, 小学校と異なり, 「授業の復習」が全ての群で多く, 次に「宿題」となっている。学習時間短群と学習時間中群はその次に「苦手な教科への取り組み」と続くが, 時間長群では「授業の予習」となっている。

小学生と異なり, 学習内容が高度になりつつある中学校では予習には時間がかかる。学習時間長群において予習をする生徒の割合が高いのはこの点を反映してのことであると思われる。

土曜日における中学生の学習時間群別の学習内容も平日と同様である。

日曜日については, 学習時間長群の2番目の順位が, 授業の復習と苦手教科への取り組みとなっている。

#### <高校生>

平日における高校生の学習内容は, すべての学習時間群に共通して, 小学生と同様に「宿題」をすること, 「授業の復習」, 「苦手教科への取り組み」の順になっている。

土曜日・日曜における学習内容についても傾向としては平日とほぼ同様であると思われる。

以上のことから以下の点を指摘したい。

まず、学習習慣の定着に関する宿題の有効性についてである。児童生徒は、学習時間の長短に関わらず、学習内容として宿題への取り組みを挙げている。このことから、学習習慣の定着のためには、宿題を出すことは有効であると思われる。

宿題を出す際には、児童生徒の実態に応じて、その出し方や内容に工夫を図る必要があるという点に留意したい。また、出した宿題に対しては、丁寧な点検を実施するなど、事後指導の充実を図り、児童生徒の学習意欲の向上につなげることが大切である。

次に、予習と復習のバランスについてである。

児童生徒の日々の学習にとって、宿題をこなすだけでなく、苦手教科に取り組むことや復習を行うことは、基礎学力の定着という視点からは極めて有効である。しかし、中学生の学習時間長群を除いて「予習」を選択する児童生徒の割合が低い。高等学校においては、学習内容が小中学校に比して高度になる。そのため予習も復習同様に取り組む必要がある。予習をすることにより授業がわかり、それが学ぶ楽しさにつながる。そして、その結果が学習習慣の形成と定着である。

予習には時間がかかるが、予習と復習のバランスがとれた家庭学習指導を行う必要があると思われる。

### <小学生>

〔表Ⅲ-2-(4)-② 小学生 平日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	①192(50.4)	①253(46.1)	①201(43.6)
2. 授業の復習をする	②96(25.2)	②148(27.0)	②106(23.0)
3. 授業の予習をする	30(7.9)	40(7.3)	34(7.4)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③41(10.8)	③70(12.8)	③61(13.2)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	9(2.4)	20(3.6)	48(10.4)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる	13(3.4)	18(3.3)	11(2.4)
	381(100)	549(100)	461(100)

$\chi^2(10)=158.392$   $p<.001$

〔表Ⅲ-2-(4)-③ 小学生 土曜日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	①225(46.9)	①178(40.6)	①111(39.6)
2. 授業の復習をする	②126(26.3)	②116(26.5)	②60(21.4)
3. 授業の予習をする	40(8.3)	44(10.0)	20(7.1)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③49(10.2)	③67(15.3)	38(13.6)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	21(4.4)	21(4.8)	③39(13.9)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる	19(4.0)	12(2.7)	12(4.3)
	480(100)	438(100)	280(100)

$\chi^2(10)=40.850$   $p<.001$

〔表Ⅲ-2-(4)-④ 小学生 日曜日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	①178(42.5)	①299(46.9)	①36(39.1)
2. 授業の復習をする	②103(24.6)	②166(26.0)	②19(20.7)
3. 授業の予習をする	48(11.5)	54(8.5)	11(12.0)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③50(11.9)	③68(10.7)	③14(15.2)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	23(5.5)	30(4.7)	10(10.9)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる	17(4.1)	21(3.3)	2(2.2)
	419(100)	638(100)	92(100)

$\chi^2(10)=13.578$  n. s.

<中学生>

〔表Ⅲ-2-(4)-⑤ 中学生 平日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	②179(34.4)	②174(29.4)	②164(23.2)
2. 授業の復習をする	①185(35.6)	①209(35.4)	①190(26.9)
3. 授業の予習をする	43(8.3)	67(11.3)	③128(18.1)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③ 73(14.0)	③102(17.3)	113(16.0)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	9(1.7)	26(4.4)	105(14.9)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを, さらにくわしく調べる	31(6.0)	13(2.2)	6(0.8)
	520(100)	591(100)	706(100)

$\chi^2(10)=158.392$   $p<.001$

〔表Ⅲ-2-(4)-⑥ 中学生 土曜日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	②168(33.9)	②140(28.8)	②104(20.2)
2. 授業の復習をする	①173(34.9)	①166(34.2)	①143(27.8)
3. 授業の予習をする	53(10.7)	58(11.9)	③102(19.8)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③ 63(12.7)	③ 94(19.3)	87(16.9)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	16(3.2)	18(3.7)	72(14.0)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを, さらにくわしく調べる	22(4.4)	10(2.1)	6(1.2)
	495(100)	486(100)	514(100)

$\chi^2(10)=110.880$   $p<.001$

〔表Ⅲ-2-(4)-⑦ 中学生 日曜日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	①260(33.4)	②105(25.0)	① 21(25.3)
2. 授業の復習をする	②246(31.6)	①153(36.4)	② 19(22.9)
3. 授業の予習をする	97(12.5)	53(12.6)	12(14.5)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③131(16.8)	③ 75(17.9)	② 19(22.9)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	29(3.7)	20(4.8)	11(13.3)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを, さらにくわしく調べる	16(2.1)	14(3.3)	1(1.2)
	779(100)	420(100)	83(100)

$\chi^2(10)=30.379$   $p<.001$

<高校生>

〔表Ⅲ-2-(4)-⑧ 高等学校平日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	①147(38.9)	①173(41.6)	①119(31.2)
2. 授業の復習をする	②123(32.5)	②138(33.0)	①119(31.2)
3. 授業の予習をする	24(6.3)	29(6.9)	33(8.6)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③ 59(15.6)	③ 53(12.7)	③ 64(16.8)
5. 塾の宿題(課題)を中心に勉強する	1(0.3)	7(1.7)	36(9.4)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを, さらにくわしく調べる	24(6.3)	18(4.3)	11(2.9)
	378(100)	418(100)	382(100)

$\chi^2(10)=65.275$   $p<.001$

〔表Ⅲ-2-(4)-⑨ 高等学校 土曜日〕

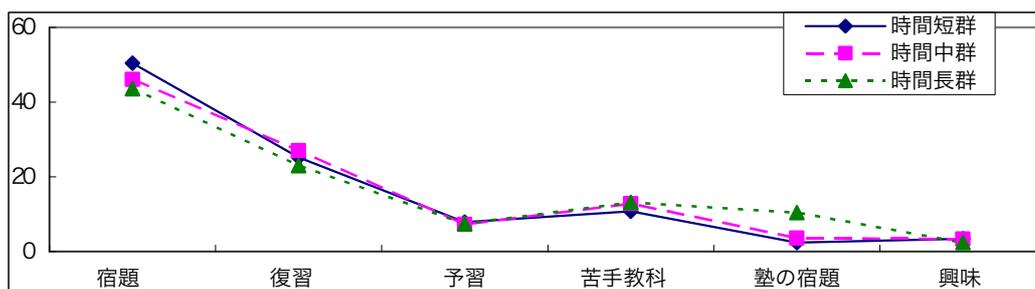
	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	① 94(49.7)	① 115(46.6)	② 91(30.0)
2. 授業の復習をする	② 51(27.0)	② 69(27.9)	① 94(31.0)
3. 授業の予習をする	14(7.4)	18(7.3)	27(8.9)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③ 17(9.0)	③ 35(14.2)	③ 62(20.5)
5. 塾の宿題（課題）を中心に勉強する	0(0.0)	4(1.6)	23(7.6)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる	13(6.9)	6(2.4)	6(2.0)
	189(100)	247(100)	303(100)

$\chi^2(10)=57.387$   $p<.001$

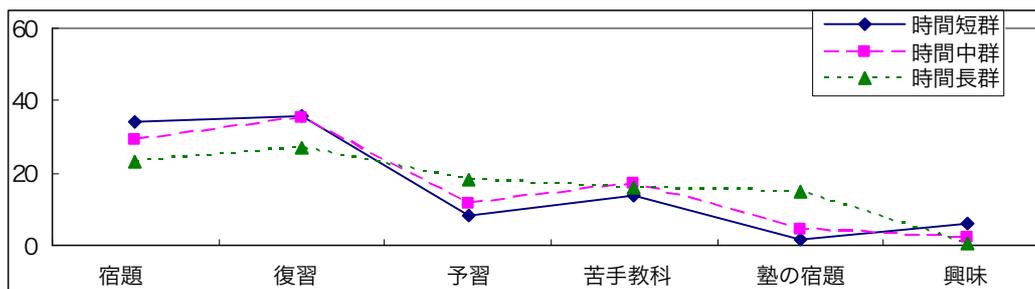
〔表Ⅲ-2-(4)-⑩ 高等学校日曜日〕

	時間低群	時間中群	時間高群
1. 出された宿題をする	① 239(39.6)	② 50(29.4)	① 14(31.1)
2. 授業の復習をする	② 186(30.8)	① 57(33.5)	② 13(28.9)
3. 授業の予習をする	52(8.6)	11(6.5)	6(13.3)
4. 苦手な教科の勉強も一生懸命する	③ 89(14.8)	③ 37(21.8)	③ 9(20.0)
5. 塾の宿題（課題）を中心に勉強する	11(1.8)	9(5.3)	2(4.4)
6. 授業で習ったことで興味を持ったことを、さらにくわしく調べる	26(4.3)	6(3.5)	1(2.2)
	603(100)	170(100)	45(100)

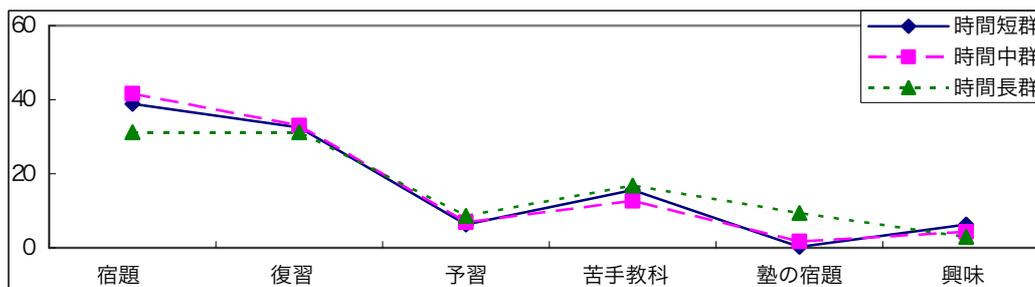
$\chi^2(10)=18.037$  n. s.



〔図Ⅲ-2-(4)-① 小学生 平日 各学習時間群の学習内容〕



〔図Ⅲ-2-(4)-② 中学生 平日 各学習時間群の学習内容〕



〔図Ⅲ-2-(4)-③ 高校生 平日 各学習時間群の学習内容〕

# I 調査の概略

## 1 調査概要

### 1 研究テーマ

「平成 16 年度 児童生徒の学習に関する基本調査」

### 2 研究の目的

当総合教育センターでは、平成 10 年 12 月に「児童生徒の学習に関する基本調査」を実施した。これは、児童生徒、保護者及び教師の 3 者の視点を通して、本県児童生徒の学校や家庭における学習の様子等について調査することを目的とするものであった。この調査の結果、本県における小・中・高の児童生徒の学習の実態、家庭における学習支援の状況、さらには教師による授業改善の取り組みの現状等が明らかになった。

その後 6 年を経て、児童生徒を取り巻く学習環境は大きく変化している。例えば、学習指導要領の改訂と総合的な学習の時間の導入、そして学校週 5 日制の完全実施等である

このような学習環境の変化に伴い、学校においても、基礎的・基本的事項の確実な定着や、そのための指導方法の工夫・改善等の一層の充実が、これまで以上に求められている。

以上の点を踏まえて、本研究は、本県児童生徒の学習状況が前回調査時と比較してどのように変化しているのかということについて把握することを試みる。その上で、本県児童生徒の抱える課題を明確にし、その解決に向けた方策について提言していくことを目的とする。

### 3 調査方法

#### (1) 調査対象

- ①本県の小中高等学校の児童生徒（調査協力校における小学校 5・6 年生，中学校 1～3 年生，高等学校 1～3 年生）を対象とする。
- ②盲聾養護学校においては，上記と同学年の普通小中学校及び普通高校に準ずる教育で教科学習指導を受けている児童生徒とする。
- ③本県の教師（盲聾養護学校においては，協力校内の調査対象児童生徒の教科を担当する教師）。

#### (2) 調査の方法

児童生徒，教師を対象に質問紙法（アンケート）にて実施する。

#### (3) 調査の時期

##### ①アンケート調査実施期間

平成 16 年 6 月 28 日（月）～7 月 9 日（金）

##### ②アンケート調査票返送（回収）期間

平成 16 年 7 月 12 日（月）～7 月 14 日（水）

#### (4) 選定協力校名及び調査人数の概数

##### ①協力校の選定方針

- a 前回調査結果と比較するため，前回調査協力校の中から，都市地区と農村部，本島と離島とのバランスを考慮した上で今回の調査協力校を選定し依頼する。
- b 各学年 1 学級単位で調査を実施する。学級の抽出は各協力校の判断に委ねるものとする。
- c 協力校の教師に対して，教師用アンケートへの回答を依頼する。

②小中高等学校協力校名及び抽出学年

地区名	小学校（5・6年）	中学校（1・2・3年）	高等学校（1・2・3年）	
	14校	12校	普通高校8校	専門高校8校
国頭	辺土名小, 大北小	国頭中, 金武中	北山	北部農林
中頭	中の町小, 津覇小, 宜野湾小	嘉手納中, 与勝中, 北中城中	普天間, 美里	美里工業, 中部商業
那覇	大道小, 仲西小, 城南小, 小禄小	浦添中, 首里中, 那覇中	豊見城, 首里, 小禄	沖縄工業, 那覇商業
島尻	糸満小, 長嶺小, 佐敷小	与那原中, 東風平中	向陽	南部商業, 南部農林
宮古	平良第一小	城辺中		宮古工業
八重山	白保小	石垣中	八重山	
盲聾養護学校	沖縄盲学校, 沖縄ろう学校, 泡瀬養護学校, 鏡が丘養護学校, 那覇養護学校, 森川養護学校 (合計56名) *盲聾養護学校の小・中・高等部の児童生徒については, それぞれ小学校, 中学校, 高等学校(普通高校)に加えた。			
生徒数	905名	1,310名	1839名	
教員数	278名	355名	881名	
	148名(盲聾養護)			

(5) 調査項目の概要

<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>I 属性(設問1)</p> <p>II 児童生徒の学習行動</p> <p>1 学校での学習の様子</p> <p>(1) 学習意欲と学習の目的(設問2~3)</p> <p>(2) 好きな教科・嫌いな教科(設問4)</p> <p>(3) 授業の理解度(設問5)</p> <p>(4) がんばって勉強したい教科(設問6)</p> <p>(5) 授業の受け方(設問7, 8)</p> <p>(6) 学校での好きな授業の方法(設問9)</p> <p>2 家庭での学習の様子</p> <p>(1) 平日における家庭での学習の様子(設問10~14)</p> <p>(2) 土曜日における家庭での学習の様子(設問15~19)</p> <p>(3) 日曜日における家庭での学習の様子(設問20~24)</p> <p>(4) 家庭での学習環境(設問25~27)</p>	<p>3 学校外の学習機会の利用</p> <p>(1) 学習塾の利用(設問28~31)</p> <p>(2) 家庭教師の利用(設問32~35)</p> <p>III 児童生徒の学習観・成績観</p> <p>1 成績観, 学力観(設問36)</p> <p>2 学習していて感じること(設問37)</p> <p>3 学習上の悩み(設問38)</p> <p>4 進路進学希望</p> <p>(1) 受験と希望する進学段階(設問39)</p> <p>(2) 将来就きたい職業の有無(設問40)</p> <p>IV 学校観</p> <p>1 学校観(設問41)</p> <p>2 友人の有無(設問42)</p>
<p>&lt;教師&gt;</p> <p>I 属性(設問1)</p> <p>II 児童・生徒観</p> <p>1 児童生徒の学習意欲の認識状況(設問2, 3)</p> <p>2 児童生徒の学習の認識状況(設問4~7)</p> <p>3 指導方法に対する児童生徒の好感度認識状況(設問12)</p>	<p>III 指導観</p> <p>1 年間指導計画と評価(設問8~11)</p> <p>2 指導方法の工夫と改善(設問13~18)</p>

4 アンケート調査票の回収状況

	児童生徒			教師		
	在籍数	回収数	回収率	在籍数	回収数	回収率
小学校	905	867	95.8%	278	229	82.4%
中学校	1310	1255	95.8%	355	291	82.0%
高等学校	1839	1679	91.3%	881	540	61.3%
盲聾養護	上記小・中・高の児童生徒に含めて集計			148	100	67.6%
合計	4054	3801	93.8%	1662	1160	69.8%

## 5 データの処理方法

### (1) 集計方法

調査協力校の学年及び男女別に、各設問項目別の単純集計を行う。その上で、以下に示した分析の視点に基づいて、クロス集計を行った。

### (2) 分析の視点

#### ①児童生徒

「学習意欲」と「学習習慣」を基軸として、平成10年度調査結果を踏まえながら、校種別あるいは校種間の相異について分析と考察を行った。

#### ②教師

「児童生徒の学習意欲認識の状況」ということに視点を据えて分析と考察を行った。

### (3) 分析の方法

#### ①設問における選択肢の点数化

それぞれの設問項目について、以下のように得点化を図る。例えば、児童生徒に対する設問<sup>2</sup>では、学習意欲の有無に関して、児童生徒に以下に示す選択肢で尋ねている。

1. とてもある	2. ある	3. あまりない	4. まったくない
----------	-------	----------	-----------

この選択肢を、次のように得点化を図り、校種別に平均値を求める。この場合、4点満点ということになる。

1. とてもある(4点)
2. ある(3点)
3. あまりない(2点)
4. まったくない(1点)

#### ②有意差検定\*の実施

本研究では、有意差検定を実施し、その結果を踏まえて分析と考察を加えた。

## \* 有意差検定

調査・実験の研究仮説は、調査した群間に平均値の差が生じることを予測する。しかし、もしデータ上に表れた平均値の差がそんなに大きくないなら、数値上では差があっても、単に偶然によって生じたユレである可能性が強い。その場合、条件の間に本当の差があるとは言えない。

そこで、目の前の差が、偶然によって生じたものか否かを判定する必要がある。もし、偶然に生じる程度の小さな差なら、その差は意味がない。しかし、偶然により生じるよりも大きな差ならその差は意味がある。これを有意差という。この偶然であるか否か、つまり意味があるか、意味がないかの判定を有意差検定、または有意性検定という（田中敏、山際裕一郎著『新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』、教育出版、1992、p.32）。

一般的に、統計検定では、5%の前後3段階（1%、5%、5%以上10%未満）の有意性を判定する。これを「出現確率」（「危険率」）として「p」と表記し、それぞれ「 $p < .01$ 」、「 $p < .05$ 」、「 $.05 < p < .10$ 」と表記する。例えば、2つのグループの間の平均値の差についてt検定が実施された結果、「 $p < .05$ 」とされた場合、これは、2つのグループにおける平均値の差（正確には平均の差を表す統計量であるt値）が偶然に生じる確率が5%未満ということである。そのため、これは偶然に出現しないものと判断して「有意である」ことを示す。なお、 $.05 < p < .10$ については、有意差の傾向があることを意味する（同上書、p.39）。

有意差が認められるということは、平均値に差が生じていることが偶然ではなく何らかの要因によるものということである。なお、有意差が認められない場合はn.s.と表記する。

本調査では、次の検定を用いた。

### a 「t検定」の実施

2群における平均値の差（例えば「男子」グループと「女子」グループの間の平均値の差）が統計学的に意味のあるものかどうか、つまり有意差があるかどうかを判定するための方法として用いられる。（内田治著『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析〔第2版〕』東京図書、2002、p.162）。

### b 「分散分析」の実施

これも有意差検定の1つで、3群以上の間の平均値を統計的に比較するための方法である。

分散分析では、3群以上を扱うため、平均値の差が複数個存在することになる。

例えば、A「小学生グループ」、B「中学生グループ」、C「高校生グループ」の3群間でそれぞれ平均値の差の比較を試みとする。今、分散分析の結果が有意とされたと仮定する。しかし、単に分散分析だけでは、A-B、A-C、B-Cのどの平均の差が有意なのかかわからない。

そのため、これら3組の中で、どの平均値の差が有意なのか、さらに調べる必要がある。その際に実施されるのが、多重比較である。多重比較とは2平均ずつを対にした「多数回」の比較という意味である（田中敏、山際裕一郎、前掲書、p.94-95）。

### c 「 $\chi^2$ （カイ2乗）検定」の実施

クロス集計におけるグループ間について、統計的な差があるかどうかを判断するため、 $\chi^2$ 検定を実施した。例えば、学習時間に関する設問に対して、属性としての「男子」グループと「女子」グループで、選択肢「ア.30分勉強する」、「イ.1時間勉強する」、「ウ.3時間勉強する」のそれぞれに回答した生徒の比率に統計的な差があるかどうか判断するものである。

その際に、このクロス集計表において、 $\chi^2$ 検定の結果が有意と判断された場合、そのクロス表のどのセルが、この有意性に貢献したか判定する必要がある。この判定に用いるのが残差分析である（田中敏、山際裕一郎、前掲書、p.262）。

## 2 調査結果（要約）

本稿においては、特別の断りがない限り、平成10年度調査を前回調査とし、また平成16年度調査を今回調査として表記する。

前回調査は平成10年12月に実施され、今回調査は平成16年6月末～7月に実施した。

以下に示す、項目番号は、本稿Ⅱ及びⅤの番号と対応している。

### 【児童生徒の学習意欲の状況】

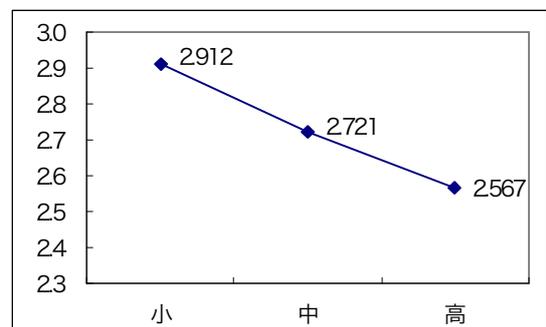
#### 1 学習意欲の状況

##### (1) 校種間における学習意欲の差

学習意欲に関する設問②の選択肢を得点化し、校種別に学習意欲の平均値を求める。これを「学習意欲度」とする。

児童生徒の学習意欲度は、小中高となるにつれて低くなる（図Ⅱ-1-(1)-①）。

その要因として、小中高となるにつれて、学習内容も高度になる。そのため、学習内容について理解不十分な児童生徒が、その状況を改善することなく、新しい学習内容に取り組むことを繰り返せば、学習に困難を感じるようになる。その結果、学習意欲も低下していくということが推察される。



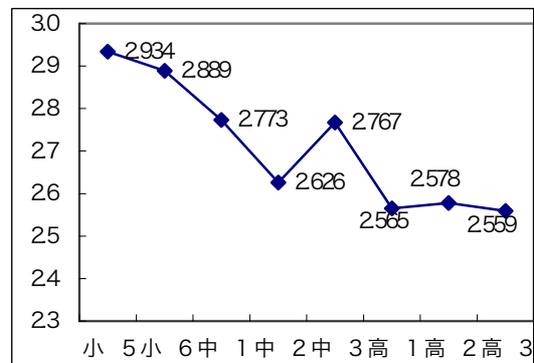
〔図Ⅱ-1-(1)-① 今回調査 校種間の学習意欲度の差〕

##### (2) 学年間における学習意欲の差

学習意欲度は小学5年生でピークとなっている。

中学生になると学習意欲度は低下し、中学2年生で落ち込んでいるが、これはいわゆる「中だるみ」とも考えられる。

中学3年生は中学1年生とほぼ同じ値に戻っている。これは高校受験を目前にして学習意欲が高まっているためだと考えられる。しかし、中学3年生段階で高まった学習意欲度は、小学校5・6年生の水準までは回復していない。他方、高校生では、学習意欲度が、3学年の全てで低い値を示している。中学校3年段階で高まりを見せた学習意欲度は、高校入学と共に低下し、高校3年生まで横ばい状態で推移している。



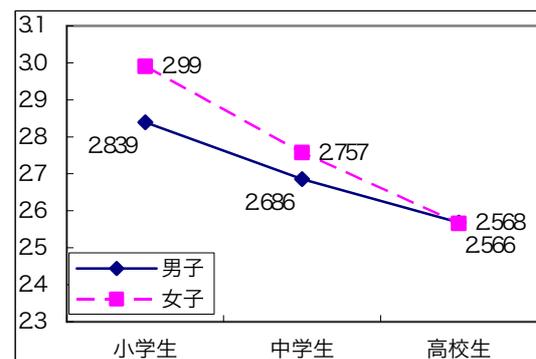
〔図Ⅱ-1-(2)-② 学年別意欲度〕

##### (3) 男女間における学習意欲の差

小中高と成長するにつれて、男女間における学習意欲度の差が小さくなっている。これは前回調査結果と同じである。

学習意欲度の男女差がこのような形態になっていることについて、2つの要因が考えられる。

まず、男子児童生徒と女子児童生徒の間の興味関心の差である。小学校の男子児童は、野球や自転車



〔図Ⅱ-1-(3)-② 今回調査 男女別学習意欲度〕

乗り等の外での活動や遊びに対する興味関心が高い。他方、女子児童は、男子児童ほど、外での遊びや活動等に対して興味を有していないため、学習に取り組みやすいと思われる。しかし、中学生になると、女生徒も、様々な活動や趣味等といった学習以外のことに目を向けはじめ、次第に学習への取り組みが弱くなる。そして、高校生では男生徒と学習意欲度の差がなくなると推察される。

その他、教師と女生徒の間にある心的な距離の存在も要因として考えられる。

前回調査結果における考察では、小中学校における女子児童生徒の教師への心的距離が、男子児童生徒よりも近いということを挙げている。つまり、女子児童生徒は、男子よりも教師の指示や指導を素直に受け入れ、学習に取り組む。したがって女子児童生徒と男子児童生徒の間で、学習意欲度に関するこのような開きが生じると推察される。この女生徒の教師との心的距離は、中学校、高等学校となるにしたがって離れていく。その結果、高等学校では差がなくなるのではないかと推察される。

## 2 学習意欲と学習の目的

### (1) 学習意欲と学習の目的

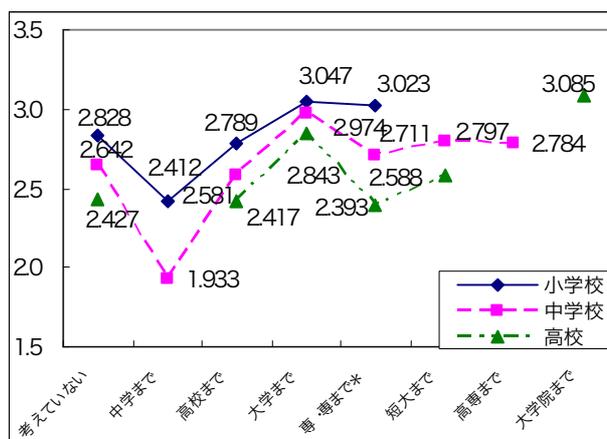
学習意欲に関する設問<sup>2</sup>の選択肢（1. とてもある, 2. ある）と回答した児童生徒を「高意欲群」とし、（3. ない, 4. まったくない）を「低意欲群」とする。

小学生の高意欲群は社会志向的選択肢（例えば「心豊かな人になる」等）を、他方、低意欲群では功利志向的選択肢（例えば「大きな会社に入る」等）を選択する傾向が見られるものの、その傾向、前回より弱くなっている。

中学生では、高意欲群は社会志向的選択肢を選択する傾向は見られるが、その傾向は前回と比較して弱くなっている。他方、低意欲群では功利志向的選択肢を選択する傾向が強まっている。

高校生については、前回調査よりも高意欲群が社会志向的な選択肢を選択する傾向がわずかながら見られる一方で、低意欲群では功利志向的選択肢を選択する傾向がみられる。

社会志向的な選択肢を選択する児童生徒を「意志型」（目的を実現するための行動が伴う）児童生徒として、また、功利志向的選択肢を選択する児童生徒を「願望型」（願望・目的だけで行動が伴わない）児童生徒として定義する。この定義を踏まえれば、今回調査結果では、小中学生の高意欲群における意志型傾向が弱まっていること、他方で、中学生の低意欲群の願望型傾向が強まっている。



### (2) 学習意欲と希望する進学段階

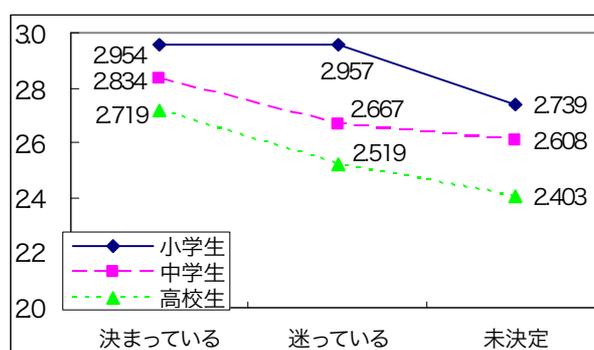
〔図 II-2-(2)-⑤ 今回調査 各進学希望段階群における意欲〕

希望する進学段階が高いほど、その学習意欲度は高まるという傾向が見られる（図 II-2-(2)-⑤）。

### (3) 学習意欲と将来の就きたい職業の決定状況

将来の希望職業について「決まっている」と答えた児童生徒の学習意欲度は高い。その児童生徒については、校種により次の特色が挙げられる。

検定の結果、小学生では、将来就きたい職業が「決まっている」児童と将来の職業について「迷っている」児童は、有意差が認められないことから、ほぼ同質と見ることが出来る。他方、



〔図 II-2-(3)-① 学習意欲と将来の職業の決定状況〕

中学生，高校生では，将来就きたい職業が「決まっていな

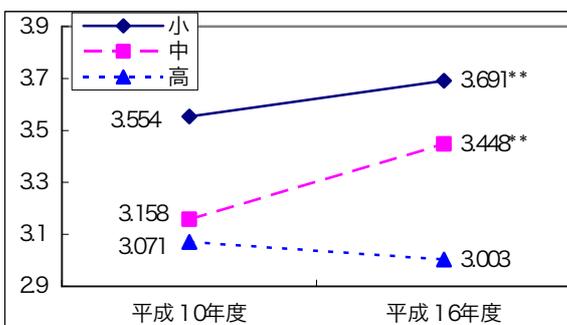
このことから，小学生の「迷っている」児童は，将来就きたいと考えている職業が複数あって，それらへの憧れが強いため迷っているのであり，積極的な迷いととれる。他方，中学生・高校生の「迷っている」生徒は，将来就きたいと考えている複数の職業について，どちらでも良いという程度の迷いであるとも推定される。そういう意味で，消極的な迷いと見ることができる。

### 3 教科の好感度・理解度の変化

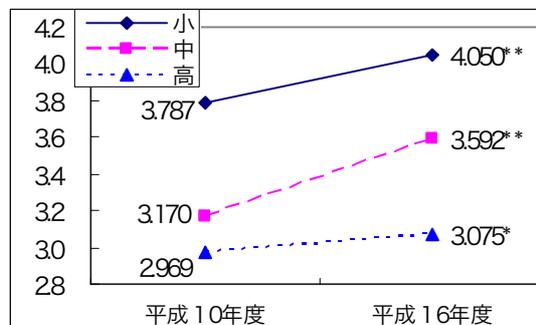
ここでは，以下に示す教科について，前回調査と今回調査との好感度及び理解度の変化に関するグラフを提示する。なお，グラフ中の\*は  $P < .05$ ，\*\*は  $p < .01$  を表している。

#### <小学算数、中・高数学>

好感度と理解度が大きく上昇しているのが数学である。近年，小中学校における算数・数学についての指導方法の工夫・改善の試みが活発になされている。その結果として，以前よりは授業内容について「わかる」児童生徒が増えたため，好感度・理解度の上昇という結果につながっていると思われる。



[図II-3-(1)-② 小学算数，中・高数学 好感度の変化]

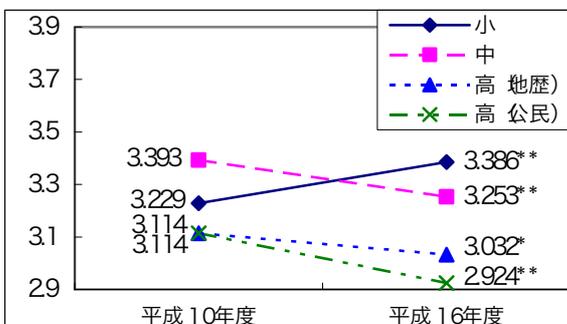


[図II-3-(2)-② 小学算数，中・高数学 理解度の変化]

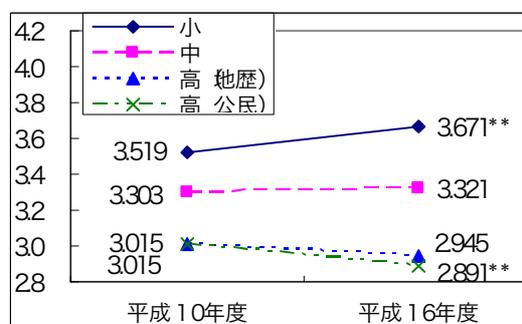
#### <小・中社会 高校地歴・公民>

小学生の理解度・好感度が上昇した要因の1つとして，課題解決学習等の積極的な取り組みを含めた指導法の工夫・改善が進んだこと等が推察される。

中学生に関しては，好感度は低下し，理解度が前回調査とほぼ同様の状況である。これは，指導内容が前回学習指導要領から大きく変更したことなどにより，教師に指導上のとまどいが存在するためと思われる。課題解決学習等が取り込まれるなど，指導方法の工夫改善の試みがなされてはいるものの，児童生徒の理解を十分に深めるまでには至っていないことが考えられる。



[図生徒-3-(1)-③ 小・中 社会 高校地歴・公民 好感度の変化]

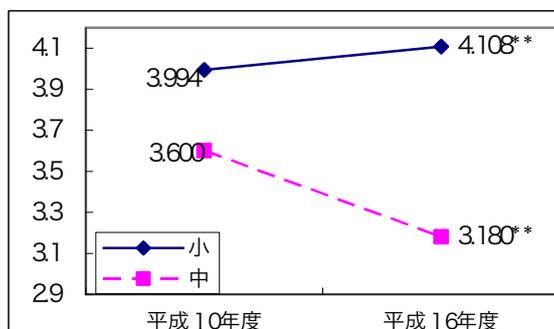


[図II-3-(2)-③ 小・中 社会，高校 地歴・公民 理解度の変化]

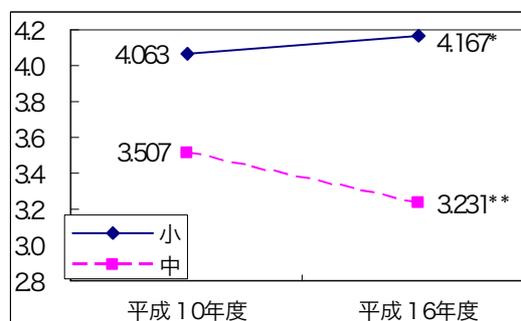
### <小学図工, 中学美術>

小学校では、「造形遊び」の分野の実践が広がって、児童が思いのままに表現活動できる場面が多くなったことが、好感度上昇の要因の一つとして推察される。

中学校では、授業時間の削減により週1時間となったこと等が影響して、生徒の興味や関心が薄れているとも推察される。



〔図Ⅱ-3-(1)-⑧ 小学図工, 中学美術 好感度の変化〕



〔図Ⅱ-3-(2)-⑧ 小学図工, 中学美術 理解度の変化〕

## 4 学習意欲と学習上の喜び

全ての校種で高意欲群の児童生徒は、〔学習への達成感・充実感を得たとき〕の領域に含まれる選択肢を選択する傾向が、前回調査に比して弱まっている。逆に、低意欲群の児童生徒では、当該領域に属する選択肢を選択する傾向がわずかながら見られる。

外的な要因により得られる喜びである〔目に見える結果が出たとき〕の領域に含まれる選択肢については、小学生の高意欲群と中学生の低意欲群がわずかながら選択する傾向にある。

前回調査結果からの提言では、学習意欲を高めるためには、学習内容に関与して得られた喜びが必要であるとしている。これを踏まえるのなら、学習上の喜びを外的要因に求める状況を改めさせるよう指導したい。例えば、テストの点数が上がったのであれば、その結果自体に満足させるのではなく、「学習内容を理解するために努力したことで、問題が解けた」というように、学習上の充実感や達成感という喜びの方向へ導くような指導上の工夫が必要である。

## 5 学習意欲と学習上の悩み

〔学び方・学習内容についての悩み〕に関して、前回調査では、全ての校種において低意欲群は高意欲群よりも「勉強のやり方がわからない」を選択する傾向にあり、今回調査でも、小学生を除いてこの傾向に変化はない。

低意欲群では、勉強方法がわからないため意欲が湧かないと考えられる。日々の授業において、学習方法を適宜指導し、学習意欲の喚起を図っていく必要がある。

中学生では前回調査結果と同様、高意欲群の生徒に「おぼえなければならないことが多すぎる」を多く選択する傾向がある。これは学習意欲の高い生徒は学習に真剣に取り組んでおり、特に高校入試等を意識して多くの学習内容に積極的に関わろうとしているためと推察される。

「おぼえることが多すぎる」という意識は、生徒が学習に負担感を感じていると思われ、そのために学習意欲が低下するということが懸念される。

## 6 学習意欲と学習環境

### (1) 親との関係

低意欲群の児童生徒は保護者から注意の言葉をかけられ、高意欲群の児童生徒は、激励の言葉をかけられる傾向にあるということがわかる。学習意欲が高いから、保護者からの激励をうけるわけで

あり、また逆に激励をうけているから学習意欲が高まりもする。

この点を鑑みれば、激励するということは、学習意欲の向上という視点から重要であることがうかがわれる。

## (2) 学習意欲と友人との関係

友人関係の状況について尋ねた設問 [42] における選択肢を点数化し、校種別に平均値を求めた。これを「友人関係度」とする。

小学校では高意欲群の友人関係度は高い。このことから小学校児童の学習意欲は友人関係により影響されることがうかがわれる。

他方、中高生の高意欲群と低意欲群との友人関係度の差について、有意差は認められない。このことから、中高生では学習意欲が友人関係に左右されないという状況がうかがわれる。

これについては、中高生の友人関係が、現状肯定的な意識で結ばれた学力の近い生徒同士で成立し、互いに向上しようという態度が育っていない状況等によるものと考えられる。他方、学習することに価値や目的を見いだし、その学習意欲が、友人関係という外的な要因に影響をうけない生徒が存在するという状況によるということも、可能性として考えられる。

いずれにしろ今回の調査結果については、その要因がどちらの状況によるものなのか判断できない。これについては、今後調査していく必要がある。

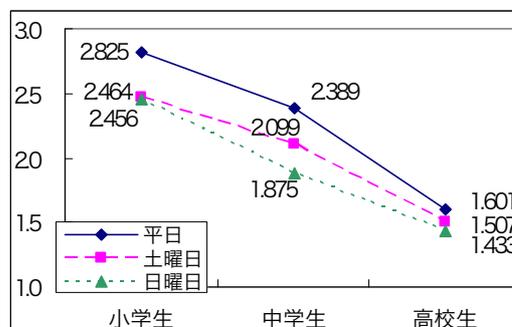
## 【児童生徒の学習習慣の状況】

### 1 平日、土曜日、日曜日における学習習慣の形成状況

#### (1) 学習意欲と学習習慣の形成状況

設問 [10] の選択肢を点数化し、校種別に学習高意欲群と学習低意欲群の平日・土曜日・日曜日における平均値を求めた。これを「学習習慣形成度」とする。

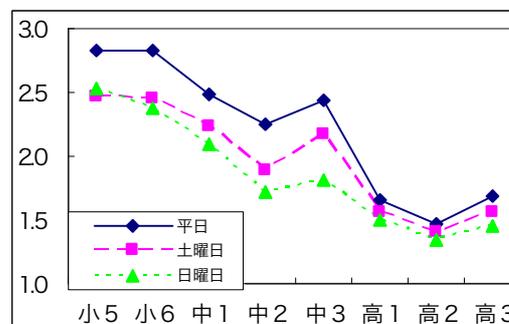
平日、土曜日、日曜日ともに学習意欲度が高ければ、学習習慣形成度が高いことがわかる。前回調査において、学習意欲と学習習慣には相関関係が認められることが確認されている。したがって、学習習慣を定着させることで学習意欲を高めることにつながるであろうし、また逆に、学習意欲が高まれば学習習慣も定着するはずである。この点を踏まえた学習指導のあり方が必要である。



〔図Ⅲ-1-(2)-① 校種別学習習慣形成度〕

#### (2) 学習習慣の校種別形成状況

全体的な傾向として、小中高となるにつれて、学習習慣形成度が低下している。また、児童生徒の学習習慣については、平日と土曜日、日曜日は異なるものであることがわかる。特に中高生は、土曜日と日曜日とでは、土曜日に学習する傾向にある(図Ⅲ-1-(2)-①)。



〔図Ⅲ-1-(3)-② 平日・土・日における学習習慣形成度〕

### (3) 学習習慣の学年別形成状況

学年別に見る学習習慣形成度は、学習意欲と同様に小中高となるにしたがって低下する傾向が現れている(図Ⅲ-1-(3)-②)。

小学校5年生をピークとして、学習習慣形成度は低下する。中学校では2年生で最も低くなるものの、中学3年生では中学1年生のレベルにまで回復する。しかし、回復した学習習慣形成度は、高校生になると再び低下し、高校2年生で最も低くなる。しかし高校3年生では若干回復する。

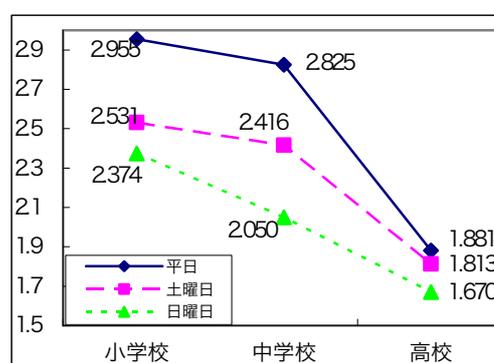
## 2 平日、土曜日及び日曜日における学習習慣と学習時間

### (1) 校種別の学習時間

設問12, 17, 22の選択肢について点数化を図り、それぞれ校種別の平均値を求めた。これを「学習時間度」とする。

小中高の児童生徒は、平日と土曜日そして日曜日に対してそれぞれ異なる学習習慣上の位置づけをしている(図Ⅲ-2-(1)-①)。特に、中学生では、土曜日と日曜日における学習時間度の差が、小学生や高校生に比して大きいことがわかる。

高校生の学習時間度は平日、土曜日、日曜日の全てにおいて小中学生より低い。学習量の目安の1つとして学習時間を考えた場合、高校生の学習時間度を上げる必要がある。そのために、日頃から、ある程度の学習時間を確保するという学習習慣を身につけさせるような指導方法について、工夫していくことが求められる。



〔図Ⅲ-2-(1)-① 学習時間度 校種別比較〕

### (2) 学習習慣と学習時間

設問10, 15, 20について、選択肢(「1.時間を決めて毎日計画的に勉強している」, 「2.時間は決めていないが毎日勉強している」)の回答者を「高習慣群」とする。他方、選択肢(「3.時々、勉強している」, 「4.ほとんど勉強していない」)の回答者を「低習慣群」として分類する。

選択肢として示された学習時間の選択率について、高習慣群が低習慣群より高く、有意差が認められるのは、平日、土曜日、日曜日の全てにおいて、小中高共に学習時間が「1時間ぐらい」からである。

したがって、学習時間が定着している傾向を有する高習慣群では、平日、土曜日、日曜日において、1時間以上の学習に取り組んでいることがわかる。

このことから、学習習慣の定着のためには、全ての校種において、1時間以上の学習時間を確保することが必要であると考えられる。

### (3) 平日と土曜日、日曜日における学習場所と学習時間

#### ①学習場所

全ての校種で、児童生徒に学習場所として最も多く選択されているのは「家庭」である。その次に「塾」、そして「学校での補習」という順となっている。「地域の公民館などでの勉強会」を選択した児童生徒の割合は低い。

#### ②学習場所とその時間

平日、土曜日、日曜日の全てにおいて、通塾する児童生徒の学習時間度が高いという傾向が見られる。これに対して家庭での学習時間度は低い。

また、小学生や高校生では、平日は学校の補習において学習する児童生徒の学習時間度は、家庭

におけるそれよりも高い傾向がある。

さらに、その人数の割合は高くはないものの、学習場所を「地域の公民館における勉強会など」とする児童生徒の学習時間度が比較的高い。これらが具体的にどのような実態なのか、本調査だけでは詳細はつかめない。しかし、地域でこのような取り組みが存在するのであれば、今後調査していく必要がある。

#### (4) 学習時間と学習内容

全体的な傾向として、全ての校種で、中学生の学習時間の長い生徒を除いて平日、土曜日、日曜日における学習内容については、学習時間の長短にかかわらず「宿題」、「授業の復習」そして「苦手教科への取り組み」となっている。

中学生の学習時間の長い生徒は、3番目の選択に「予習」と答えている点が特徴的である。予習には時間がかかるが、学習時間の長い生徒に、予習をする生徒の割合が高いのはこのためであると思われる。

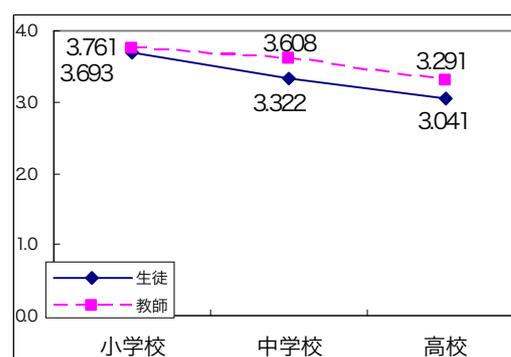
### 教師による児童・生徒の学習状況の認識

#### 1 児童生徒の学習意欲に関する教師の認識

教師に対する設問<sup>2</sup>における選択肢を点数化し、校種別に平均値を求める。これを「教師による児童生徒の学習意欲認識度」する。以下、「学習意欲認識度」と表記する。

前回調査では、学習意欲認識度と、児童生徒の学習意欲度について開きがあり、特に高校においては小中学校よりもそれが大きかった。しかしながら、今回調査においては、教師と児童生徒の間における学習意欲認識度と学習意欲度について、小学生と小学校教師及び高校生と高校教師では有意差が認められない(図IV-1-②)。

このことから、児童生徒の学習意欲の状況に関して、小・高教師は、児童生徒の実態どおり把握していると考えることができる。



〔図IV-1-② 今回調査 教師と児童生徒の平均値〕

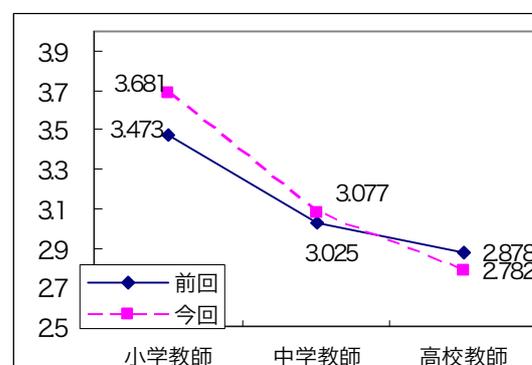
#### 2 児童生徒の授業内容理解状況の認識

教師に対する設問<sup>5</sup>の選択肢を点数化し、校種別にその平均値を求める。これを「教師による児童生徒の学習理解状況に関する認識度」とする。以下「理解状況認識度」と表記する。

小中高となるにつれて、授業の7割程度を理解しているとする児童生徒数に関する教師による理解状況認識度が低下していく傾向がある。

校種別に前回との比較をすれば、小学校教師では、前回よりも理解状況認識度は上昇傾向にあるが、中学校教師及び高校教師では有意差が認められないことから現状維持の傾向にあるといえる(図IV-2-①)。

高等学校では、小・中学校よりも学習内容が難しくなるため、理解状況認識度が小中学校教師よりも低くなっていると思われる。



〔図IV-2-① 今回調査 教師から見た児童生徒の授業内容理解度〕

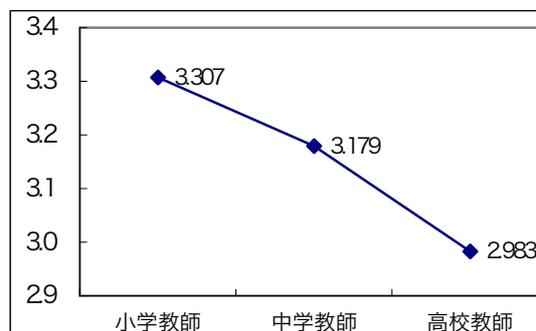
## 指導方法の工夫改善に対する認識

### 1 児童生徒の学習意欲と教師の指導力との関係の認識

教師に対する設問[3]における選択肢を点数化し、校種別に平均値を求めた。これを「指導力関係認識度」とする。

前回調査と同様に、小中高となるにつれて、教師による指導力関係認識度は低下していく傾向にある(図 V-1-②)。ただし、前回調査では、学習意欲と指導力との関係認識度については、全ての校種の教師の間で有意差は認められないのに対し、今回調査では小学校教師と高校教師、中学校教師と高校教師との間で有意差が認められる。

教師の指導力と学習意欲との関係に最も肯定的な小学校教師と他校種教師との差がより明確になっている。



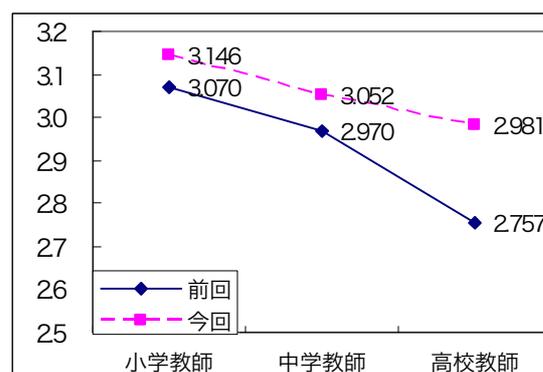
〔図V-1-② 今回調査 学習意欲と指導力の認識度〕

### 2 指導方法の工夫改善

#### (1) 校種別の個に応じた指導の工夫状況

教師に対する設問[15]の選択肢を点数化し、校種別に平均値を求める。これを「個に応じた指導の工夫度」とする。

前回調査との比較において、小中学校教師では有意差が認められないが、高校教師について有意差が認められる。このことから、高校教師は、前回より今回調査時の方が、学習指導方法の工夫・改善を図っていることがうかがわれる(図V-2-(1)-①)。



〔図V-2-(1)-①個に応じた指導の工夫度〕

#### (2) 工夫内容

今回調査結果については、前回調査結果と工夫内容の順位はほぼ同じである。校種により若干順位が入れ替わるものがあるものの、多い順から並べてみると「個別指導を取り入れている」、「グループ別指導を取り入れている」、「習熟度別指導を取り入れている」、「作業や操作等の活動を取り入れている」となっている。

### 3 指導方法に対する児童生徒の意識と児童自身のとらえ方との差異

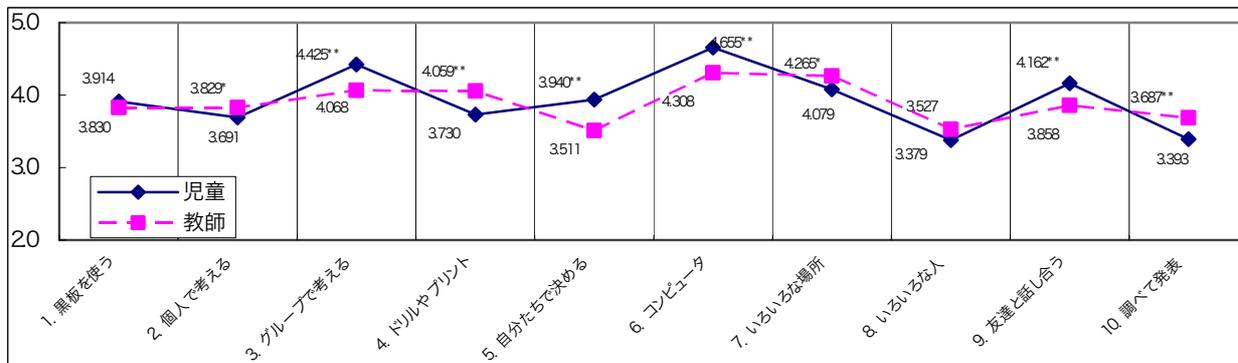
児童生徒への設問[9]及び、教師への設問[12]における評定尺度を点数化し、校種別にそれぞれの授業形態について平均値を求める。児童生徒については、この平均値を「授業形態好感度」とする。教師については、この平均値を「授業形態に関する児童生徒の好感度状況認識度」とし、以下「好感度状況認識度」と表記する。

図V-3-①～③より、「授業形態好感度」と「好感度状況認識度」の差が比較的大きいのは、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「コンピュータを使ってする授業」「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」である。

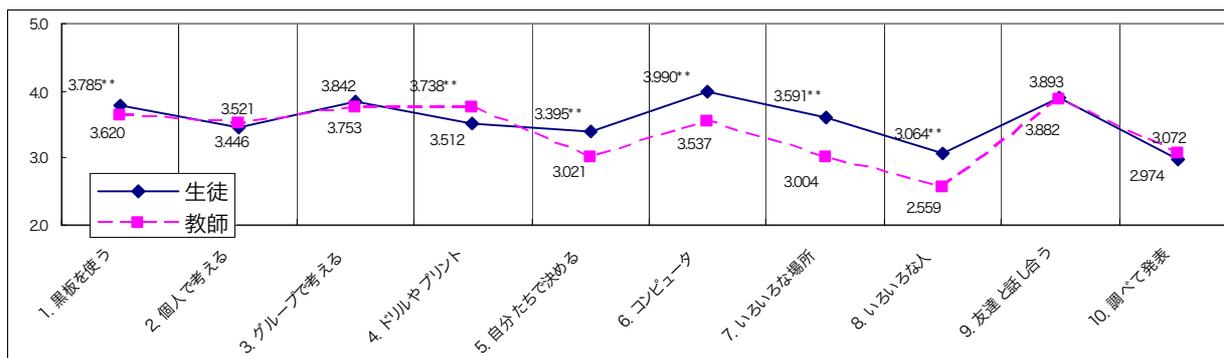
「コンピュータを使ってする授業」については、小中高で「授業形態好感度」が「好感度状況認識度」を上回っている。しかし、小中高となるにつれて、「授業形態好感度」と「好感度状況認識度」の差が開く傾向にあり、特に、高等学校では小中に比して差が極端に開いている。これは、児童生徒

はコンピュータに対する興味・関心が高いためと思われる。

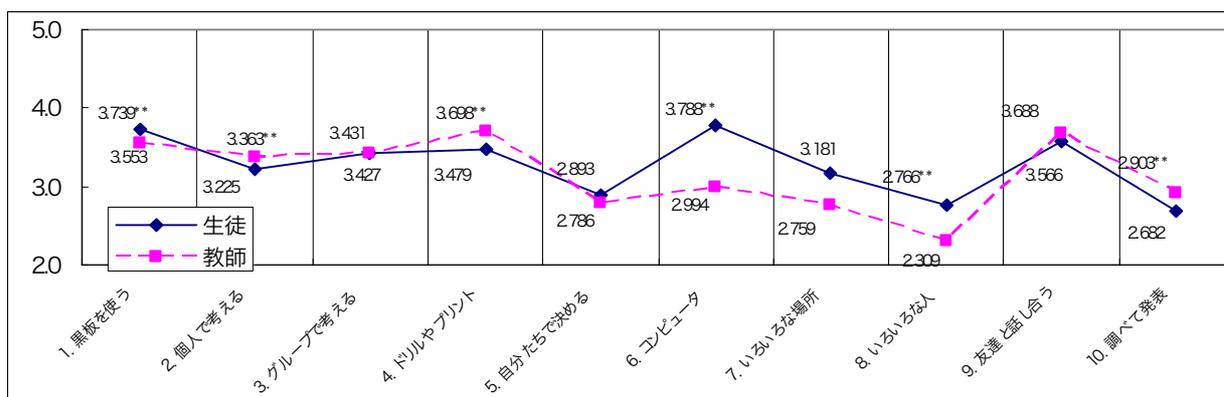
また、「学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査」や「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」については、特に中高において「授業形態好感度」が「好感度状況認識度」を大きく上回っている。このような授業形態は、生徒の興味・関心が高い一方で、教師にとっては生徒の安全管理等の不安や、時数確保の困難さ等から、あまり実践しなかつた。そのため、教師は具体的な授業方法・内容を想定することができず、好感度状況認識度を低く評価した結果、生徒の授業形態好感度との差が開いたと推察される。



〔図V-3-① 小学校 「授業形態好感度」と「好感度状況認識度」の差〕 \* p<.05, \*\* p<.01



〔図V-3-② 中学校 「授業形態好感度」と「好感度状況認識度」の差〕 \* p<.05, \*\* p<.01

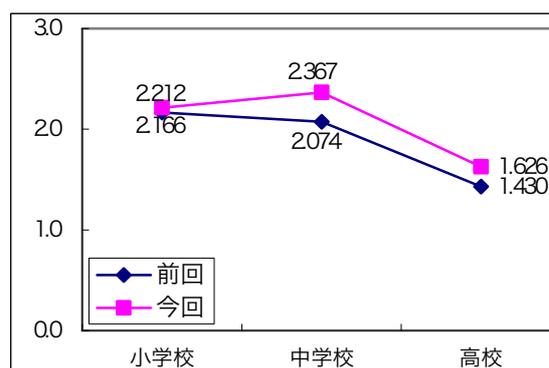


〔図V-3-③ 高校 「授業形態好感度」と「好感度状況認識度」の差〕 \* p<.05, \*\* p<.01

#### 4 観点別学習状況評価の実施状況と指導方法の工夫・改善

観点別学習評価の取り組み状況については、小学校教師については前回から現状維持の状況にある(図V-4-①)。

中高の教師については、観点別学習状況評価の取り組み状況は前回より改善されているが、今後も、その取り組みの充実をさらに図っていくことが必要である。



〔図V-4-① 観点別学習状況評価への取り組み度〕

#### 5 家庭学習習慣化への取り組み

小学校教師と高校教師については前回調査と今回調査では、家庭学習習慣化の取り組みに関する傾向に変化はない。

小学校教師では、「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」、「家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している」、「宿題(課題)を出すとともに、点検活動もしている」という順になっている。他方、高校教師は「宿題(課題)を出すとともに、点検活動もしている」、「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」、「ほとんど取り組んでいない」の順になっている。

高校教師において、「ほとんど取り組んでいない」の選択率は前回と同値であるため、家庭学習習慣化への取り組みが高等学校ではあまり進んでいないと推察される。

中学教師に選択率の順位が入れ替わっており「宿題(課題)を出すとともに、点検活動もしている」が最も多く、2番目に多かった「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」との差もかなり開いている。

### 3 今回調査結果からの提言

#### 【学習意欲の向上のために】

#### 1. 学習意欲の校種間における差を改善するための指導の充実を図る

学習意欲度は小中高となるにつれて低下していくという状況を改善するために、各学年段階で学ぶべき内容を児童生徒にきちんと理解させるなどの、指導上の工夫が必要である。

そのような工夫の一環として、教師は、児童生徒一人ひとりの学習内容理解の状況を常に把握することが求められる。

#### 2. 中だるみ防止指導を視野に入れた入り口指導の充実を図る

学習意欲は、中学1年生と高校1年生における「校種の変わり目」において大きく低下する。そのため、中学1年生や高校1年生における手厚い学習指導、つまりきめの細かい「入り口指導」が必要であると思われる。特に中学高校の低意欲群の生徒は「勉強のやり方がわからない」ために悩んでいることから、各教科や各科目などの学習方法等についての指導を充実させる必要がある。

また、この「入り口指導」には、中学2年生と高校2年生に生じるであろう「中だるみ防止指導」の視点も含めたい。この中だるみ防止指導は、中学2年生と高校2年生になってから取り組むものではなく、入り口指導の一環として、中学1年生と高校1年生からなされるべきである。つまり、1年生の時点で、自己の適性を踏まえながら、進学段階や将来の職業、また自己の生き方等についてじっくりと考えさせ、目標を持たせることができれば、結果としてそれが中だるみの防止となる。

中学2年生、高校2年生における中だるみ防止の成否は、校種の変わり目における入り口指導のさらなる充実によると考える。

#### 3. 社会志向的な学習目的を持たせる指導の充実を図る

社会志向的な学習目的（例えば「心豊かな生活を送る」、「社会のために良いことをする」等）を有することは、学習が自己の成長につながるということを意識しているということである。

夢や希望を持ち、目的を明確にして学習に取り組ませ、なおかつ、それを持続させていくという意味からも、このような社会志向的な目標を有することが望まれる。学習意欲の高い児童生徒がその学習意欲を持続させるためにも、また学習意欲が低い児童生徒の学習意欲を高めていくためにも、この点を踏まえた学習指導を行う必要がある。

#### 4. 希望する進学段階、将来の希望職業を決定させるような指導の充実を図る

学習意欲を高める上で、児童生徒自身の希望と適性を踏まえた進学段階と将来の希望職業について考えさせ、決定させることが必要である。そのため、それぞれの進学段階の特徴についてもきちんと把握させるなど、きめ細かい進学指導の工夫が求められる。

また、進学段階の決定と同様に、児童生徒が、その発達段階に応じて、目標としての将来就きたい職業を決めているということは学習意欲の向上という視点から重要である。特に中・高校生では、将来の職業選択を「迷っている」生徒と「決まっていない」生徒に対する指導は、学習意欲の向上という視点において大切であり細やかな指導が求められる。

さらに自分が就きたい職業について考えさせ、決定させることは進路意識の向上に有効であると思われるので将来の進学目標への指導と併せて、充実した進路指導の取り組みが求められる。

## 5. 教科に対する好感度・理解度をあげる指導の充実を図る

学習意欲と教科に対する好感度・理解度にはかなりの相関があると考えられる。そのため、各教科の好感度・理解度を高めることは学習意欲の向上を図る上で極めて有効である。

今回は、小中学校の算数・数学において特に好感度・理解度が上昇している。これは算数・数学の学習指導において、指導方法の工夫・改善に関する試みが積極的になされている成果であると考えられる。このような算数・数学における成果から、他教科においても指導法の工夫・改善に向けた取り組みのさらなる充実を進めていくことが求められる。

## 6. 学習への充実感達成感を感じることができるといような指導の充実を図る

児童生徒の学習意欲を高めるために、学習内容に関与して得られる喜びを感じる必要がある。そのために、学習への達成感・充実感を実感できる場面設定や指導上の工夫が求められる。

例えば、小中学校における学習意欲の低い児童生徒は、「教師の説明がわかったとき」、「自分の好きな教科のとき」に学習の喜びを感じているという傾向が見られる。このことから、児童生徒の学習意欲を高めるためには、教師によるわかりやすい説明と、それぞれの教科を好きになるような指導上の工夫が求められていくことがわかる。

また、高校生の高意欲群は低意欲群よりも「むつかしい問題が自分の力でできたとき」を多く選択する傾向にある。高等学校では学習内容が高度になるため、難しい問題が解けたとき等の場面で、満足感としての学習の喜びを感じるものと思われる。日々の学習で、このような喜びを感じることができれば、児童生徒は学習に対してさらに意欲的に取り組むものと思われる。

## 7. 夢や希望を抱かせ、自己の在り方や生き方について考えさせる指導の充実を図る

低意欲群は「どうして勉強しなければいけないのかと思う」を選択する傾向にある。これは、将来の進学段階や希望する職業等の目標が無く、学習への目的が見い出せないためと思われる。その結果、学習意欲も高まらなると推察できる。

児童生徒が夢と希望を抱き、自己の生き方や在り方について考える指導の工夫を充実させる必要がある。

## 8. 教科の特性や学習内容に応じた勉強方法に関する指導の充実を図る

中学生と高校生の低意欲群は、高意欲群よりも「勉強のやり方がわからない」を選択する傾向にある。このことから低意欲群では、勉強方法がわからないため意欲が湧かないとも考えられる。日々の授業において、学習方法を適宜指導していくことが必要である。

## 9. 覚えるのではなく理解するということを認識させる指導の充実を図る

特に中学生の高意欲群の生徒に「おぼえなければならないことが多すぎる」を多く選択する傾向がある。このような状況を改善するために、教科の特性や学習内容にもよるが、まず「理解する」ことの重要性を児童生徒に認識させる指導の充実を図る必要がある。

## 10. 学習指導上の保護者との連携の充実を図る

保護者からよく注意をされる児童生徒は、学習意欲度が低く、激励の言葉をかけられる児童生徒は、学習意欲度が高い。逆に言えば、激励される児童生徒は学習意欲が高まり、注意されている児童生徒の学習意欲は低いということである。

このことを考えると、学習意欲向上という視点から、日常生活においては児童生徒に対する激励の言葉かけを心がけることが大切だと思われる。

そのため、このような視点を保護者と共有し、日頃から保護者との連携を図りながら学習指導を進める必要がある。

## 11. お互いに切磋琢磨できるような、望ましい友人関係を築かせる指導の充実を図る

小学校の児童の学習意欲は友人関係により影響されるが、中学・高校生では、学習意欲が友人関係に左右されにくい。

しかしながら、学習意欲が友人関係に左右されることが少ないからといって、学習を進めていく上で友人関係が全く無視できる要因ではないと思われる。中学、高校の時期は、仲間同士で切磋琢磨することにより自己の意欲を高め感性を磨くことが理想でありまたそれが可能な時期だと思われる。良好な友人関係は学習意欲に多少なりとも影響を与えるものと推測されることから、やはり望ましい友人関係を構築させる指導は重要であると思われる。

### 【学習習慣の形成のために】

#### 1. 学習習慣形成のために中だるみ防止指導を視野に入れた入り口指導の充実を図る

学習習慣の形成は学習意欲と密接に関わっている。そのため、学習意欲と同様に、中学1年生と高校1年生に対するきめ細かな入り口指導が必要である。そして、その入り口指導には、中学2年生や高校2年生において生じるであろう「中だるみ防止指導」の視点が含まれていることが求められる。

学習習慣を定着させることが学習意欲を高めることにつながるであろうし、また逆に、意欲が高まれば学習習慣も定着すると考えられることから、この点を踏まえた学習指導のあり方が重要であると思われる。

#### 2. 学習習慣の形成のために、1時間程度は学習させるような学習指導の充実を図る

小中高の学習時間を比較すると、高校生の学習時間が平日、土曜日、そして日曜日の全てにおいて低い。学習量の目安としてある程度の学習時間を確保する必要があり、そのため、高等学校における学習時間を通して見る学習習慣の現状については、今後改善を図る必要がある。

では、学習習慣形成のためにはどの程度の学習時間が必要なのだろうか。

平日、土曜日、日曜日において、学習習慣が形成されている児童生徒では、1時間以上学習に取り組んでいることがわかる。このことから、学習習慣の定着のためには、1時間程度の学習時間が最低限度として必要であることがうかがわれる。

学習習慣形成状況の低い児童生徒に対して、1時間程度の学習を日々積み重ねさせるような指導が求められる。そのことが学習習慣の形成につながり、さらに授業内容の理解となり、学習の楽しさや喜びが生まれ、学習意欲が向上していくと考えられる。

#### 3. 「家庭」における学習に取り組むような学習指導の充実を図る

小中高の児童生徒の中で、平日、土曜日、日曜日の全てにおいて、通塾する児童生徒の学習時間が長い傾向がある。これに対して家庭での学習時間は塾に比して極めて短いということがわかる。

学習習慣形成のためには、「家庭」における学習習慣の形成と定着を図る指導の必要がある。これは通塾している児童生徒についても当然あてはまる。家庭での学習習慣の形成については、全ての児童生徒に繰り返し指導していく姿勢が求められる。

#### 4. 「予習」にも取り組むような学習指導の充実を図る

中学生の学習時間が長い生徒を除いて「予習」を選択する児童生徒の割合が低い。

児童生徒が日々の学習で、宿題だけでなく、苦手教科・科目への取り組みや復習を行うことは、基礎学力定着のためにとっても有効である。しかし、予習をすることで、次の授業がとてわかりやすくなることから、予習まで取り組めるような家庭学習指導の工夫が求められる。

特に高等学校においては、学習内容が小中学校に比して高度になるため、予習も復習同様に取り組む必要がある。

#### 【学習指導充実のために】

##### 1. 児童生徒の学習意欲・学習内容理解の状況を正確に把握する

児童生徒の学習意欲や授業内容理解の状況を過小評価や過大評価することなく、その実態を正確に把握することは、学習指導において極めて重要である。

どのような素晴らしい教材や指導方法を用いたとしても、それが児童生徒の実態にそぐわなければ、学習効果は上がらず、学習意欲の向上も期待できない。

児童生徒の学習意欲や授業理解の現状について正確に把握するとともに、それらの改善・向上を絶えず意識しながら学習指導を実践していく必要がある。

##### 2. 個に応じたさらなる指導方法の工夫・改善を図る

観点別学習状況評価についての取り組み状況が前回に比べ改善されつつある。

また、個に応じた指導方法の工夫・改善についても、高校教師は、前回調査時に比して、その工夫・改善を図っていることがうかがわれる。

しかしながら、観点別学習状況評価の実施状況や、個に応じた指導の工夫については、小中高となるにつれて低くなる傾向にある。

全校種において、個に応じた指導の工夫を図る上から、観点別学習状況評価について今後さらに取り組みを充実させていくことが求められる。

##### 3. 指導方法に対する児童生徒の意識を把握する

授業形態によって、児童生徒の授業形態好感度と教師による好感度状況認識度との間には差が存在する。指導方法の工夫・改善の一環として授業形態の工夫は重要である。児童生徒にとって学習効果の高い授業形態について、教科の内容や、特質に応じて、今後さらに吟味していく必要がある。

##### 4. 家庭学習の習慣化に向けた取り組みを充実させる

家庭学習の習慣化のために、小中学校教師は「宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている」と回答している。しかし、高校教師は、この取り組みが弱いということがうかがわれる。

小中高の児童生徒は、最も多く取り組んでいる「家庭学習内容」として宿題を挙げている。したがって、家庭学習の定着のために宿題を出すことの意義は大きい。この点を踏まえれば、全校種において、学習効果が高く、児童生徒の学習意欲を引き出せるような宿題の在り方を検討していくと同時に、家庭学習の習慣化への手立てについて、さらに工夫・改善を図る必要がある。

工夫・改善の例として、児童生徒の実態に合わせた、教師による問題集やワークシートの作成がまず挙げられる。次に、シラバスなどを作成し、学習の流れを児童生徒に理解させることで、予習などに取り組みややすくする方法もある。また、当センターにおける教育情報共有システムを活用したコンピュータを使った学習の取り組みなども考えられる。

## IV 教師による児童・生徒の学習状況の認識

### 1 児童生徒の学習意欲に関する教師の認識

教2 あなたの教えている児童生徒は、全般的に学習意欲があると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある    2. ある    3. あまりない    4. 全くない

本設問では、教師に対して、その担当している児童生徒の学習意欲の状況について尋ねている。教師への設問2における選択肢を表IV-1-①の左側に示したように点数化し、校種別に平均値を求める。これを「教師による児童生徒の学習意欲認識度」とする。これを略して、「学習意欲認識度」と表記する。

前回調査では、その選択肢が表IV-1-①の右側に示されているように5段階で設定され点数化されている。そのため、今回調査結果との単純な比較はできないが、教師による児童生徒の学習意欲の認識状況に関する変容の傾向を把握することはできる。

〔表IV-1-① 学習意欲の点数化表〕

今回調査	前回調査
1. とてもある(4点)	1. とてもある(5点)
2. ある(3点)	2. わりとある(4点)
3. あまりない(2点)	3. ある(3点)
4. まったくない(1点)	4. あまりない(2点)
	5. まったくない(1点)

#### 【分析と考察】

前回調査においては、小中高校教師の3群間において有意差は認められない(表IV-1-②)。

今回調査における学習意欲認識度の校種間の差について、一元配置の分散分析を行った結果、有意差が認められたので、多重比較を実施した(表IV-1-③)。これにおいて、小学校教師と中学校教師、小学校教師と高校教師のそれぞれとの間に有意差が認められる。

前回調査では、学習意欲認識度と、児童生徒の学習意欲度について開きがある。特に高校においては小中学校よりもそれが大きかった(表IV-1-②)。しかしながら、今回調査では、教師と児童生徒の間における学習意欲認識度と学習意欲度が、小学生と小学校教師、高校生と高校教師のそれぞれの間で有意差が認められない(表IV-1-④, 図IV-1-②)。このことから、児童生徒の学習意欲の状況に関して、小・高の教師は、児童生徒の実態どおり把握していると考えられる。

〔表IV-1-② 前回調査 教師から見た学習意欲〕

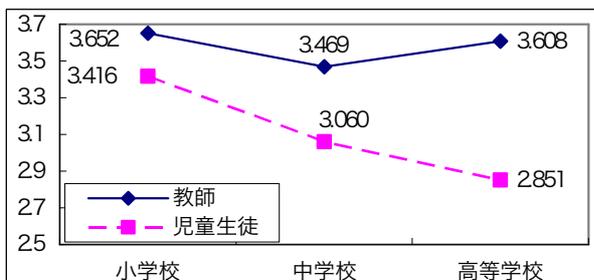
校種	学習意欲認識度	標本数
小学教師	3.562 (0.727)	355
中学教師	3.469 (0.726)	328
高校教師	3.608 (0.820)	147

F=2.194 n. s.

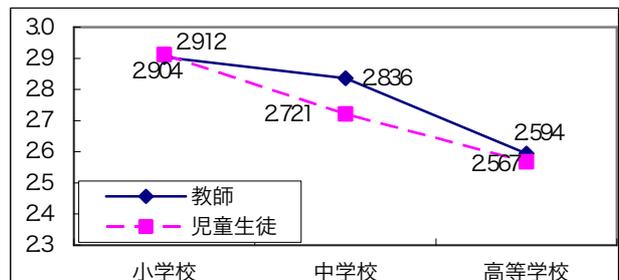
〔表IV-1-③ 今回調査 教師から見た学習意欲〕

校種	学習意欲認識度	標本数
小学教師	2.904 (0.449) --*	228
中学教師	2.836 (0.498)  --*	287
高校教師	2.594 (0.637) ---*	535

F=31.231 p<.001 \*P<.01



〔図IV-1-① 前回調査 度教師と児童生徒の平均値〕



〔図IV-1-② 今回調査 教師と児童生徒の平均値〕

〔表IV-1-④ 今回調査 児童生徒の学習意欲度と教師から見た  
児童生徒学習意欲認識度〕

	学習意欲度の平均値		
	教師	児童生徒	
小学教師	2.904 (0.449)	2.912 (0.651)	t=0.180
標本数	228	850	n. s.
中学教師	2.836 (0.498)	> 2.721 (0.684)	t=2.695
標本数	287	1243	p<0.01
高校教師	2.594 (0.637)	2.567 (0.754)	t=1.917
標本	535	1662	n. s.

〔表IV-1-⑤ 今回調査 教師の見た学習意欲：  
校種間の差についての検定〕

	小学	中学	高校
小学		NS	*
中学	NS		*
高校	*	*	

## 2 児童生徒の授業内容理解状況の認識

教5 あなたの授業内容の70%以上を理解している児童生徒はどの程度いると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。  
 1. 1～2割 2. 3～4割 3. 5～6割 4. 7～8割 5. 9～10割

教師はその指導内容が児童生徒にどの程度理解されていると認識しているか考察する。

本設問は前回と同一の内容であるため直接比較することが可能である。選択肢を点数化し、校種別にその平均値を求める(表IV-2-①)。これを「教師による児童生徒の学習理解状況に関する認識度」とする。以下「理解状況認識度」と表記する。

〔表IV-2-① 児童生徒の授業内容理解状況認識に関する得点化表〕

- 1. 1～2割 (1点)
- 2. 3～4割 (2点)
- 3. 5～6割 (3点)
- 4. 7～8割 (4点)
- 5. 9～10割 (5点)

### 【分析と考察】

今回調査における理解状況認識度について校種間で一元配置の分散分析を実施した結果、有意差が認められたので、多重比較を実施した(表IV-2-②)。

前回調査では、小学校教師と中学校教師、小学校教師と高校教師との間に有意差が認められた(表IV-2-②)。しかし、今回調査では、全校種間において有意差が認められる。

小中高となるにつれて、教師による理解状況認識度が低下するという傾向は前回と同じである。校種別に前回との比較をすれば、小学校教師では、前回よりも理解状況認識度は上昇傾向にあるが、中学校教師及び高校教師では有意差が認められない(表IV-2-④, 図IV-2-①)。

小学校教師は、児童生徒の学習意欲認識度が他校種の教師に比して高く、そのため授業内容理解度も高くなっていると思われる。

中学校教師については、学習意欲認識度は小学校とほぼ同じであるが、授業内容理解度は小学校教師より低くなっている。中学生は小学生よりも、授業内容を理解できる生徒と、そうでない生徒の間の差が開いてくる。そのため、授業内容理解度を小学校教師よりも低く評価する傾向があると思われる。

他方高校教師の学習意欲認識度は小中学校の教師に比べ低く、そのため、高校教師は、授業内容に関しても、授業内容理解度を低く評価していると思われる。

〔表IV-2-② 前回調査 教師から見た児童生徒の授業内容理解度〕

校種	授業理解認識度	標本数
小学教師	3.473 (0.769) --** **	351
中学教師	3.025 (0.785) --!	324
高校教師	2.878 (0.910) -----	147

F=39.707 P<.001 \*p<.05

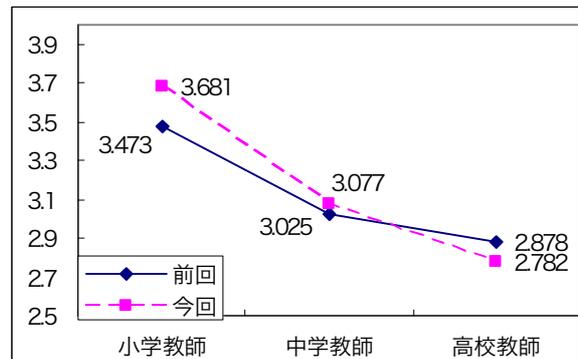
〔表IV-2-③ 今回調査 教師から見た児童生徒の授業内容理解度〕

校種	授業理解認識度	標本数
小学教師	3.681 (0.669) --** **	226
中学教師	3.077 (0.835) --!	287
高校教師	2.782 (0.920) -----	536

F=89.272 P<.001 \*\* P<.01

〔表IV-2-④ 今回調査 教師から見た学習意欲〕

	授業理解認識度		
	前回調査	今回調査	
小学教師	3.473 (0.769)	< 3.681 (0.669)	t (525)=3.427
標本数	351	226	p<.01
中学教師	3.025 (0.785)	3.077 (0.835)	t (609)=0.791
標本数	324	287	n. s.
高校教師	2.878 (0.910)	2.782 (0.920)	t (681)=1.121
標本数	147	536	n. s.



〔図IV-2-① 教師から見た児童生徒の授業内容理解度〕

## V 指導方法の工夫・改善に対する認識

### 1 学習意欲と指導力との関係に関する教師の認識

教3 児童生徒の学習意欲と教師の指導力とは、関係があるとおもいますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. とてもある    2. ある    3. あまりない    4. 全くない

教師に対する設問3における選択肢を、表V-1-①の左側のように得点化し、校種別に平均値を求めた。これを「指導力関係認識度」とする。

前回調査については、選択肢が表V-1-①の右で示したように5段階で設定され、得点化されている。そのため、今回調査結果と前回調査結果とは単純な比較はできないが、教師による児童生徒の学習意欲と教師の指導力との関係認識がどのように変容したかということは把握できる。

〔表V-1-① 児童生徒の学習意欲と教師の指導力との関係認識度得点化〕

今回調査	前回調査
1. とてもある (4点)	1. とてもある (5点)
2. ある (3点)	2. わりとある (4点)
3. あまりない (2点)	3. ある (3点)
4. 全くない (1点)	4. あまりない (2点)
	5. まったくない (1点)

#### 【分析と考察】

指導力関係認識度について、小、中、高教師の3群間で一元配置の分散分析を実施したところ有意差が認められた。そこで、多重比較を行った結果、表V-1-③のようになった。これをグラフ化したものが図V-1-②である。小中高となるにつれて、指導力関係認識度は低下していくという点では前回と同様である(表V-1-②, 図V-1-①)。

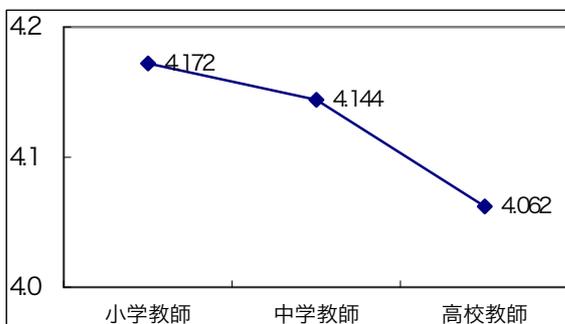
ただし、前回調査では、学習意欲と指導力との関係認識度については、全ての校種の教師の間で有意差は認められないのに対し、今回調査では小学校教師と高校教師、中学校教師と高校教師との間で有意差が認められる。教師の指導力と学習意欲との関係に最も肯定的な小学校教師と他校種教師との差がより明確になっているということである。

〔表V-1-② 前回調査 学習意欲と指導力の認識〕

校種	関係認識度数
小学教師	4.172 (0.729)
中学教師	4.144 (0.747)
高校教師	4.062 (0.704)

F=1.172 n. s.

〔図V-1-① 前回調査 学習意欲と指導力の認識度〕

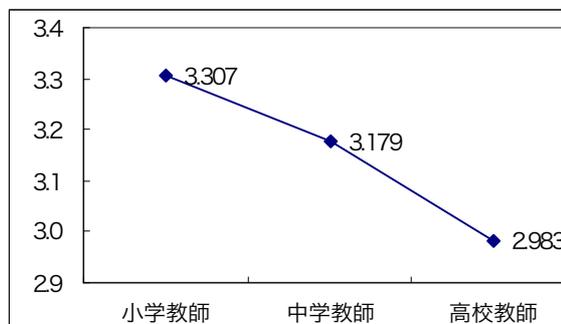


〔表V-1-③ 今回調査 学習意欲と指導力の認識〕

校種	関係認識度数	標本数
小学校教師	3.307 (0.507) ---†**	228
中学校教師	3.179 (0.514) ---†**	290
高等学校教師	2.983 (0.602) -----†**	532

F=30.013 p<.01 \*p<.05 \*\* p<.01 †.05<p<.10

〔図V-1-② 今回調査 学習意欲と指導力の認識度〕



## 2 指導方法の工夫・改善

### (1) 校種別の個に応じた指導の工夫状況

教15 あなたは、授業において、個に応じた指導を工夫していますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1. いつも工夫している 2. ときどき工夫している 3. あまり工夫していない 4. まったく工夫していない

#### 【分析と考察】

教師に対する設問15の選択肢について、表V-2-(1)-①のように得点化し、校種別に平均値を求める。これを「個に応じた指導の工夫度」とする。なお、本設問は前回調査を踏襲しているため、前回調査結果との比較が可能である(表V-2-(1)-①)。校種間における個に応じた指導の工夫度の差について、一元配置の分散分析を実施したところ、有意差が認められたので多重比較を実施した結果、表V-2-(1)-③のようになった。

〔表V-2-(1)-① 個に応じた指導の工夫度得点化表〕

1. いつも工夫している (4点)  
2. ときどき工夫している (3点)  
3. あまり工夫していない (2点)  
4. まったく工夫していない (1点)

前回は、小学校教師と高校教師、中学校教師と高校教師との間に有意差が認められた(表V-2-(1)-②)。しかし今回調査では、小学校教師と中学校教師との間に有意差の傾向が、小学校教師と高校教師との間に有意差が認められる。

また、校種別に前回調査と今回調査の個に応じた指導の工夫度についての差の検定を実施したところ、小中学校教師については、有意差が認められず、高校教師については有意差が認められる。

このことから、高校教師は、前回より今回調査時の方が、学習指導方法の工夫・改善を図っていることが伺われる(表V-2-(1)-④、図V-2-(1)-①)。

〔表V-2-(1)-② 前回調査〕

	工夫度	標本数
小学教師	3.070(0.506) --*	356
中学教師	2.970(0.577) ----†	329
高校教師	2.757(0.674) -----†	148

F=15.948 p<.001 p<.05

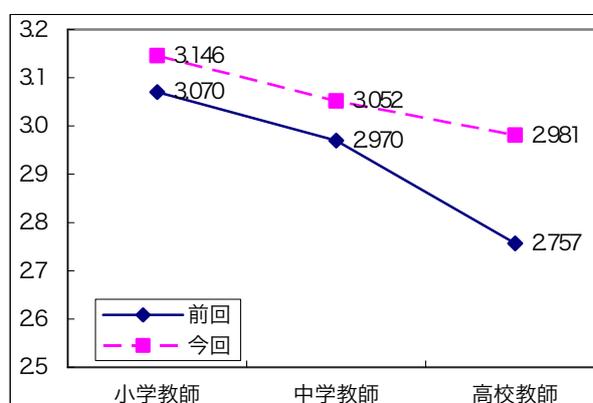
〔表V-2-(1)-③ 今回調査〕

	工夫度	標本数
小学教師	3.146(0.516) --†**	226
中学教師	3.052(0.612) ----†	289
高校教師	2.981(0.665) -----†	538

F=5.702 p<.01 \*\*p<.01 †.05<p<.10

〔表V-2-(1)-④ 個に応じた指導の工夫度〕

	工夫度		
	前回調査	今回調査	
小学教師	3.070	3.146	t(580)=1.749
標本数	356	226	
中学教師	2.970	3.052	t(616)=1.711
標本数	329	289	
高校教師	2.757	< 2.981	t(504)
標本数	148	538	p<.01



〔図V-2-(1)-① 個に応じた指導の工夫度〕

(2) 個に応じた指導の工夫内容

<p>15 個に応じた指導の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いつも工夫している</li> <li>2. ときどき工夫している</li> <li>3. あまり工夫していない</li> <li>4. まったく工夫していない</li> </ol>	<p>16 15で「いつも工夫している」「ときどき工夫している」と答えた人に聞きます。次の中から、あなたが工夫していることを3つ選んで番号に○をつけてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別指導を取り入れている</li> <li>2. グループ別指導を取り入れている</li> <li>3. 習熟度別指導を取り入れている</li> <li>4. ティームティーチングを取り入れている</li> <li>5. 作業や操作等の活動を取り入れている</li> <li>6. 複数の教材を用いている</li> <li>7. 学習時間の弾力化を図っている</li> <li>8. 個人内評価を取り入れている</li> <li>9. コンピュータを授業に取り入れている</li> <li>10. 教育機器を授業に取り入れている</li> <li>11. 少人数指導を取り入れている</li> </ol>
---	---

【分析と考察】

今回調査結果について、 $\chi^2$ 検定を実施したところ、全ての校種において有意差が認められた。

前回調査結果と工夫内容の順位はほぼ同じである。校種により若干順位が入れ替わるものがあるものの、多い順から並べてみると「1.個別指導を取り入れている」、「2.グループ別指導を取り入れている」、「3.習熟度別指導を取り入れている」、「5.作業や操作等の活動を取り入れている」となっている。

〔表V-2-(3) 個に応じた指導の工夫内容〕

	前回調査			今回調査		
	小学教師	中学教師	高校教師	小学教師	中学教師	高校教師
1 個別指導を取り入れている	①240 (74.5)	①149 (56.0)	① 66 (64.7)	①165 (78.2)	①143 (59.8)	①234 (54.8)
2 グループ別指導を取り入れている	② 47 (14.6)	② 73 (27.4)	② 13 (12.7)	③14 (6.6)	② 40 (16.7)	② 64 (15.0)
3 習熟度別指導を取り入れている	③ 16 ( 5.0)	④ 11 (4.1)	④ 4 (3.9)	②22 (10.4)	④ 20 (8.4)	④ 31 (7.3)
4 ティームティーチングを取り入れている	5 ( 1.6)	6 (2.3)	2 (2.0)	3 (1.4)	3 (1.3)	15 (3.5)
5 作業や操作等の活動を取り入れている	④ 13 ( 4.0)	③ 24 (9.0)	② 13 (12.7)	④ 5 (2.4)	③ 25 (10.5)	③ 53 (12.4)
6 複数の教材を用いている	0 ( 0.0)	1 (0.4)	3 (2.9)	0 (0.0)	5 (2.1)	18 (4.2)
7 学習時間の弾力化を図っている	1 (0.3)	0 (0.0)	1 (1.0)	2 (0.9)	1 (0.4)	6 (1.4)
8 個人内評価を取り入れている	0 ( 0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 ( 0.0)	1 (0.4)	2 (0.5)
9 コンピュータを授業に取り入れている	0 ( 0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 ( 0.0)	1 (0.4)	1 (0.2)
10 教育機器を授業に取り入れている	0 ( 0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 ( 0.0)	0 (0.0)	2 (0.5)
11 少人数指導を取り入れている				0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.2)
	322 (100)	266 (100)	102 (100)	211 (100)	239 (100)	427 (100)

$\chi^2(16)=50.294$   $p<.001$

$\chi^2(20)=60.500$   $p<.001$

### 3 児童生徒の授業形態好感度に対する教師の認識状況

児・生<sup>9</sup> あなたは次にあげる学校の授業方法はどれくらい好きですか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、つぎにあげる授業方法を学校でやっていない場合は、「やっていない 5」に○をつけてください。

---

教<sup>12</sup> あなたの受け持つ児童生徒は、次に示す学習方法がどれくらい好きだと考えますか。1～10のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。もし、つぎにあげる授業方法を学校でやっていない場合は、「やっていない5」に○をつけてください。

---

とても好き      好き      好きでない      ぜんぜん好きでない      やってない  
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 . . . . . 5

1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業
4. ドリルやプリントを使ってする授業
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業
6. コンピュータを使ってする授業
7. 学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査
8. いろいろな人に聞きに行っている授業や調査
9. 友達と話し合いながら進めていく授業

児童生徒への設問<sup>9</sup>は、児童生徒が1～10の授業形態をどの程度好んでいるか把握するものである。他方、教師への設問<sup>12</sup>では、児童生徒への設問<sup>9</sup>において示された授業形態を、児童生徒がどの程度好んでいると教師が認識しているか把握するものである。

〔表V-3-① 評定尺度の点数化表〕

とても好き (4点)
好き (3点)
好きでない (2点)
全然好きでない (1点)

評定尺度を表V-3-①のように得点化し、児童生徒と教師とに分けて、それぞれの授業形態について校種別の平均値を求める。児童生徒については、この平均値をそれぞれの「授業形態好感度」とする。これに対して、教師については、この平均値を「授業形態に関する児童生徒の好感度状況認識度」とし、「好感度状況認識度」と表記する。

#### 【分析と考察】

児童生徒の授業形態好感度と教師の好感度状況認識度の差について、検定を実施した結果が以下の表V-3-②である。また、表V-3-②について校種別にグラフ化したものが図V-3-①～③である。グラフ中の\*は $p<.05$ 、\*\*は $p<.01$ を意味する。

表V-3-②及び図V-3-①～③より、授業形態好感度と好感度状況認識度の差が比較的大きいものを指摘すると、「5.自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」、「6.コンピュータを使ってする授業」、「7.学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」、「8.いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」が挙げられる。

「5.自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」については、小中学校では授業形態好感度が好感度状況認識度を上回り有意差が認められる。しかし、高校ではその差が認められない。

この授業形態においては、小中学生は、主体的に活動できると感じたため、その好感度が高くなったと思われる。他方、小中学校の教師は、児童生徒がテーマ等を決めるということについては困難であると認識したと考えられる。そのため、教師は、児童生徒がこの形態の授業をさほど好んでいないと考えた結果、このような差が生じたものと思われる。

「6.コンピュータを使ってする授業」については、全ての校種で授業形態好感度が好感度状況認識度を上回り有意差が認められる。しかし、小中高となるにつれて、授業形態好感度と好感度状況認識度の差が大きくなる傾向にあり、特に高校では、小中に比してその差が極端に大きい。これは、

児童生徒のコンピュータに対する興味関心が高いためであると思われる。

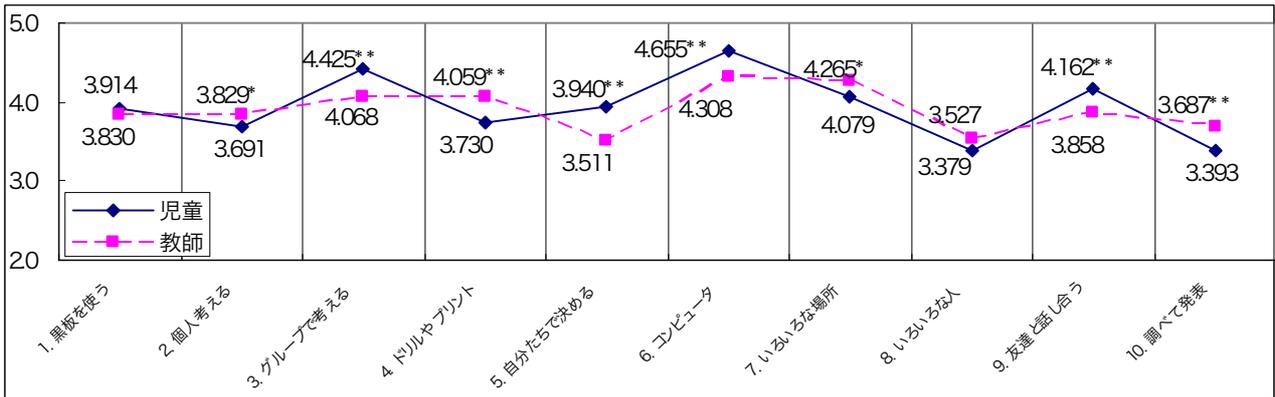
「7. 学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査」や「8. いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」については、特に中高において、授業形態好感度と好感度状況認識度の差が大きい。生徒にとってこのような授業形態は、日々の授業ではなしえない、様々な体験が期待できることから、授業形態好感度が高くなったと思われる。他方、教師にとって、このような授業形態は、生徒の安全管理等の不安や、時数確保の困難さ等から、あまり実践されてこなかった。そのために教師は、具体的な授業方法・内容を想定することができなかつたと考えられる。その結果、教師は好感度状況認識度を低く評価したために、生徒の授業形態好感度との差が開いたと思われる。

教科の特質や内容に応じて授業形態の工夫改善を図ることは、指導方法の工夫改善の一環として有効な方法であると考えられる。その際、児童が好む授業形態なども考慮しながら取り組むのであれば、児童生徒の学習効果の高まりをさらに期待できるのではないかと。

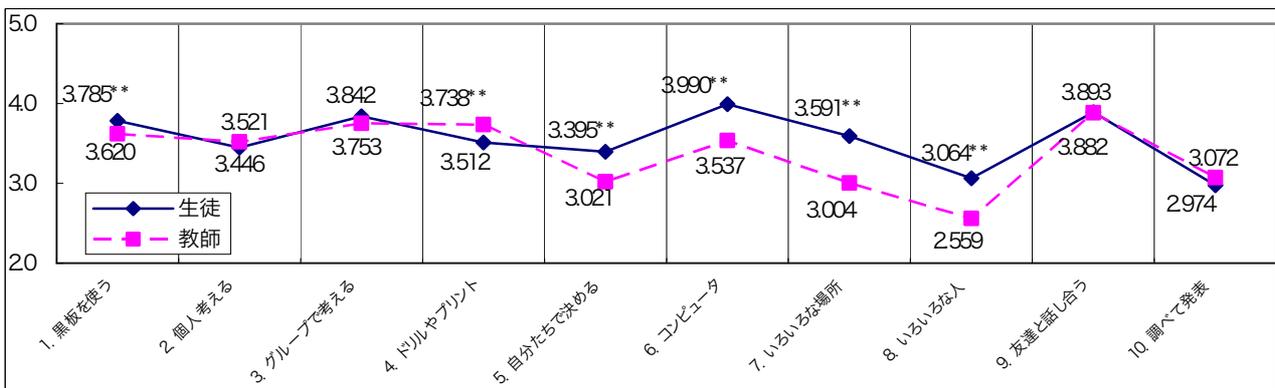
〔表V-3-②〕 授業形態に対する児童生徒の好感度と教師の好感度認識度の差

		児童生徒	教師	差の検定			児童生徒	教師	差の検定
1. 先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	小学校 標本数	3.914 (0.731) 862	3.830 (0.529) 218	t (450)=1.923 n. s.	6. コンピュータを使ってする授業	小学校 標本数	4.655 (0.716) 860	>4.308 (1.308) 224	t (258)=3.819 p<.01
	中学校 標本数	3.785 (0.742) 1243	>3.620 (0.667) 279	t (446)=3.658 p<.01		中学校 標本数	3.990 (1.243) 1231	>3.537 (1.710) 283	t (353)=4.210 p<.01
	高校 標本数	3.739 (0.748) 1668	>3.553 (0.717) 519	t (2185)=5.004 p<.01		高校 標本数	3.788 (1.164) 1661	>2.994 (1.688) 528	t (693)=10.073 p<.01
2. 個人で何かを考えたり調べたりする授業	小学校 標本数	3.691 (0.940) 858	<3.829 (0.839) 222	t (377)=2.125 p<.05	7. 学校外のいろいろな場所に行つてする授業や調査	小学校 標本数	4.079 (1.179) 845	<4.265 (1.181) 223	t (1066)=2.087 p<.05
	中学校 標本数	3.446 (0.966) 1239	3.521 (0.894) 282	t (1519)=1.192 n. s.		中学校 標本数	3.591 (1.334) 1230	>3.004 (1.700) 285	t (369)=5.458 p<.01
	高校 標本数	3.225 (0.992) 1663	<3.363 (0.989) 529	t (2190)=2.790 p<.01		高校 標本数	3.181 (1.446) 1653	>2.759 (1.684) 526	t (786)=5.177 p<.01
3. グループで何かを考えたり調べたりする授業	小学校 標本数	4.425 (0.857) 850	>4.068 (0.897) 222	t (1070)=2.716 p<.01	8. いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査	小学校 標本数	3.379 (1.363) 838	3.527 (1.403) 220	t (1056)=1.423 n. s.
	中学校 標本数	3.842 (0.956) 1234	3.753 (1.099) 283	t (385)=1.262 n. s.		中学校 標本数	3.064 (1.273) 1231	>2.559 (1.487) 281	t (379)=5.274 p<.01
	高校 標本数	3.431 (1.112) 1654	3.427 (1.242) 524	t (806)=0.059 n. s.		高校 標本数	2.766 (1.320) 1655	>2.309 (1.414) 521	t (824)=6.538 p<.01
4. ドリルやプリントを使ってする授業	小学校 標本数	3.730 (0.930) 854	<4.059 (0.598) 220	t (525)=6.417 p<.01	9. 友達と話し合いながら進めていく授業	小学校 標本数	4.162 (0.970) 841	>3.858 (0.910) 219	t (1058)=4.174 p<.01
	中学校 標本数	3.512 (0.881) 1241	<3.738 (0.788) 282	t (454)=4.248 p<.01		中学校 標本数	3.893 (1.077) 1226	3.882 (1.075) 279	t (1503)=0.160 n. s.
	高校 標本数	3.479 (0.885) 1667	<3.698 (0.870) 529	t (2194)=4.963 p<.01		高校 標本数	3.566 (1.258) 1646	3.688 (1.240) 520	t (2164)=1.939 n. s.
5. 自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	小学校 標本数	3.940 (0.925) 860	>3.511 (1.267) 221	t (283)=4.712 p<.01	10. 考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業	小学校 標本数	3.393 (0.972) 829	<3.687 (0.818) 217	t (390)=4.513 p<.01
	中学校 標本数	3.395 (1.053) 1233	>3.021 (1.199) 282	t (386)=4.826 p<.01		中学校 標本数	2.974 (0.956) 1213	3.072 (0.919) 279	t (1490)=1.556 n. s.
	高校 標本数	2.893 (1.068) 1657	>2.786 (1.250) 523	t (786)=1.764 n. s.		高校 標本数	2.682 (1.089) 1622	<2.903 (1.164) 524	t (2144)=3.955 p<.01

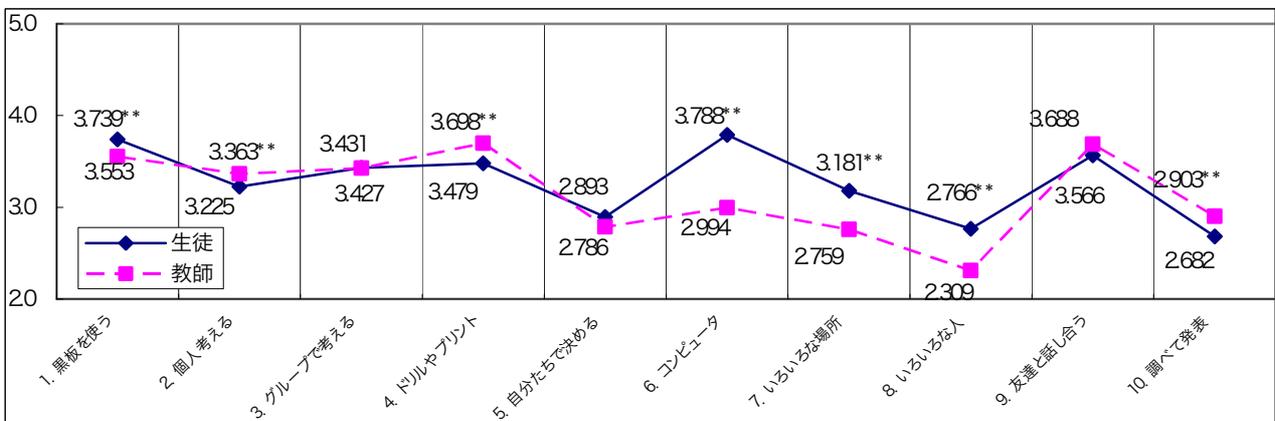
〔図V-3-① 小学校 〕



〔図V-3-② 中学校 〕



〔図V-3-③ 高校 〕



#### 4 観点別学習状況評価の実施状況

11 あなたは、「観点別学習状況の評価」について、どうしていますか。次の中から1つを選んで番号に○をつけてください。

1. 取り組めていない      2. 少しずつ、取り組むようにしている      3. うまく実施できている

#### 【分析と考察】

〔表V-4-① 「観点別学習状況評価」取り組み状況得点化表〕

1. うまく実施できている(3点)  
2. 少しずつ、取り組むようにしている(2点)  
3. 取り組めていない(1点)

観点別学習状況評価への対応について、各選択肢に対する回答を表V-4-①のように得点化し、各校種ごとにその平均値を求めた。これを「観点別学習状況評価」取り組み状況度とし、略して観点別評価取り組み度として表記する。

校種別に、観点別評価取り組み度を求め、一元配置の分散分析を実施した。その結果有意差が認められたので、各群間の多重比較を実施したところ表のようになった。表V-4-④より小学校では前回と今回調査結果との間には有意差は認められないものの、中高教師については有意差が認められる。また、図V-4-①は、前回調査と今回調査における「観点別学習状況評価」取り組み度を同一グラフ上に表示したものである。

観点別学習評価の取り組み状況については、小学校教師については前回から現状維持の状況にあるといえるが、中高の教師については前回より取り組み状況は改善されているものと推察される。

〔表V-4-② 前回調査〕

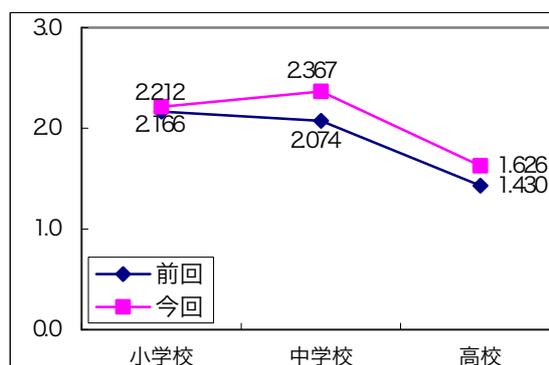
	観点別学習状況評価」取り組み度	標本数
小学教師	2.166 (0.514) ---*	350
中学教師	2.074 (0.519) ---**	316
高校教師	1.430 (0.538) ---**	125

F=102.219 p<.001 \*p<.05

〔表V-4-③ 今回調査〕

	観点別学習状況評価」取り組み度	標本数
小学教師	2.212(0.470) ---**	222
中学教師	2.367(0.504) ---**	281
高校教師	1.626(0.564) ---**	310

F=44.845 p<.001 \*p<.05



〔図V-4-① 「観点別学習状況評価」への取り組み度〕

〔表V-4-④ 「観点別学習状況評価」への取り組み度〕

	工夫度		
	前回調査	今回調査	
小学教師	2.166	2.212	t (570)=1.076
標本数	350	222	n. s.
中学教師	2.074	< 2.367	t (595)=6.968
標本数	316	281	p<.01
高校教師	1.430	< 1.626	t (433)=3.316
標本数	125	310	p<.01

## 5 家庭学習の習慣化への取り組み

18 あなたは、児童生徒の家庭学習を習慣化するため、どのようなことに取り組んでいますか。次の中から、取り組んでいることを2つ選び番号に○をつけてください。

1. 機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている
2. 家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している
3. 宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている
4. 学級通信などを利用して、家庭への啓蒙活動をしている
5. ほとんど取り組んでいない

### 【分析と考察】

それぞれの選択肢群についての  $\chi^2$  検定の結果、小学教師、高校教師については有意差が認められない（表V-5-①～③）。

しかし、小学校教師では「ほとんど取り組んでいない」の選択率は極めて低いのに対して、高校教師において、「ほとんど取り組んでいない」の選択率は前回と同様である。（表V-5-①, ③, 図V-5-①, ③）。家庭学習習慣化への取り組みが高等学校では進んでいないという状況が推察される。

中学校教師については、選択率の順位が入れ替わっており「3.宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている」が最も多く、2番目に多かった「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」との差が開いている（表V-5-②, 図V-5-②）。

児童生徒が、家庭学習の内容で、最も多く取り組んでいるのは宿題であることから、家庭学習定着のために宿題を出す意義は大きい。高等学校でもその点について今後検討し、家庭学習習慣化への手だてについて工夫改善を図っていく必要がある。

工夫・改善の例として、児童生徒の実態に合わせた、教師による問題集やワークシートの作成等が考えられる。シラバスなどを作成し、学習の流れを児童生徒に理解させることで、予習などに取り組みやすくすることも有効な方法であろう。また、家庭においてインターネットが普及していることから、当センターにおける教育情報共有システム等を活用した学習も考えられる。

〔表V-5-① 小学教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕

	前回 (H10)	今回 (H16)
1. 「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」群	②191 (28.6)	②100 (23.9)
2. 「家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している」群	③ 89 (13.3)	③ 64 (15.3)
3. 「宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている」群	①303 (45.3)	①200 (47.7)
4. 「学級通信などを利用して、家庭への啓蒙活動をしている」群	76 (11.4)	53 (12.6)
5. 「ほとんど取り組んでいない」群	10 (1.5)	2 (0.5)
	669 (100)	419 (100)

$\chi^2(4)=5.936$  n. s.

〔表V-5-② 中学教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕

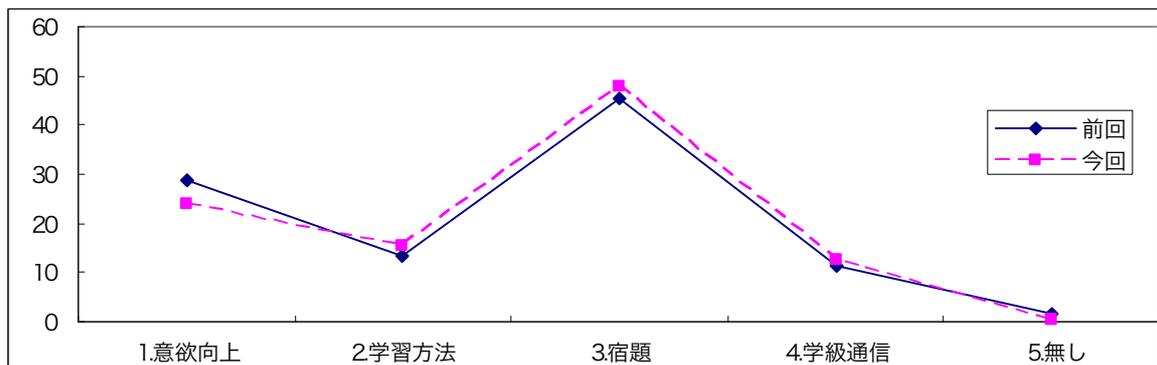
	前回 (H10)	今回 (H16)
1. 「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」群	①184 (35.0)	②129 (26.9)
2. 「家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している」群	③ 59 (11.2)	③ 64 (13.4)
3. 「宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている」群	②180 (34.2)	①199 (41.5)
4. 「学級通信などを利用して、家庭への啓蒙活動をしている」群	46 (8.7)	56 (11.7)
5. 「ほとんど取り組んでいない」群	57 (10.8)	31 (6.5)
	526 (100)	479 (100)

$\chi^2(4)=5.936$  p<.01

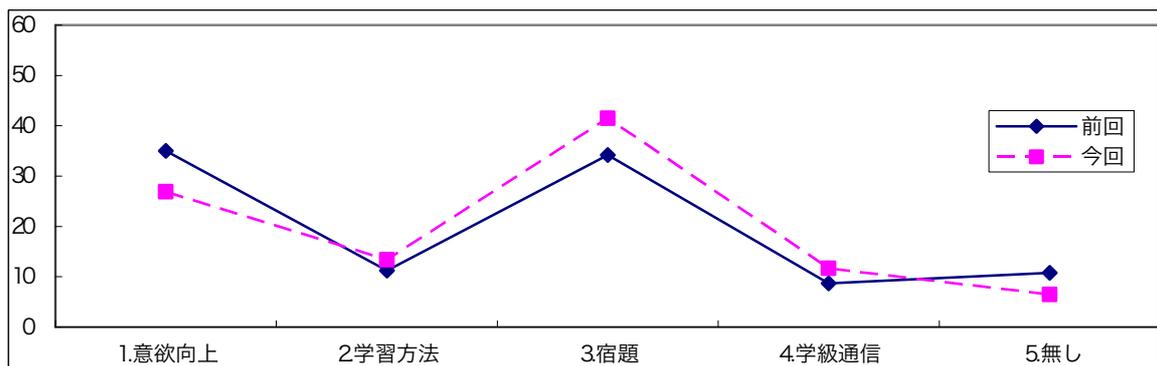
〔表V-5-③ 高校教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕

	前回 (H10)	今回 (H16)
1. 「機会あるごとに、学習意欲の向上を図っている」群	②153 (35.3)	②278 (35.0)
2. 「家庭学習の手引きなどを利用して、学習の仕方を指導している」群	28 (6.5)	58 (7.3)
3. 「宿題（課題）を出すとともに、点検活動もしている」群	①167 (38.6)	①298 (37.5)
4. 「学級通信などを利用して、家庭への啓蒙活動をしている」群	13 (3.0)	29 (3.6)
5. 「ほとんど取り組んでいない」群	③72 (16.6)	③132 (16.6)
	433 (100)	795 (100)

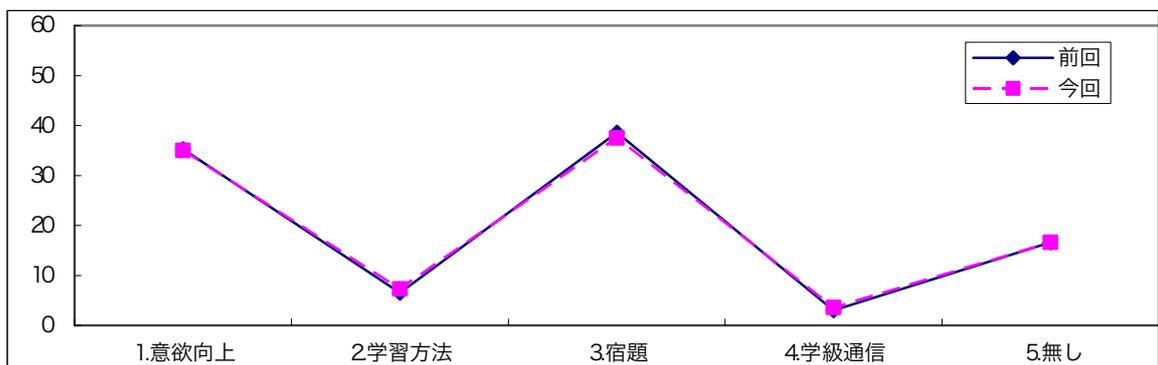
$\chi^2(4)=5.936$  n. s.



〔図V-5-① 小学校教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕



〔図V-5-② 中学校教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕



〔図V-5-③ 高校教師 家庭学習習慣化への取り組み内容〕

おわりに

本報告書において、児童生徒の学習意欲と学習習慣形成状況、教師による児童生徒の学習意欲認識状況等に関する前回調査結果との比較を交えた分析と考察を行った。

今回調査の結果、本県の児童生徒の学習意欲と学習習慣の状況について実態把握をするという所期の目的は達せられたと考える。

しかしながら、本報告書には不十分な点が多々あり、今後の調査研究を深めていくために忌憚のないご意見やご指摘を頂くことができれば幸いである。

最後に、本調査へ協力して頂いた調査協力校の児童、生徒及び教師をはじめとする多くの方々の御協力に感謝します。

沖縄県立総合教育センター  
プロジェクト研究委員会

## 参考文献

### 1 政府刊行物

- 文部科学省 『小学校学習指導要領』，2004  
同 『中学校学習指導要領』，2004  
同 『高等学校学習指導要領』，2004  
沖縄県立総合教育センター 『調査報告 児童生徒の学習に関する基本調査』，2000

### 2 研究書

- 内田治 『すぐわかるSPSSによるアンケート調査・集計・解析[第2版]』東京図書，2002  
下山剛 『学習意欲の導き方』，教育出版，1985  
酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』，日本能率マネジメントセンター，2003  
神宮英夫 『はじめての心理統計 統計モデルの役割と研究法を考える』，川島書店，1999  
田中敏，山際裕一郎 『新訂 ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版，1992  
福武直 『社会調査 補訂版』，岩波書店，1984  
ベネッセ教育研究所 『第3回学習基本調査報告書 小学生版』，ベネッセコーポレーション，2002  
同 『第3回学習基本調査報告書 中学生版』，ベネッセコーポレーション，2002  
同 『第3回学習基本調査報告書 高校生版』，ベネッセコーポレーション，2002

### 3 論文

- 島袋恒男，井上厚，嘉数朝子，前原武子 「沖縄県の児童の進路発達と学習の原因帰属に関する研究  
—CAMIによる学習意識と進路成熟の関係—」（『琉球大学教育学部紀要』第46集，1995）